

厚生労働省

平成 28 年度 障害者総合福祉推進事業

「地域における精神障害者に対する
国民の理解の深化及び家族支援の
方策に関する研究」についての報告

平成 29 (2017) 年 3 月

公益社団法人 日本精神保健福祉連盟

厚生労働省

平成 28 年度 障害者総合福祉推進事業

「地域における精神障害者に対する
国民の理解の深化及び家族支援の
方策に関する研究」についての報告

平成 29 (2017) 年 3 月

公益社団法人 日本精神保健福祉連盟

はじめに

公益社団法人日本精神保健福祉連盟では、平成 28 年度障害者総合福祉推進事業費補助金事業「精神障害者に対する国民の理解の深化及び家族支援」研究補助金を受託しました。

ここに、本研究の成果をまとめ報告するものです。

【研究の背景と目的】

1987 年の精神衛生法から精神保健法への改称・改正以降、地域における精神障害者に対する国民の理解の深化に関してこれまでの国の施策で積み上げてきたことには、3つの前進面があった。

第 1 に、欠格条項の見直しである。第 2 に、病名変更である。そして第 3 に、本格的な「こころのバリアフリー」を国民に呼びかけたことである。2004 年 3 月「心の健康問題の正しい理解のための普及啓発検討会」（厚生労働省）報告書では、「こころのバリアフリー宣言」として 8 項目を示した。民間活動では、公益社団法人全国精神保健福祉会（みんなねっと）が家族のニーズを基に、「私たち家族による 7 つの提言」（2010 年）を発表した。特に、偏見をなくす民間活動では、「シルバーリボンキャンペーン」、「精神障害者自立支援活動賞（リリー賞）」なども取り込まれ、精神障害者に対する国民の理解の促進に貢献してきている。

しかし、本来こうした活動は、それぞれの地域で取り込まれてこそ効果がある。地域における啓発活動は、あらゆる機会を通して精神疾患と精神障害の正確で全般的な情報を市民に発信し、広め、精神障害者への理解を促進し、誤解や偏見を除去・軽減することを目的としている。これにより精神障害者が同じ市民として同じ町に暮らし、日常生活のなかで市民同士としての出会いが多く積み重ねられることにある。しかしながら、国民の理解の深化をめざした各地域における様々な啓発活動は、その全国的な状況や到達点（評価）は報告されていない。単発的には、市民に向けたイベントを企画し開催する啓発活動、イベントを企画しプログラムを地域に出前する啓発活動、イベントを企画し協働する啓発活動、地域のマスメディアの協力の下に何らかのキャンペーンで行う啓発活動、施設の事業としての行事やバザーなど、イベント型、キャンペーン型、日常活動型が各地で散見されるが、その正確な実態すら把握されていない現状にある。

【研究のデザインとその結果】

調査研究委員会は、有識者、医療関係者、相談支援事業者、精神保健福祉相談員、精神障害当事者、家族など 10 名で組織した。

(1) 地域における啓発活動の実態把握に関する全国調査（第一次調査）の実施：保健所（悉皆調査）495 か所、相談支援事業者（無作為抽出で全国 300 か所）、地域家族会（無作為抽出で全国 300 か所）を実施した。

(2) 地域啓発活動と家族支援に関する好実践事例集の作成：10 か所の実践事例を本報告書に紹介した。

(3) 地域啓発活動と家族支援を行うために必要な支援に関する提言：研究成果にまとめた。

(4) 地域啓発活動に関する全国調査及び好実践事例の公開報告会を 3 月 24 日（金）に都内で実施した。

【今後の予定】

研究成果は、日本精神保健福祉連盟のホームページに掲載するとともに、報告書や事例集の一部は検討委員会の委員による論文や書籍として発表、刊行していく予定である。また、検討委員が分担または共同で、所属する関連専門学会で発表し、学術的にも貢献する。

ここに本研究に全面的にご協力頂いた公益社団法人全国精神保健福祉会連合会（みんなねっと）、全国精神保健福祉相談員会の皆様に感謝申し上げたい。そして、アンケート調査にご回答いただいたすべての施設、団体の皆様、実践事例のインタビューでお世話になった関係者の皆様にも心からお礼を申し上げます。また、こうした貴重な研究の機会を提供して下さった厚生労働省所管課にも改めて感謝申し上げ、報告書と致します。

目 次

「地域における精神障害者に対する国民の理解の深化及び家族支援の方策に関する研究」報告書	1
同研究（第一次調査）集計結果	21
地域啓発実践事例調査報告書	93
資料	129

「地域における精神障害者に対する国民の理解の
深化及び家族支援の方策に関する研究」

報 告 書

精神障害者に対する国民の理解の深化及び家族支援に関する研究

(文責：田中 英樹、呉 恩恵)

【抄録】

本研究では、地域における精神障害者に対する国民の理解の深化を目指した取り組みが実際どのように行われているのか、その効果をどのように評価するかを明らかにすると共に、地域における家族支援の実態を把握し、優れた実践を収集、分析し、今後の国民の理解を深める効果的な取り組みや家族支援の充実を推進することを目的とし、保健所、地域施設、家族会を対象に全国的なアンケート調査及び好実践事例の個別インタビュー調査を実施した。

研究の結果、地域における精神障害者に対する国民の理解の深化にどのような取り組みが行われているかの全体状況を大まかにではあるが把握できた。結論を述べると、差別や偏見の解消は依然困難な課題であることを示しているが、それだけに社会や国への要望や期待の高さも確認できた。また、全国で先進的とも思える実践事例が相当数存在することも確認できた。

【キーワード】

精神障害者、普及啓発活動、偏見と差別、精神障害者家族会、地域施設

1. 研究の背景と目的

1987年の精神衛生法から精神保健法への改称・改正以降、地域における精神障害者に対する国民の理解の深化に関してこれまでの国の施策で積み上げてきたことには、3つの前進面があった。

第1に、欠格条項の見直しである。1987年公衆浴場法改正、1993年栄養士、調理師、製菓衛生士、放射線技師、ケシ栽培許可法改正、1995年理美容法改正など、精神障害を理由に資格や行動を制限する規定(1991年の国レベルの法律や政省令では、44あったが、廃止や相対的欠格条項に大半は変更した)を改正した。

第2に、病名変更である。それまでの「精神分裂病」は否定的イメージを増殖させるために、わが国では2002年に「統合失調症」に病名が変更された。そして

法的にも、精神保健福祉法を2005年に改正し、第5条にある正式病名を「統合失調症」に変更した。

この2つの出来事は、精神障害者に対する国民の理解の深化を進める上で、制度環境面の大きな改善となった。

そして第3に、本格的な「こころのバリアフリー」を国民に呼びかけたことである。2004年3月「心の健康問題の正しい理解のための普及啓発検討会」(厚生労働省)報告書では、「こころのバリアフリー宣言」として、次の8項目を示した。

第1：精神疾患を自分の問題として考えていますか(関心)

第2：無理しないで、心も身体も(予防)

第3：気づいていますか、心の不調(気づき)

第4：知っていますか、精神疾患への正

しい対応（自己、周囲の認識）

第5：自分で心のバリアを作らない（肯定）

第6：認め合おう、自分らしく生きている姿を（受容）

第7：出会いは理解の第一歩（出会い）

第8：互いに支えあう社会作り（参画）

同時に、わが国における今後の精神保健福祉施策の方向性を示した「精神保健医療福祉の改革ビジョン」（2004年9月）では、「入院医療中心から地域生活中心へ」という考え方を基調に、①国民の理解の深化、②精神医療の改革、③地域生活支援の強化を向こう10年間進めていくとした。この中で、国民の理解の深化については、地域を拠点とする共生社会の実現「今後の精神保健医療福祉のあり方等に関する検討会」報告書（平成21年9月24日）において、より具体的に次のように述べている。

「国民の生活の本拠は住み慣れた地域であり、国民一人ひとりには、必要なサービスを選択し利用しながら、日々の生活を送っている。精神障害者も、当然に、国民・地域住民の一人として、結婚や子育て、就労など、本人が望む生活を安心して送ることができるような地域社会の構築が求められる。その意味で、医療、福祉等の支援についても、精神障害者の住み慣れた地域を拠点とし、精神障害者同士の支え合いを重視しながら、精神障害者と向き合う中で、本人の意向に即して、本人が充実した地域生活を送ることを見守り、応援するという理念の下で行われることが必要である」

一方、民間活動では、公益社団法人全国精神保健福祉会（みんなねっと）が家族のニーズを基に、「私たち家族による7つの提言」（2010年）を発表した。特

に、偏見をなくす全国的な民間活動では、「シルバーリボンキャンペーン」、「アンチ・スティグマ」シール（岡山）、「精神障害者自立支援活動賞（リリー賞）」なども取り込まれ、精神障害者に対する国民の理解の深化と促進に貢献してきている。

しかし、本来こうした活動はそれぞれの地域で取り込まれてこそ効果がある。地域における啓発活動は、あらゆる機会を通して精神疾患と精神障害の正確で一般的な情報を市民に発信し、広め、精神障害者への理解を促進し、誤解や偏見を除去・軽減することを目的としている。これにより精神障害者が同じ市民として同じ町に暮らし、日常生活のなかで市民同士としての出会いが多く積み重ねられることにある。地域啓発活動はそうした地域生活の土壌を耕すところに意義がある。

しかしながら、国民の理解の深化をめざした各地域における様々な啓発活動は、その全国的な状況や到達点（評価）は報告されていない。単発的には、市民に向けたイベントを企画し開催する啓発活動、イベントを企画しプログラムを地域に出前する啓発活動、イベントを企画し協働する啓発活動、地域のマスメディアの協力の下に何らかのキャンペーンで行う啓発活動、施設の事業としての行事やバザーなど、イベント型、キャンペーン型、日常活動型が各地で散見されるが、その正確な実態すら把握されていない現状にある。

次に、家族支援の方策に関する問題の所在を述べる。

2009年に行われた「早期支援・家族支援のニーズ調査報告書」（厚生労働科学研究こころの健康科学研究事業（岡崎班）（2011年））では、「精神疾患についての

正しい知識を学ぶ機会が事前にあったならば」、「病気に早く気づいて、早く治療につなげることができたならば」、「初期の治療の中断を防ぐことができたならば」、「家族がもっと早く、信頼できる専門家・仲間に出会えていたならば」、「家族が安心・健康な生活を取り戻すことができたならば」など「もしもをめぐる家族の思い」が報告されている。

かつて全国精神障害者家族会連合会（全家連）が行った2回の全国調査（1993年、1997年）、また、全国精神保健福祉会連合会が行った全国調査（2010年）でも、家族の高齢化や世代交代、家族自身の生活困難、日常的な孤立感が報告されているが、これらは今日でも深刻化はしてい

2. 事業内容及び手法

地域における精神障害者に対する国民の理解の深化及び家族支援の方策に関する研究に関する検討委員会を組織して、先行研究のレビュー及び精神保健医療福祉の既存データの収集と解析、関係機関にヒアリングした情報を共有する。次に、検討委員会における検討を踏まえてアンケート調査の設計を行う。そのために、2か所のプリテストを先に実施する。また、地域での啓発活動に取り組んでいる好事例を発掘するために、公益社団法人全国精神保健福祉会連合会や全国精神保健福祉相談員会の協力も得ながら、情報の収集と好事例の発掘及び現地調査を行う。なお、検討委員会は報告会を含めて4回開催する。また、後述するように各事業を担う班を組織するが、各班は独自の会議を2回実施する予定である。

予定する事業は次の3点が主要なものである。

るものの解消されていないと推測される。家族支援に熱心な医療機関や保健所、市町村などの地域では、日常的な家族相談、家族心理教育、家族のサポート教室、家族のセルフヘルプ活動などを支援しているが、これら家族支援の実態の把握も不十分な現状にある。

そこで、本研究では、地域における精神障害者に対する国民の理解の深化を目指した取り組みがどのように実際行われているのか、その効果をどのように評価するかを明らかにすると共に、地域における家族支援の実態を把握し、優れた実践を収集、分析し、今後の国民の理解を深める効果的な取り組みや家族支援の充実を推進することを目的とした。

- (1) 地域における啓発活動の実態把握に関する全国調査（第一次調査）を実施する。
- (2) 地域啓発活動と家族支援の取り組みに関する好事例集を作成する。
- (3) 地域啓発活動と家族支援を行うために必要な支援に関する提言を行う。

上記の事業内容を実施するために、検討委員会は調査事業の内容に即して3つの班に分担した。なお、本検討委員会は、有識者、医療関係者、相談支援事業者、精神保健福祉相談員、精神障害当事者、家族など10名で組織した。そのため、リリー賞受賞者である精神障害当事者、全国精神保健福祉会連合会、全国精神保健福祉相談員会、相談支援事業者などの協力と精神科医、保健師、精神保健福祉士、社会福祉士等の専門家の参加を得て、委員会を構成した。

3. 期待される事業の成果

(1) 全国的な実態が明らかにされ、地域啓発活動や関連した施策の有益な基礎資料を得ることができる。

(2) とりわけ、先進的な取り組みや好支援の事例が発掘され、地域啓発活動と

家族支援の今後の在り方に大きく寄与することが期待できる。

(3) 地域啓発活動と家族支援を行うために必要な支援等に関する提言により、各地での取り組みに貢献することが期待できる。

4. 全国調査（第一次調査）結果

(1) 調査の概要

1) 調査の目的

国民の理解の深化をめざした各地域における啓発活動は、その全国的な状況や到達点（評価）は報告されていない。また、家族支援の実態の把握も不十分な現状にある。よって、本調査は、地域啓発活動と家族支援の現状把握をすることで、施策の有益な基礎資料を得ることを目的とした。

2) 調査の対象

保健所（悉皆調査 480 か所）、障害者利用地域施設（無作為抽出による 300 か所）、地域家族会（無作為抽出による 300 か所）の計 1080 か所

3) 調査の方法

郵送による調査（記名自記式の質問紙調査）

4) 調査期間

平成 28 年 11 月 24 日から平成 28 年 12 月 23 日までの 1 か月

5) 回収結果

保健所 62.7% (301)、地域施設 40.3% (121)、地域家族会 50.3% (151)

合計有効回収率 53.1% (573)

なお、ブロック別（全国を 7 ブロックに分類）の回答結果は別紙にある表 2 の通りである。

6) 調査項目

別紙資料を参照

7) 調査結果を見る上での注意事項

・本文、表、グラフなどに使われる「n」は、各設問に対する回答数である。

・百分率（%）の計算は、小数第 2 位を四捨五入し、少数第 1 位まで表示した。

したがって、単数回答においても、四捨五入の影響で、%を足し合わせても 100%にならない場合がある。

・複数回答においては、%の合計が 100%を超える場合がある。

・回答数が 30 未満の場合、比率が上下しやすいため、傾向を見るにとどめ、本文中では触れない場合がある。

(2) 調査の結果

1) 回答結果：合計有効回収率 53.1%

(573) であった。施設別の回答結果は、保健所 301 (62.7%) が高く、次いで、家族会 151 (50.3%)、地域施設 121 (40.3%) の順となった。ブロック別回答結果では、関東が 154 (26.9%) と最も高く、北信越が 51 (8.9%) と最も低かった。ブロック別と施設種別のクロスでは、保健所は中国・四国、北海道・東北で 7 割を超えた回答であり、地域施設では九州・沖縄、北海道・東北が 5 割を超えた回答、また家族会は、甲州・東海、近畿の回答が 6 割近かった。

2) A. 病名呼称の変更による変化：施設種別では、全体で「1. 病名をご本人や

周りの人にも話しやすくなった」が52%と過半数の回答があった。次いで、「5. 病名が変わっても、病気の見方は以前と変わらない」が42%あった。「2. 病気の説明がしやすくなった」は、38%あった。

「3. 病気の理解がすすんだ」は18%、「4. 病気からの回復の可能性に期待が増えた」は10%と変化を感じる割合は少なかった。この傾向は、ブロック別、施設種別とも大差はなかった。

3) B. 事件報道などのマスコミ報道の変化:全体では、「3. 以前と変わらない」が295 (51.5%)と圧倒的に高い。また、家族会だけは、全体では、「2. 少しではあるが改善された」が44.4%と高かった。

「1. 大きく改善された」「2. 少しではあるが改善された」の合計は37.3%であるのに対し、「4. むしろ少し悪くなった」「5. 以前より相当、悪くなった」の合計は、8.9%と少ない。この傾向はブロック別でも同じであったが、家族会のみ関東及び近畿で「2. 少しではあるが改善された」がやや多かった。

「1. 大きく改善された」「2. 少しではあるが改善された」の合計は37.3%であるのに対し、「4. むしろ少し悪くなった」「5. 以前より相当、悪くなった」の合計は、8.9%と少ない。この傾向はブロック別でも同じであったが、家族会のみ関東及び近畿で「2. 少しではあるが改善された」がやや多かった。

4) C. 「精神保健医療福祉の改革ビジョン」では、達成目標の一つとして「精神疾患は生活習慣病と同じく誰もがかかりうる病気であることについての認知度を90%以上とする」と示しています。あなたの印象と認知度はビジョン通り進んでいると思いますか」の設問では、全体で「2. そう思わない」が91.8%と高く、「1. そう思う」は僅か7.5%であった。この傾向は、施設種別でもブロック別でも変化がなかった。

5) D. 精神障害者に対する差別や偏見の変化では、全体で「2. 少し良くなった」が51%、次いで、「3. 以前と変わらない」が41.9%であるが、「1. かなり良くなった」1.2%に対して「4. 少し悪くな

った」、「5. かなり悪くなった」の合計も4.2%と変化は僅かな改善という評価であった。また、種別では「家族会」が「3. 以前と変わらない」に46.4%と多く、「2. 少し良くなった」は46.4%であった。ブロック別でも「2. 少し良くなった」「3. 以前と変わらない」に評価は集中している。

6) E. 現在取り組んでいる内容のうち、1. 普及啓発活動では、全体で「3) 講演会・シンポジウム」が56%と唯一過半数である。その他、過半数の回答を種別で見ると、「5) 専門職向け研修会」は保健所が63%と高い。「1) 広報誌・機関紙への掲載」は、家族会(52%)が過半数であった。ブロック別では、「3) 講演会・シンポジウム」、「5) 専門職向け研修会」が都市部で高い傾向が見られた。「6) その他」の回答内容では、【保健所】では、街頭活動/会報・チラシ・パンフ・ポスター/自殺予防キャンペーン/庁舎内での掲示/嘱託医による精神保健相談/地方紙への記事掲載/地域有線放送の活用/行政関係部局への研修/看護大学生を就労継続B型事業所に受け入れてもらう/地域での健康まつりに啓発パネルを展示などの記述回答があった。【地域施設】では、街頭活動/地域交流事業/市と共同しての企画/DVD作成/職場相談、相談事業所相談などの記述回答があった。

【家族会】では、会報・チラシ・パンフ・ポスター/ピアサポーター(当事者)による啓発活動/家族会として活動/新聞への記事などの記述回答があった。

2. 当事者(家族を含む)とのふれあい(現在取り組んでいる)では、過半数の回答があった項目はなかった。全体で多い順では、「1) 体験発表」39%、「3) 市民向けの講演会やシンポジウムに当事

者が登壇」が30%で、後は20%以下、「2) 学校の授業にゲストスピーカーとして招く」は5%と少なかった。また種別回答では、家族会が「1) 体験発表」(47%)と最も多く、地域施設は「3) 市民向けの講演会やシンポジウムに当事者が登壇」(45%)が多かった。この傾向はブロック別でも大きな違いはなかった。その他の回答では以下の記述があった。

【保健所】大学生サークルによるデイケアでの演奏会／芸能・文化活動を通じた地域での発表会／精神科病院の患者・職員対象の地域生活報告会を開催／家族と当事者による家族教室／レクリエーション教育を通じた交流／個別支援、相談対応等／月1回交流会に参加／関係機関での連絡会等／地域移行へ向けた当事者の体験交流等／居場所支援／ピア体験活動／当事者・家族・ボランティア等の交流会／ピアサポート講座の講師／自助グループ活動への参画／当事者グループ、家族会主催講演会等への参加【地域施設】地域クラブ活動／家族学習交流会／大学生、実習生の受け入れ／バーベキュー／精神科病院の病棟でのピアサポート活動／ピアスタッフ雇用／町内の集会所でカフェをしています。／食事会を通じた地域交流会／ゲストを招き、地域の方に向けた地域交流会／地域子育て支援センターとの交流事業【家族会】定例会での懇談。学習会。家族交流会等／一般市民に対しての家族相談事業（市委託）／家族による家族学習会開催／作業所との交流・地域啓発交流会へ参加／精神科病院への面会／年賀状書き（当事者や家族へ）／当事者の居場所、仲間づくりの場を開設／つどいの広場での居場所において当事者及び家族とのふれあい

3. イベント活動（現在取り組んでいる）

る）では、全体で「2) 福祉まつり・健康祭り」が33%と最も高く、地域施設では54%と5割を超えている。全体の他の回答では、「1) 当事者参加でのバザー」が22%あるが、他は20%未満であった。他の項目で見ると、地域施設が「5) スポーツ大会」、「4) 夏祭り・盆踊り」で30%を超えていた。家族会は、「3) 障害者週間での行事」が26%と続いた。なお、保健所は、「2) 福祉まつり・健康祭り」以外は一桁の回答であった。この傾向はブロック別でも大きな違いはなかった。

その他の回答では、【保健所】旅行・食事・ゲーム等その他のレク／文化祭・文化交流会／各事業所合同開催のイベント／交流会開催／県：心の健康展／市町等各イベントに参加／自殺予防キャンペーン／商業まつり【地域施設】旅行・食事・ゲーム等その他のレク／文化祭・文化交流会／企業の勉強会への参加／ピア活動参加／企業の街頭キャンペーン参加／当事者のボランティアスタッフ参加／季節の行事／年間を通して当事者向けの様々なイベントの実施／地域へのポスティングをし無料衣料交換会を実施／市の福祉フェアへの参加【家族会】旅行・食事・ゲーム等その他のレク／病院祭等への参加／イベント参加しPRする（パネル展示、物販）などの記述があった。

4. 地域の組織化（現在取り組んでいる）では、「2) 家族会の支援」が62%、「5) 関係機関の連絡組織づくり」が56%と高い反面、「4) 市民型支援組織づくり」は3%と極めて少なく、「1) 精神保健福祉ボランティアの養成」が21%、「3) 当事者グループの支援」が33%とやや少ない。種別では、保健所が「2) 家族会の支援」(70%)「関係機関の連絡組織づくり」(59%)と高い。地域施設は、

「関係機関の連絡組織づくり」(70%)が
高く、次いで、「2)家族会の支援」(50%)
「3)当事者グループの支援」も47%と
ある。家族会は「2)家族会の支援」が
55%と高い。また、ブロック別では大差
がなかった。

その他の回答では、【保健所】医療・介
護関係者への働きかけ／行政への要望活
動／市町村支援【地域施設】行政機関へ
の働きかけ、県内市町村全て／相談支援
専門員への働きかけ／精神科医師への働
きかけ【家族会】医療・介護関係者への
働きかけ／行政への要望活動／家族会を
月一回実施／市町村より負担金もらう／
自治体へ医療費助成、通所費助成、ハイ
ヤー代助成／色々な行事他、団体へ等の
記述があった。

5. 社会への働きかけ（現在取り組ん
でいる）では、どの項目にも5割を超え
る回答はなかった。全体で最も高かった
項目は、「5)民生委員・児童委員への協
力依頼」の42%であった。次いで、「2)
知らせたい取り組みなどのマスコミ活用」
が26%、「6)教育機関への働きかけ」が
22%と続いた。「1)マスコミ報道への改
善申し入れ」(2%)「3)施設建設反対
運動への働きかけ」(3%)と少なかった。
種別回答では、保健所が「5)民生委員・
児童委員への協力依頼」(44%)が高く、
地域説では、「5)民生委員・児童委員へ
の協力依頼」(49%)に加え、「4)町内
会・自治会への協力依頼」(36%)と高か
った。また、家族会は、「5)民生委員・
児童委員への協力依頼」(33%)が高いほ
うであったが、他の項目では大差がな
かった。また、ブロック別でも同様の傾
向であった。

なお、その他の回答では、【保健所】医
療・介護関係者への働きかけ／行政への

要望活動／市町村支援【地域施設】行政
機関への働きかけ、県内市町村全て／相
談支援専門員への働きかけ／精神科医師
への働きかけ【家族会】医療・介護関係
者への働きかけ／行政への要望活動／家
族会を月一回実施／市町村より負担金も
らう／自治体へ医療費助成、通所費助成、
ハイヤー代助成／色々な行事他、団体へ
などの記述があった。

6. 国への要望（現在取り組んでいる）
では、全体で「5)精神障害者福祉手帳
サービスの改善」(22%)、「1)啓発普及
予算の増額」(18%)、「4)パンフレット
など啓発資料の作成」(14%)がやや多い
程度であった。逆に、「6)TVコマーシャ
ル」(7%)、「3)差別による被害の相談
と救済」(9%)は少なかった。種別回答
では、家族会が唯一、「5)精神障害者福
祉手帳サービスの改善」(41%)、「1)啓
発普及予算の増額」(32%)、「3)差別に
よる被害の相談と救済」(26%)が他の種
別回答よりも多かった。また、ブロック
別回答でも同じような傾向であった。

その他の回答では、【保健所】交通費助
成／人材確保施策／教育関連施策／障害
福祉サービスの充実／地域移行促進に向
けた関連事業への法定給付費引き上げ
【地域施設】精神科病院での長期入院患
者の退院阻害要因の調査【家族会】交通
費助成／人材確保施策／他障害との格差
解消／年金制度の改善／教育関連施策／
家族会で電話相談をしているが、赤字／
相談事業の実施、家族支援…かけこみ寺
の確保／市議会議員に協力を得て、家族
相談員制度の法制化に向けての国会請願
を行う等の記述があった。

7. その他（現在取り組んでいる）は、
いずれも記述回答であるが、主なものを
紹介すると次のようなものであった。

【保健所】保健所担当職員数の増加、精神保健福祉士の配置等、現場の体制強化を県庁本課に要望／長期入院者の地域移行支援／家族ピアサポートに対する理解と後押しを求める働きかけ／精神保健相談、通報対応、受診支援／精神障がい者が地域で生活することを支援する相談事業所等の困難事例の検討会等／障害者施設商品の積極的購入／ピアサポーターの養成【地域施設】精神科病院職員への研修（地域で生活する意味の理解と、病院での抱え込み弊害について）／自立支援協議会との連携【家族会】県連合会を通じて、相談員による電話相談活動／市町村への要望活動／当事者を支えている家族への支援（助成金の支援・行政職の理解や認知）／精神障害者の交通運賃割引実現に向けての取組み／毎年、市長、町長への要望活動／すべての支援、サービスの届かない人々への働きかけが重要と思います／県連の活動に協力して、三障害同等の医療費助成について、県に要望／自治体への協力依頼／行政窓口の充実（市役所などの相談窓口）／親亡き後の生活を自立して生活できるようにするために何を支援、補助が必要か、話し合いを続けている／精神障害を持つ家族による、家族のための相談会を第1・3木曜日に実施（一般向け、家族の精神障害に悩んでいる方を対象）／毎月当会家族の会員を主な対象とした、勉強会、茶話会、地域施設見学会等、定例会を実施している

E. 現在取り組んでいる内容（カテゴリ毎のまとめ）は、表 E-1 に示したが、以下の通りである。

全体の取り組みでは、「1. 普及啓発活動」(91%)、「4. 地域の組織化」(89%)、「2. 当事者（家族を含む）とのふれあ

い」(74%)が高い。また、「5. 社会への働きかけ」(68%)や「3. イベント活動」(63%)も6割以上で取り組まれている。しかし、「6. 国への要望」(43%)は意外と少ない。この傾向はブロック別でも同じであった。また、施設種別では、保健所は「1. 普及啓発活動」(92%)、「4. 地域の組織化」(91%)で高かった。地域施設はどのカテゴリーでも高い割合で取り組まれていた。「6. 国への要望」は家族会だけが72%と高かった。

7)F. 今後、実施したい取り組みでの内、1. 普及啓発活動では、「3) 講演会・シンポジウム」が50%の回答であった。次いで、「5) 専門職向け研修会」が42%であった。「1) 広報誌・機関紙への掲載」(36%)、「4) 出張授業・出前講座」(33%)、「2) ホームページへの掲載」(31%)などはやや低い。施設種別で見ると保健所では「2) ホームページへの掲載」が57%と高かった。地域施設では「2) ホームページへの掲載」が41%と他の施設種別よりも高かった。また、地域家族会では、「2) ホームページへの掲載」(19%)、「5) 専門職向け研修会」(24%)と低かった。ブロック別で見ても、この傾向は同じであった。

2. 当事者とのふれあいでは、全体で、「1) 体験発表」(37%)、「3) 市民向けの講演会やシンポジウムに当事者が登壇」(36%)が高く、「5) 市民と当事者が共催するイベント」(24%)、「6) 当事者による地域貢献活動」(23%)と続く。「4) スポーツを通じた地域住民との交流会」(16%)、「2) 学校の授業にゲストスピーカーとして招く」(11%)は低かった。これを施設種別で見ると、「1) 体験発表」は家族会(45%)で高く、「3) 市民向けの講演会やシンポジウムに当事者が登壇」

は、地域施設（40%）で高く、「5）市民と当事者が共催するイベント」「6）当事者による地域貢献活動」もそれぞれ44%、42%と期待は高かった。保健所はいずれも項目も高くなかった。この傾向はブロック別でも同様であった。

3. イベント活動は、全体に低い数値であった。全体では、3割以上は皆無であり、1番高い「2）福祉まつり・健康祭り」でも25%であった。施設種別では、「1）当事者参加でのバザーの実施」、「2）福祉まつり・健康祭り」が地域施設と家族会で30%を超えていた。ブロック別でも傾向に大差はなかった。

4. 地域の組織化では、全体で5割を超えたのは、「3）家族会の支援」で51%であった。次いで、「4）当事者グループの支援」(37%)、「2）家族への心理教育」(31%)と3割を超えた。施設種別では、保健所が「3）家族会の支援」で52%と高く、他は高くなかった。地域施設では、「4）当事者グループの支援」(46%)、「1）精神保健福祉ボランティアの養成」(43%)が高かった。家族会は、「3）家族会の支援」(61%)、「2）家族への心理教育」(43%)が高かった。ブロック別でも同様の傾向であった。

5. 社会への働きかけでは、全体で一番高かったのは、「5）民生委員・児童委員への協力依頼」(46%)で、これはどの施設種別でも1番高かった。次いで、「6）教育機関への働きかけ」(40%)、「2）知らせたい取り組みなどのマスコミ活用」(33%)が続くが、「1）マスコミ報道への改善申し入れ」(8%)、「3）施設建設反対運動への働きかけ」(4%)は低かった。施設種別（民生委員・児童委員を協力依頼を除いた項目）では、保健所が「5）民生委員・児童委員への協力依頼」が

44%とやや高く、地域施設が「4）町内会・自治会への協力依頼」(45%)、「6）教育機関への働きかけ」(42%)とやや高かった。家族会も地域施設と同様の傾向であった。この傾向はブロック別でも同様であった。

6. 国への要望では、全体で「5）精神障害者福祉手帳サービスの改善」が41%と高く、特に家族会では57%と高かった。次いで、「1）啓発普及予算の増額」が36%であった。施設種別でも高い項目は同じであった。「6）TVコマーシャル」は17%と低かった。ブロック別でも同様の傾向であった。

今後、実施したい取り組み（カテゴリー毎のまとめ）では、どの項目も高かったが、なかでも「1. 普及啓発活動」と「4. 地域の組織化」が共に84%と高かった。次いで、「2. 当事者とのふれあい」(76%)、「5. 社会への働きかけ」(75%)、「6. 国への要望」(71%)と続く。「3. イベント活動」は全体で57%と低かったが、地域施設では80%と高かった。施設種別でも全体の傾向は同じであったが、家族会では「4. 地域の組織化」と「6. 国への要望」が共に89%と最も高かった。ブロック別の傾向も同じであった。

8) G. 家族支援のために取り組んでいる内容では、全体で過半数を超えたのは、「1）新しい情報や制度の周知」(53%)であった。次いで、「4）地域家族会の支援」(49%)であった。保健所では、「2）家族支援教室の実施」も高かった。また、地域施設では「6）家族の集まれる場所や便宜の提供」(43%)も比較的高い数値が示された。

その他の回答（記述）では、【保健所】個別相談・個別支援／ブロック研修会への支援／医療機関や家族会等との連携

【地域施設】個別相談・個別支援／レスパイトケア／組織総会への参加【家族会】個別相談・個別支援／例会の場所（安定して）がほしい／1人暮らし障害者見守り／訪問看護制度の充実／家族相談の学習／家族会集会でのディスカッション／講演会等の実施等が表明された。

9) H. 家族支援に関する要望では、全体として「1) 新しい情報や制度の周知」(49%)、「7) 医療費等の経済的支援」(35%)、「4) 地域家族会の支援」(34%)が高かった。中でも家族会は「7) 医療費等の経済的支援」(60%)、「1) 新しい情報や制度の周知」(57%)、「4) 地域家族会の支援」(54%)の要望が高い。

10) 「I. 差別を解消するためのその他の意見」及び「J. その他（特に力を入れている事業をご紹介して下さい）」は記述式の自由回答のため、考察のところで分析結果を示す。

(3) 第一次調査の考察

1) 全体的特徴

①有効回答数 573 (53.1%) を得たことで、実際、地域における精神障害者に対する国民の理解の深化にどのような取り組みが行われているかの全体状況を大まかにではあるが把握できた。

②病名呼称の変更による変化では、病名についてご本人や周りに話しやすくなり、以前より改善したと評価した割合が多かったものの、病気そのものの見方も

大きく変わったとまでは言えないという評価であった。これは、統合失調症が病名変更によって「軽くなる」わけでも、「障害が改善」するわけでもないので、当然の評価であろう。

③事件報道などマスコミ報道に関しては、基本的には以前と変わらないという認識が高い。これは回答者にマスコミ報道に対する否定的な感情が払拭し得ていないことにも起因していると推測される。

④「精神保健医療福祉の改革ビジョン」で示された「誰でも雇うる病気という認識を90%以上」という目標の達成に関しては、「そうは思わない」という評価が91.8%と極めて高かった。これは現在の普及啓発活動の大きな遅れを示している。

⑤精神障害者に対する差別や偏見の変化では、「少し良くなった」と「以前と変わらない」に評価は大きく分かれているが、ここ数年だけでも精神保健福祉法の改正、障害者総合支援法、障害者虐待防止法、障害者差別解消法など一連の環境整備を進めてきたが、差別や偏見の解消は依然として困難な課題であることを示している。

精神障害者に対する差別や偏見の変化を被説明変数、現在取り組んでいる活動をそれぞれの分類で点数化し説明変数とし、重回帰分析（強制投入法、SPSS Statistics24）を行った。結果を表に示す。

表. 精神障害者に対する差別や偏見の変化に対する要因の効果

要因	標準化偏回帰係数	t 値	分散拡大係数
普通啓発活動	0.015	0.328	1.212
当事者とのふれあい	0.125*	2.412*	1.547
イベント活動	0.010	0.202	1.492
地域の組織化	0.069	1.417	1.360
社会への働きかけ	-0.112	-2.265	1.418
国への要望	0.053	1.205	1.137

* $p < 0.05$, $R^2 = 0.029$, 調整済み $R^2 = 0.018$

自由度調整済み決定変数は 0.018 と低いものの、標準化偏回帰係数から当事者とのふれあいが大きな影響を与えている。また、統計的に有意ではなかったものの社会への働きかけは負の影響を与えていることが分かった。分散拡大係数の値から、多重共線性は回避できたものと考えられる。

⑥ 今回の分析では、施設種別及び全国を 6 ブロックに分けて地域による違いがあるかも検討した。施設種別では、保健所、地域施設、家族会に特徴的な項目も示されたが、地域別の特徴には大きな差異はなかった。なお、施設種別の特徴は調査結果で個々に示した通りである。

⑦ 「現在取り組んでいる内容」と「今後、実施したい取り組み」の比較を考察してみたい。

1. 普及啓発活動は、全体としていずれの項目でも、「今後、実施したい取り組み」は「現在取り組んでいる内容」よりも低い数値であった。しかし、家族会のみは「4) 出張授業・出前講座」「5) 専門職向け研修会」で、「現在」よりも「今後」の数値が高かった。これは家族の立場や思いを地域住民や専門職に理解してもらいたい気持ちの現れであろう。また、保健所は当然のことであるが、専門職向

け研修会や講演会等への取り組みの割合が高かった。地域施設は、ホームページが整備されてきており、広報誌も発行しているところが多いためか、今後の取り組みでの数値はそれほど高くはない。

2. 当事者（家族を含む）とのふれあいでは、全体で「現在」、「今後」共に「1) 体験発表」、「3) 市民向けの講演会やシンポジウムに当事者が登壇」が 30% 台と高かった。次いで、「5) 当事者による地域貢献活動」、「2) 学校の授業にゲストスピーカーとして招く」は「現在」よりも「今後」に高い数値を示した。施設種別では、地域施設が「4) スポーツを通じた地域住民との交流会」に「現在」、「今後」共に他の施設種別より高い 31% を示した。当事者や家族は体験発表など「話を聞いてもらいたい」志向性が高く、地域施設はスポーツなど具体的な活動場面での地域住民との交流に志向性が高いという特徴が表れた。

3. イベント活動では、全体で「現在」より「今後」が僅かであるが上回った項目は、「6) 公演・映画会・絵画展」、「3) 障害者週間での行事」の 2 つであった。また「今後」においても数値が一番高かったのは、「2) 福祉まつり・健康祭り」の 25% であった。施設種別では、地域施

設に「2) 福祉まつり・健康祭り」への期待が高く、「1) 当事者参加でのバザー」へは、家族会と地域施設に「現在」、「今後」とも期待が高かった。

保健所は全体的にイベント活動は少ないが、地域施設は活動する機会が多いことが示された。

4. 地域の組織化では、全体で「現在」も「今後」も最も高い数値を示したのは、「2) 家族会の支援」(現在が62%、今後が51%)であった。また、「現在」より「今後」が上回ったのは、多い順から「3) 当事者グループの支援」、「1) 精神保健福祉ボランティアの養成」、「4) 市民型支援組織づくり」であった。施設種別で見ると、保健所は家族支援に期待値が高く、地域施設は当事者グループへの支援に期待値が高かった。

しかしいずれも「4) 市民型支援組織づくり」への期待感に距離があったのも特徴である。

5. 社会への働きかけでは、すべての項目で「現在」より「今後」も数値が上回った。「今後」で多い順は、「5) 民生委員・児童委員への協力依頼」(46%)、「6) 教育機関への働きかけ」(40%)、「2) 知らせたい取り組みなどのマスコミ活用」(33%)、「4) 町内会・自治会への協力依頼」(27%)であった。民生委員・児童委員は実際地域で協力し合っている施設も多い。教育機関との協力関係は地域施設と家族会の期待が高い表れであろう。「1) マスコミ報道への改善申し入れ」、「3) 施設建設反対運動への働きかけ」は僅か1桁台であった。これは、マスコミに対する不信感や諦め、警戒感の表れと思われる。また、「施設建設反対運動への働きかけ」の数値の低さは、反対運動という地域事例が減少したことも影響し

ており、後退したという意味ではないと推測される。

6. 国への要望では、社会への働きかけと同様にすべての項目で「現在」より「今後」も数値が上回った。全体で多い順から、「5) 精神障害者福祉手帳サービスの改善」(41%)、「1) 啓発普及予算の増額」(36%)、「2) 差別・偏見の実態調査」(25%)、「4) パンフレットなど啓発資料の作成」(24%)、「3) 差別による被害の相談と救済」(22%)、「6) TV コマーシャル」(17%)であった。施設種別では、保健所はやや控えめで、すべての項目で家族会の数値が一番高かった。それだけ家族の思いが国への要望に表れていると思われる。

2) 自由回答及びその他の要望に関する分析

○分析方法

質問紙の中、自由記述の質的データ解析は、KH Coder 安定版を用い、テキストマイニングの手法で分析した。自由記述から得られたテキスト型データの構成要素を抽出するため、句読点、助詞、特殊記号を除いた。

得られた構成要素のうち頻度5以上のもの(閾値=5以上)を対象に対応分析を行った。次に対応分析で得られた成分スコアをもとにクラスター分析を行い、各クラスターの特徴から差別解消を構成する概念を導き出した。

○結果

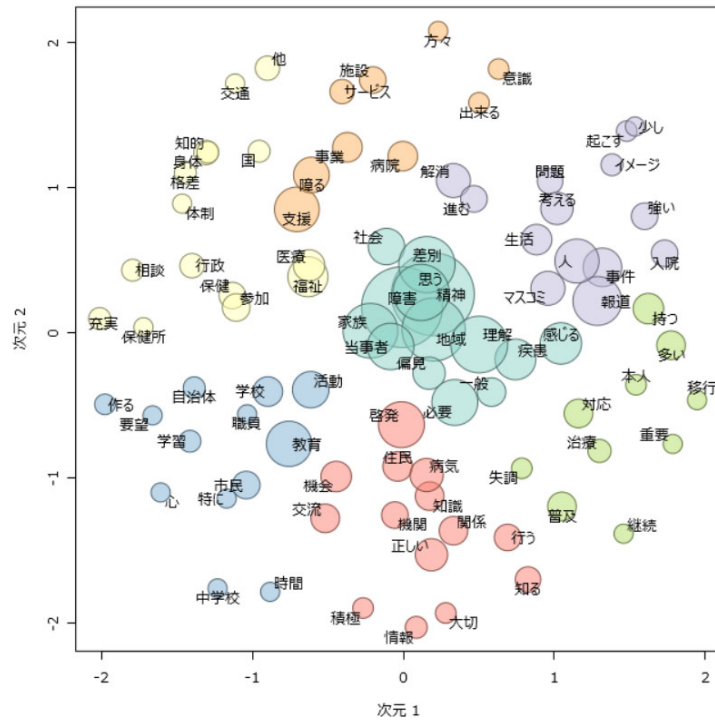
質問G.「差別を解消するためのその他の意見(特記事項や要望など)」については、200名からの回答があった。総抽出語数(使用)は8,983(4,008)で異なり語数(使用)は1,430(1,154)であった。集計単位として、文は569ケース、段落は199ケースである。

閾値が5以上の構成要素は90であった。その中、出現頻度の高かった順に並べると、「精神」、「障害」が100回以上、「地域」、「理解」、「差別」、「家族」が50

回以上であった。＜表1＞は、閾値20以上の構成要素である。閾値5以上を対象に行った対応分析の結果が＜図1＞である。

＜表1＞質問Gの構成要素（閾値）

構成要素	構成要素数
精神	123
障害	117
地域	71
理解	57
差別	56
家族	53
報道	42
当事者	38
啓発	37
教育	36
支援	35
福祉	28
事件	26
社会	23
活動	23
マスコミ	20
解消	20



＜図1＞差別解消抽出語因子分析

対応分析で得られた成分スコアをもとにクラスター分析を行った結果、「差別解消」について大きく6つのクラスターに分類できる。

クラスター1（青色）は、精神、障害、家族、当事者、地域という構成要素によって表れたことから「差別解消の主体」と名付けた。クラスター2（紫色）は、マスコミ、問題、事件、報道、イメージという構成要素によって表れたことから「マスメディアのあり方への要望」と名付けた。クラスター3（オレンジ色）は、施設、サービス、病院という構成要素によって表れたことから「医療福祉サービスへの要望」と名付けた。クラスター4（黄色）は、体制、交通、格差、行政、保健という構成要素によって表れたことから「制度政策への要望」と名付けた。クラスター5（空色）は、自治体、学校、市民、教育という構成要素によって表れ

たことから「地域組織の教育への要望」と名付けた。クラスター6（ピンク色）は、啓発、病気、知識、交流、関係という構成要素によって表れたことから「交流や啓発活動への要望」と名付けた。

図1の左側寄りには組織へ、右側寄りには個人への働きかけの傾向が表れた。また、上側寄りにはフォーマルサービスへ、下側寄りにはインフォーマルサービスへの要望の傾向が表れた。

質問I。「その他（特に力を入れている事業を紹介して下さい）」については、153名からの回答があった。総抽出出語数（使用）は5,495（2,524）で異なり語数（使用）は1,094（853）であった。集計単位として、文は390ケース、段落は152ケースである。

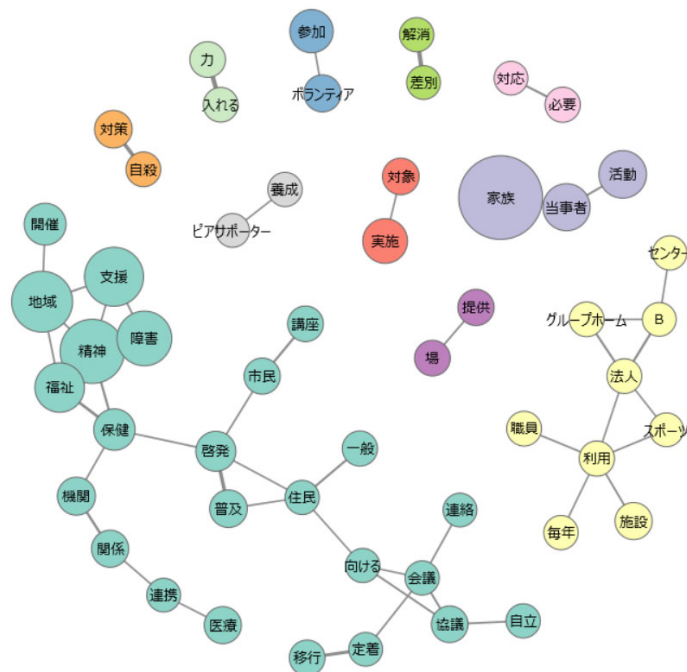
閾値が5以上の構成要素は73であった。その中、最も出現頻度の高かった順に並べると、「家族」が100回以上、「精

神」、「地域」、「支援」が 50 回以上であった。〈表 2〉は、閾値 20 以上の構成要素

である。閾値 5 以上を対象に行った対応分析の結果が〈図 2〉である。

〈表 2〉質問 I の構成要素（閾値）

構成要素	構成要素数
家族	110
精神	69
地域	62
支援	58
障害	49
事業	43
福祉	38
活動	34
当事者	33
実施	28
参加	25
開催	22
相談	22
保健	21



〈図 2〉その他 抽出語共起ネットワーク

対応分析で得られた成分スコアをもとに抽出語共起ネットワークを行った結果、「啓発活動事業」については、家族、当事者の活動が強く繋がっている。また、利用、職員、施設、スポーツ、法人が強く繋がっている。その他、ボランティア、自殺対策が行われていることが表れた。

特徴的なことは、「保健」という抽出語が「精神、障害、福祉、地域、支援」と「機関、医療、連携」、「啓発、普及、市民、住民、一般」を結びつけていて講座や会議、連絡と繋がっている。

○考察

テキストマイニングによるテキストデータの分析から「差別を解消するためのその他の意見（特記事項や要望など）」については、「差別解消の主体」、「マスメディアのあり方への要望」、「医療福祉サービスへの要望」、「制度政策への要望」、「地域組織の教育への要望」、「交流や啓発活動への要望」と大きく6つのクラスターに分類できた。

差別解消の主体は、精神障害者、家族、地域であり、学校や自治体等の地域組織、国や行政への働きかけと住民や当事者本人への積極的な働きあるいは働きかけが求められている。また、学習や交流の機会を通して正しい知識普及や情報発信の必要性、地域での関係性をつくることにより差別解消につながるということが明らかになった。加えて、国への要望とし

て他の障害や地域による格差を指摘し、サービスを充実することにより社会参加が増えるという意見と、行政（保健所）から地域の事業団体や病院と協力しながら啓発活動に取り組むことを望んでいることがわかった。マスメディアに関しては、否定的な抽出語により構成されていることにより、報道のあり方について改善を求めている。一方、マスコミが理解という抽出語の近くに置かれているのを見ると精神障害者の理解の手助けの手段としての活用を望んでいる。

「その他の特に力を入れている事業」から見ると保健活動として地域の組織や住民の個人向けの講座、関係機関との連携に力を入れていることがわかった。ところが、家族会の活動は独立して行っているように見える。質問Gの差別解消への要望の中、地域の中での交流の場や機会については、質問Iの力を入れている事業としても表れているが、マスメディアや国への要望はあって重要視されていても現在、力を入れている事業としては表れなかった。

今回の調査は、保健所、福祉施設、家族会への質問紙調査の一部である記述項目についての結果である。回答者の所属ごとに区分して分析することでそれぞれの特徴が見られたと考えられるが、自由記述であるため母数が少ないので区分しないことにした。

5. 実践事例調査（第二次調査）

（1）調査の概要

地域における好実践事例の調査は個別インタビュー調査で実施した。その方法は、先に第一次調査で後日のインタビュー調査の受け入れ可否を確認した。回収

した531か所中、「可」とした施設・団体は52か所と全体の約1割であった。アンケートの記入結果、自由回答や意見を含めて積極的に記入されている中から15か所に絞り、メール・電話等での問い合わせ・確認を経て13か所を選定した。し

かし、日程などの調整がつかず断念したところもあり、結果として10か所を検討委員が分担して現地視察の上、インタビュー調査した。なお、個別の調査結果は

分担した各担当者が報告をした。

(2) 調査結果と考察

(93頁以降に記述)

【全体考察—結論に代えて】

ここでは、数量的な全国調査（第一次調査）と10か所の実践事例調査（第二次調査）を総合的に考察するとともに、地域啓発活動と家族支援に関する提言を行いたい。

1) キーワードとその連関

両調査に共通したキーワードは、地域・教育・交流・マスコミ・制度施策であった。そして、そのいずれもが精神障害当事者、家族、専門家や支援者など様々な主体からの対象（地域住民、教育機関、マスコミ、行政など）への「働きかけ」で実践が成り立っていた。

第1は、地域への働きかけである。地域は、民生委員・児童委員や町会・自治会、商店街など地縁的な組織や福祉関係者と結びつくことが基本となっている。とくに地域では福祉の窓口役ともいえる民生委員・児童委員への協力依頼が一番多いように、期待が高い。地域との結びつきを強めるための日常的な活動では、町会・自治会への加盟、地域の清掃活動や挨拶などの声かけ、防災活動などの参加があった。また夏祭り、盆踊り、運動会、餅つき大会など地域行事への参加も行われていた。進んだ実践事例では、「地域公開セミナー」、「ボランティア講座」、「お茶の間活動」や「まちづくり会議」など精神障害者を排除しない地域共生社会づくりも見られた。これらの実践では、精神障害者のことを「理解してもらいたい」という一方向のアプローチではない。地域住民のニーズを理解して、地域住民に役立つサービスを提供するなど双方向のアプローチがされていた。こうして地域での信頼関係を育むことでごく自然な地域啓発をする大切さを確認することができた。

第2に、教育機関への働きかけである。小学校・中学校・高校・専門学校・大学など生徒・学生そして教師や教育行政への働きかけである。精神障害当事者の出前講義、ゲストスピーカー、実習体験、ボランティア協力依頼などである。進んだ活動では、学校側との日常的な連携、教育プログラムや教材作りなども行われていた。この活動は単に生徒・学生に精神疾患と精神障害の理解を促すだけではなく、その親や家族にも波及させる相乗効果が期待されるものであった。そして第1の地域への働きかけと第2の教育機関への働きかけが合流したところが、交流・ふれあいの場であろう。これは、演劇、映画、書道・写真・絵画などのアート展、音楽演奏、スポーツ交流など文化スポーツ活動、地域住民が利用するカフェ・レストランなど交流の場づくりなどインクルーシブな地域づくりを志向している。

第3に、マスコミへの働きかけである。精神障害者に対する国民の理解の深化でマスコミの影響、したがってその果たす役割はあまりにも大きい。事件報道の改善を粘り強く申し入れ、是正していく取り組みは重要である。また、学校や地域での生徒・学生や地域住民と一緒にしている活動の積極的な紹介などマスコミの果たすアナウ

ンス効果は高い。

第4に、行政への働きかけである。研究結果の報告を兼ねた公開研究会では、行政への不満と期待の発言が多く寄せられた。国と自治体に対しては、精神障害者保健福祉手帳に伴うサービスの改善（他の障害者手帳サービスとの格差是正）、医療費の経済的負担の軽減である。また、保健所への期待の声も多い。しかし、保健所では精神保健福祉相談員を必置としていないことや、福祉施策の市町村移管に伴い、そのあり方が問われている。こうした中、仙台市や浜松市、岡山市に見られるように自治体が効果的な普及啓発活動を進めるために、普及啓発事業の委託や補助金、奨励金など何らかの形で支援していくことも重要であろう。

2) 家族支援に関して

今回の調査では、家族支援の実態把握や優れた実践の発掘と普及も目的とした。しかし、調査の対象は個々の家族ではなく、家族会であった。そのため個別の家族の現状やニーズを把握することが出来なかったことを最初にお断りしておきたい。家族支援では、新しい情報や制度の周知、保健所・市町村での家族支援教室の実施、家族の集まれる場所や便宜の提供、医療費等の経済的支援、地域家族会の支援など行政や専門職への要望が高かった。県連や単位家族会でも日常的な交流、行事活動、学習会、関係機関との連携、行政交渉など多様な活動はなされているが、家族の高齢化に伴う活動の停滞、組織の脆弱化などの課題も抱えており、精神障害者のための家族という視点だけではなく、家族自身を正面から支援する家族支援を関係者が強めることも重要であろう。

3) 提言

最後に、地域における精神障害者に対する国民の理解の深化及び家族支援に関わる制度・施策に関して、以下の提言をして結びとする。

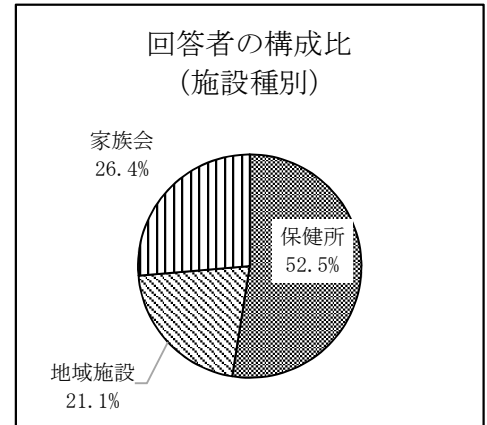
- ① 義務教育機関及び高等教育機関において、精神疾患と精神障害に関する理解を促す教育機会の提供を実施する。そのための副読本を開発する。
- ② 都道府県及び市町村は、従来実施してきた講演会などの普及啓発のあり方を見直し、精神障害当事者や家族、支援者等による体験談や交流など効果的な普及啓発の予算化を図る。
- ③ 精神障害者保健福祉手帳に関わるサービスの現状について実態把握に努めるとともに、他の障害者手帳（身体障害者手帳、療育手帳）との格差を是正する。
- ④ マスコミ報道のあり方に関する有識者会議を設置し、事件報道等の検証を実施していく。
- ⑤ 精神障害者に対する国民の理解の深化に関わる地域での交流や教育機関との結びつきで、優れた実践事例を国が公益社団法人、公益財団法人等を通して顕彰すること。
- ⑥ 地域における民生委員・児童委員を対象とした研修では、精神疾患と精神障害に関する基礎知識の提供の機会を設けること。
- ⑦ 保健所及び市町村社会福祉協議会等と連携し、市町村における精神保健福祉ボランティア養成講座の実施に努めること。

同研究（第一次調査）集計結果

平成28年度厚生労働省障害者総合福祉推進事業費補助金事業
「精神障害者に対する国民の理解の深化及び家族支援」に関する取り組みの実態調査

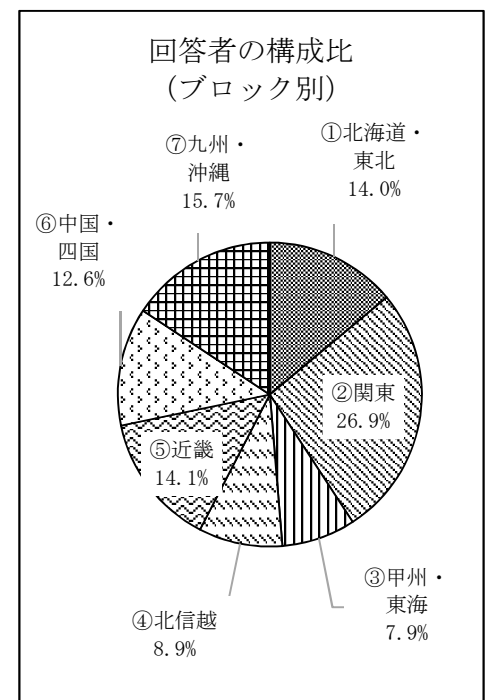
施設種別の回答状況

	回答数	構成比	配布数	回答率
保健所	301	52.5%	480	62.7%
地域施設	121	21.1%	300	40.3%
家族会	151	26.4%	300	50.3%
合計	573		1080	53.1%



ブロック別の回答状況

		回答数	構成比
①北海道・東北	北海道、青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県	80	14.0%
②関東	茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県	154	26.9%
③甲州・東海	山梨県、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県	45	7.9%
④北信越	新潟県、富山県、石川県、福井県、長野県	51	8.9%
⑤近畿	滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県	81	14.1%
⑥中国・四国	鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県、徳島県、香川県、愛媛県、高知県	72	12.6%
⑦九州・沖縄	福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県	90	15.7%



ブロック×施設種別の回答率

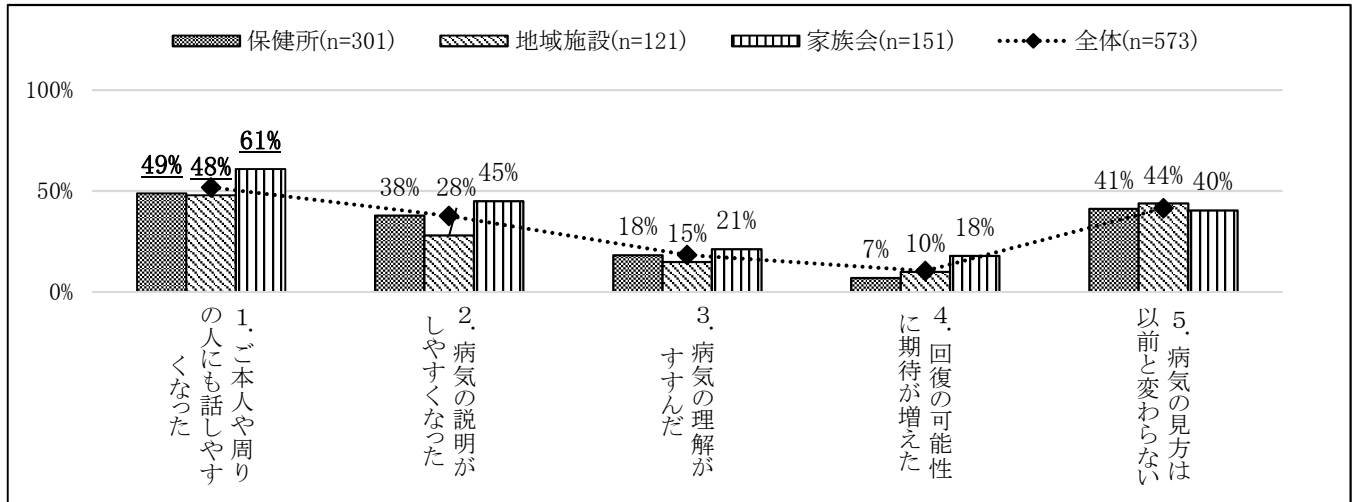
	保健所			地域施設			家族会		
	回答数	配布数	回答率	回答数	配布数	回答率	回答数	配布数	回答率
①北海道・東北	57	76	75.0%	16	32	50.0%	7	17	41.2%
②関東	56	103	54.4%	37	102	36.3%	61	122	50.0%
③甲州・東海	30	61	49.2%	8	21	38.1%	7	12	58.3%
④北信越	25	40	62.5%	7	18	38.9%	19	43	44.2%
⑤近畿	34	63	54.0%	18	47	38.3%	29	50	58.0%
⑥中国・四国	43	56	76.8%	16	46	34.8%	13	28	46.4%
⑦九州・沖縄	56	81	69.1%	19	34	55.9%	15	28	53.6%

A 病名呼称(2003年;精神分裂病から統合失調症へ)による変化(複数回答可)

【施設種別】

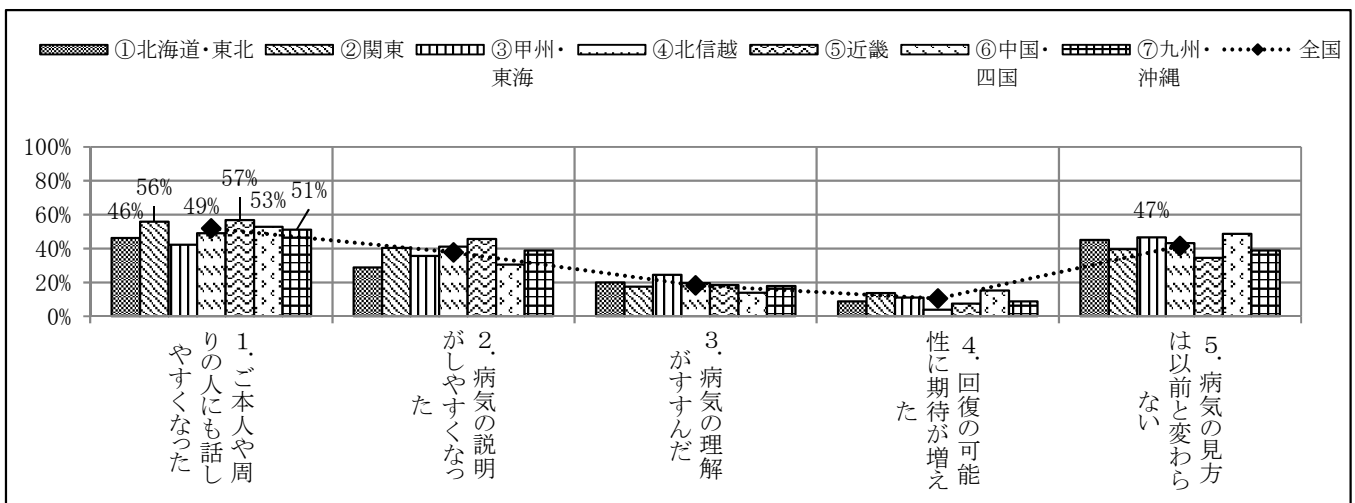
	1. 病名をご本人や周りの人にも話しやすくなった	2. 病気の説明がしやすくなった	3. 病気の理解がすすんだ	4. 病気からの回復の可能性に期待が増えた	5. 病名が変わっても、病気の見方は以前と変わらない
保健所 (n=301)	147	114	55	21	124
地域施設 (n=121)	58	34	18	12	53
家族会 (n=151)	92	68	32	27	61
全体 (n=573)	297	216	105	60	238

*太字で下線付きの数値はそのカテゴリーの最多回答を示す(以下同様)



【ブロック別】

	1. 病名をご本人や周りの人にも話しやすくなった	2. 病気の説明がしやすくなった	3. 病気の理解がすすんだ	4. 病気からの回復の可能性に期待が増えた	5. 病名が変わっても、病気の見方は以前と変わらない
①北海道・東北 (n=80)	37	23	16	7	36
②関東 (n=154)	86	62	27	21	61
③甲州・東海 (n=45)	19	16	11	5	21
④北信越 (n=51)	25	21	10	2	22
⑤近畿 (n=81)	46	37	15	6	28
⑥中国・四国 (n=72)	38	22	10	11	35
⑦九州・沖縄 (n=90)	46	35	16	8	35
全国 (n=573)	297	216	105	60	238



*上のグラフで値のあるものはそのカテゴリーの最多回答を示す

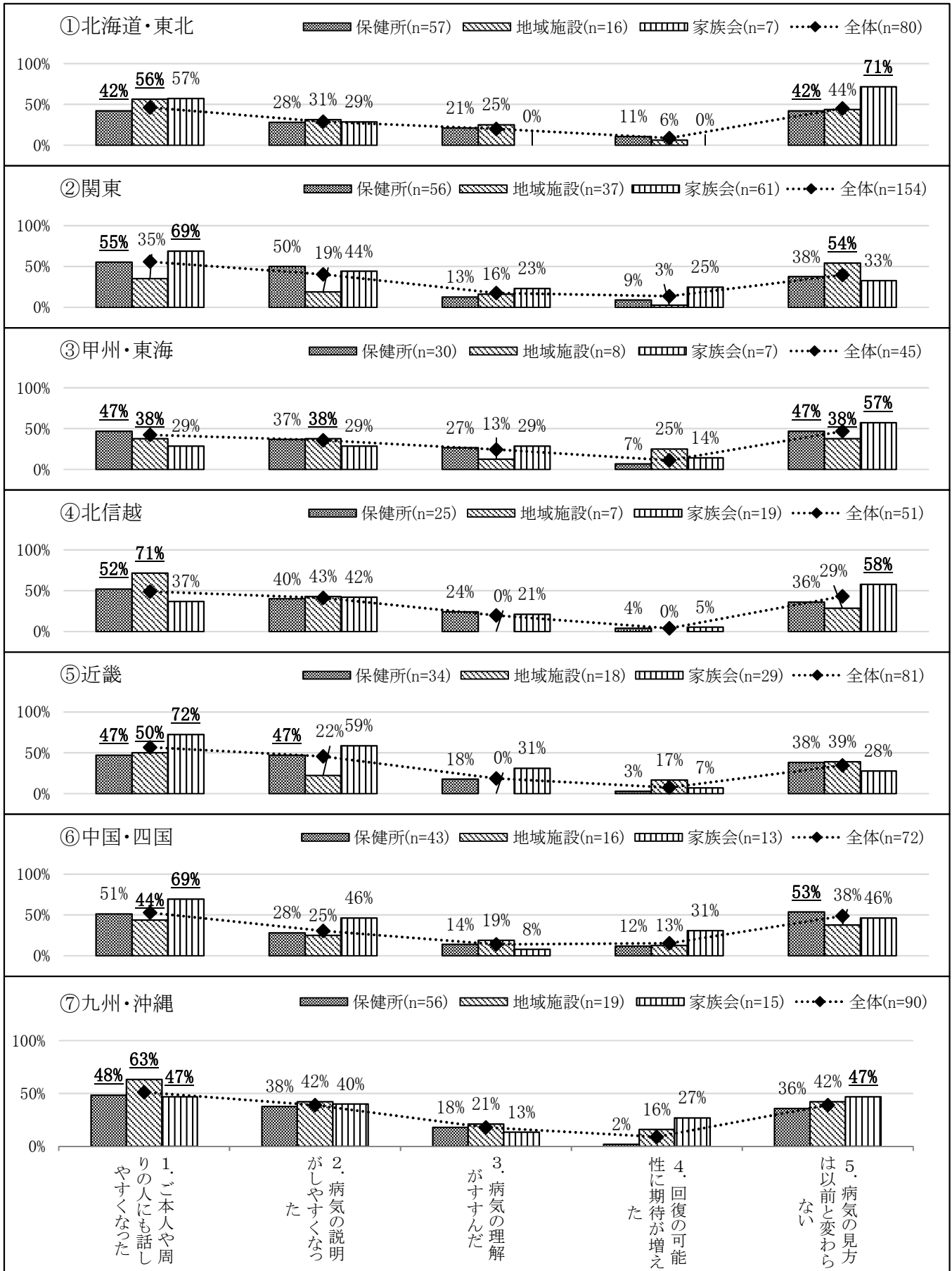
A 病名呼称(2003年;精神分裂病から統合失調症へ)による変化(複数回答可)

【ブロック×施設種別】

		1. 病名をご本人や周りの人にも話しやすくなった	2. 病気の説明がしやすくなった	3. 病気の理解がすすんだ	4. 病気からの回復の可能性に期待が増えた	5. 病名が変わっても、病気の見方は以前と変わらない
①北海道・東北	保健所 (n=57)	<u>24</u>	16	12	6	<u>24</u>
	地域施設 (n=16)	<u>9</u>	5	4	1	7
	家族会 (n=7)	4	2	0	0	<u>5</u>
	全体 (n=80)	<u>37</u>	23	16	7	36
②関東	保健所 (n=56)	<u>31</u>	28	7	5	21
	地域施設 (n=37)	13	7	6	1	<u>20</u>
	家族会 (n=61)	<u>42</u>	27	14	15	20
	全体 (n=154)	<u>86</u>	62	27	21	61
③甲州・東海	保健所 (n=30)	<u>14</u>	11	8	2	<u>14</u>
	地域施設 (n=8)	<u>3</u>	<u>3</u>	1	2	<u>3</u>
	家族会 (n=7)	2	2	2	1	<u>4</u>
	全体 (n=45)	19	16	11	5	<u>21</u>
④北信越	保健所 (n=25)	<u>13</u>	10	6	1	9
	地域施設 (n=7)	<u>5</u>	3	0	0	2
	家族会 (n=19)	7	8	4	1	<u>11</u>
	全体 (n=51)	<u>25</u>	21	10	2	22
⑤近畿	保健所 (n=34)	<u>16</u>	<u>16</u>	6	1	13
	地域施設 (n=18)	<u>9</u>	4	0	3	7
	家族会 (n=29)	<u>21</u>	17	9	2	8
	全体 (n=81)	<u>46</u>	37	15	6	28
⑥中国・四国	保健所 (n=43)	22	12	6	5	<u>23</u>
	地域施設 (n=16)	<u>7</u>	4	3	2	6
	家族会 (n=13)	<u>9</u>	6	1	4	6
	全体 (n=72)	<u>38</u>	22	10	11	35
⑦九州・沖縄	保健所 (n=56)	<u>27</u>	21	10	1	20
	地域施設 (n=19)	<u>12</u>	8	4	3	8
	家族会 (n=15)	<u>7</u>	6	2	4	<u>7</u>
	全体 (n=90)	<u>46</u>	35	16	8	35

A 病名呼称(2003年;精神分裂病から統合失調症へ)による変化(複数回答可)

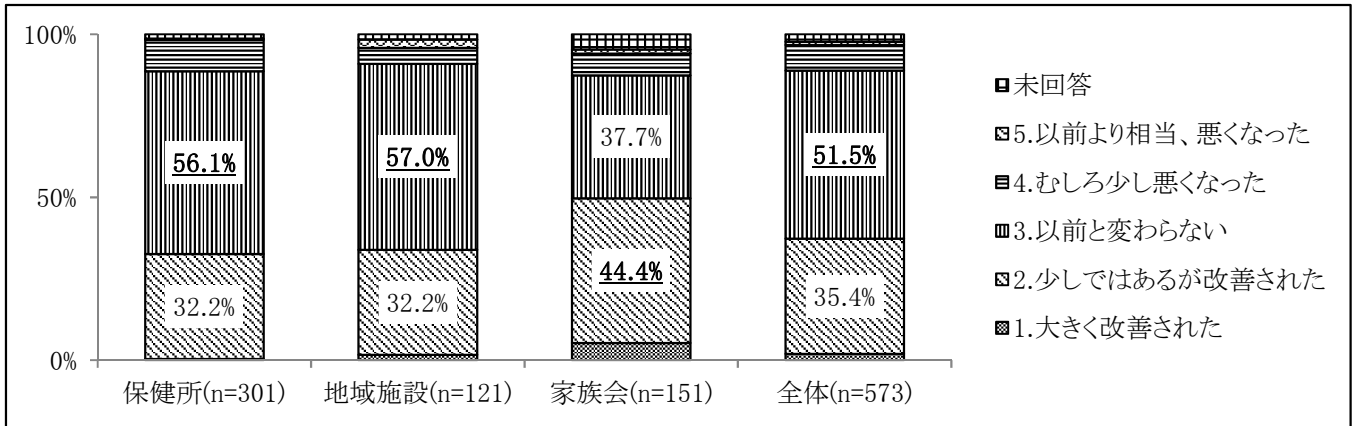
【ブロック×施設種別】



B 事件報道などのマスコミ報道の変化

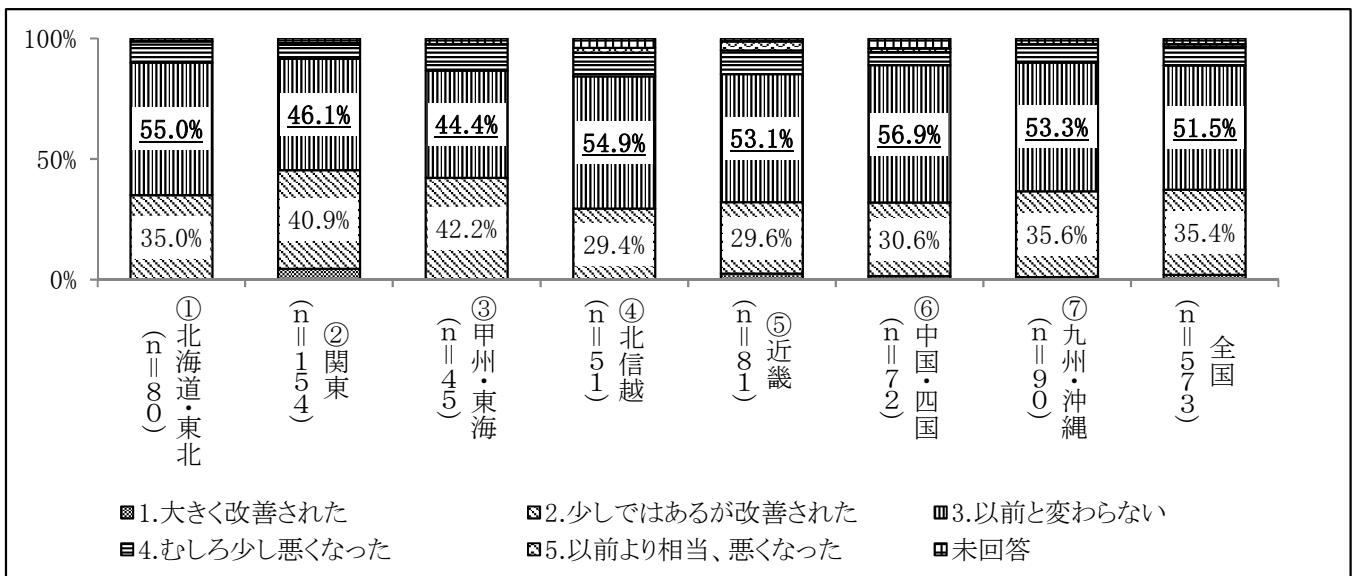
【施設種別】

	1. 大きく改善された	2. 少しではあるが改善された	3. 以前と変わらない	4. むしろ少し悪くなった	5. 以前より相当、悪くなった	未回答
保健所 (n=301)	1	97	<u>169</u>	29	1	4
地域施設 (n=121)	2	39	<u>69</u>	6	3	2
家族会 (n=151)	8	<u>67</u>	57	10	2	7
全体 (n=573)	11	203	<u>295</u>	45	6	13



【ブロック別】

	1. 大きく改善された	2. 少しではあるが改善された	3. 以前と変わらない	4. むしろ少し悪くなった	5. 以前より相当、悪くなった	未回答
①北海道・東北 (n=80)	0	28	<u>44</u>	7	0	1
②関東 (n=154)	7	63	<u>71</u>	9	1	3
③甲州・東海 (n=45)	0	19	<u>20</u>	5	0	1
④北信越 (n=51)	0	15	<u>28</u>	5	1	2
⑤近畿 (n=81)	2	24	<u>43</u>	8	3	1
⑥中国・四国 (n=72)	1	22	<u>41</u>	4	1	3
⑦九州・沖縄 (n=90)	1	32	<u>48</u>	7	0	2
全国 (n=573)	11	203	<u>295</u>	45	6	13

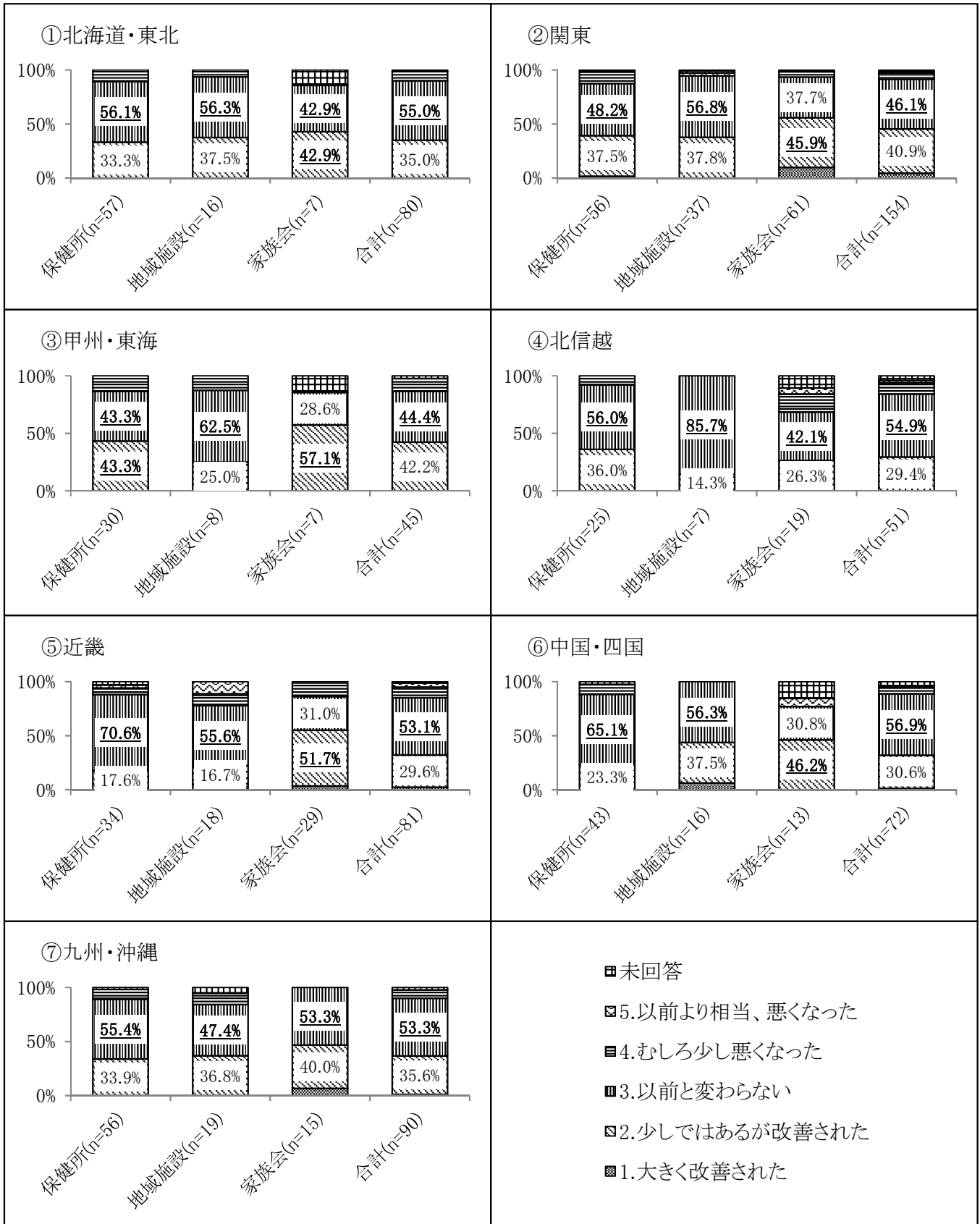


B 事件報道などのマスコミ報道の変化

【ブロック×施設種別】

		1. 大きく改善された	2. 少しではあるが改善された	3. 以前と変わらない	4. むしろ少し悪くなった	5. 以前より相当、悪くなった	未回答
①北海道・東北	保健所 (n=57)	0	19	<u>32</u>	6	0	0
	地域施設 (n=16)	0	6	<u>9</u>	1	0	0
	家族会 (n=7)	0	<u>3</u>	<u>3</u>	0	0	1
	合計 (n=80)	0	28	<u>44</u>	7	0	1
②関東	保健所 (n=56)	1	21	<u>27</u>	6	0	1
	地域施設 (n=37)	0	14	<u>21</u>	0	1	1
	家族会 (n=61)	6	<u>28</u>	23	3	0	1
	合計 (n=154)	7	63	<u>71</u>	9	1	3
③甲州・東海	保健所 (n=30)	0	<u>13</u>	<u>13</u>	4	0	0
	地域施設 (n=8)	0	2	<u>5</u>	1	0	0
	家族会 (n=7)	0	<u>4</u>	2	0	0	1
	合計 (n=45)	0	19	<u>20</u>	5	0	1
④北信越	保健所 (n=25)	0	9	<u>14</u>	2	0	0
	地域施設 (n=7)	0	1	<u>6</u>	0	0	0
	家族会 (n=19)	0	5	<u>8</u>	3	1	2
	合計 (n=51)	0	15	<u>28</u>	5	1	2
⑤近畿	保健所 (n=34)	0	6	<u>24</u>	2	1	1
	地域施設 (n=18)	1	3	<u>10</u>	2	2	0
	家族会 (n=29)	1	<u>15</u>	9	4	0	0
	合計 (n=81)	2	24	<u>43</u>	8	3	1
⑥中国・四国	保健所 (n=43)	0	10	<u>28</u>	4	0	1
	地域施設 (n=16)	1	6	<u>9</u>	0	0	0
	家族会 (n=13)	0	<u>6</u>	4	0	1	2
	合計 (n=72)	1	22	<u>41</u>	4	1	3
⑦九州・沖縄	保健所 (n=56)	0	19	<u>31</u>	5	0	1
	地域施設 (n=19)	0	7	<u>9</u>	2	0	1
	家族会 (n=15)	1	6	<u>8</u>	0	0	0
	合計 (n=90)	1	32	<u>48</u>	7	0	2

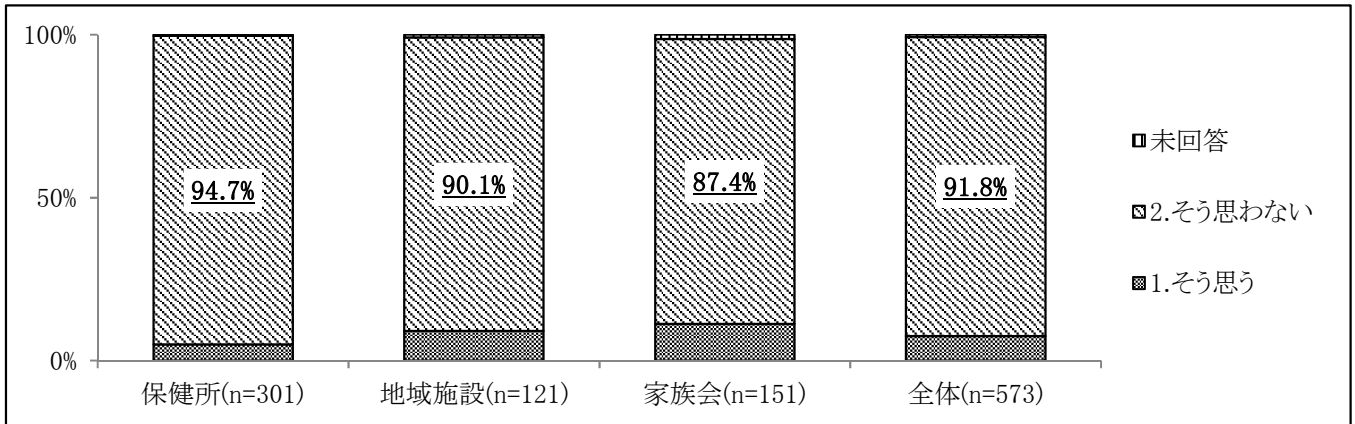
B 事件報道などのマスコミ報道の変化
【ブロック×施設種別】



C「精神保健医療福祉の改革ビジョン」では、達成目標の一つとして「精神疾患は生活習慣病と同じく誰もがかかりうる病気であることについての認知度を90%以上とする」と示しています。あなたの印象と認知度はビジョン通り進んでいると思いますか。

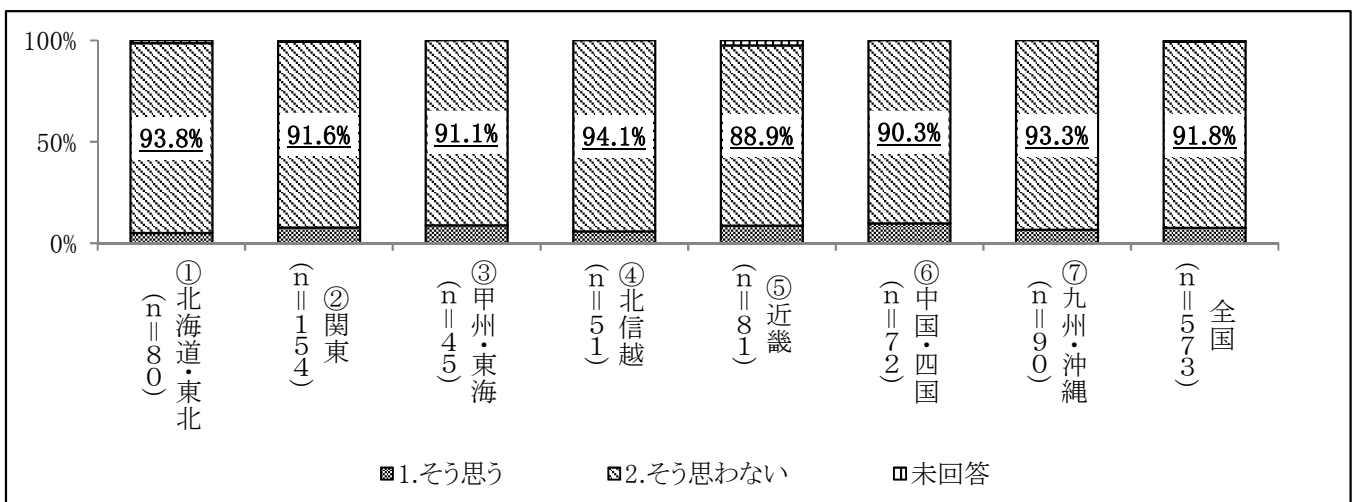
【施設種別】

		1. そう思う	2. そう思わない	未回答
保健所 (n=301)		15	<u>285</u>	1
地域施設 (n=121)		11	<u>109</u>	1
家族会 (n=151)		17	<u>132</u>	2
全体 (n=573)		43	<u>526</u>	4



【ブロック別】

		1. そう思う	2. そう思わない	未回答
①北海道・東北 (n=80)		4	<u>75</u>	1
②関東 (n=154)		12	<u>141</u>	1
③甲州・東海 (n=45)		4	<u>41</u>	0
④北信越 (n=51)		3	<u>48</u>	0
⑤近畿 (n=81)		7	<u>72</u>	2
⑥中国・四国 (n=72)		7	<u>65</u>	0
⑦九州・沖縄 (n=90)		6	<u>84</u>	0
全国 (n=573)		43	<u>526</u>	4



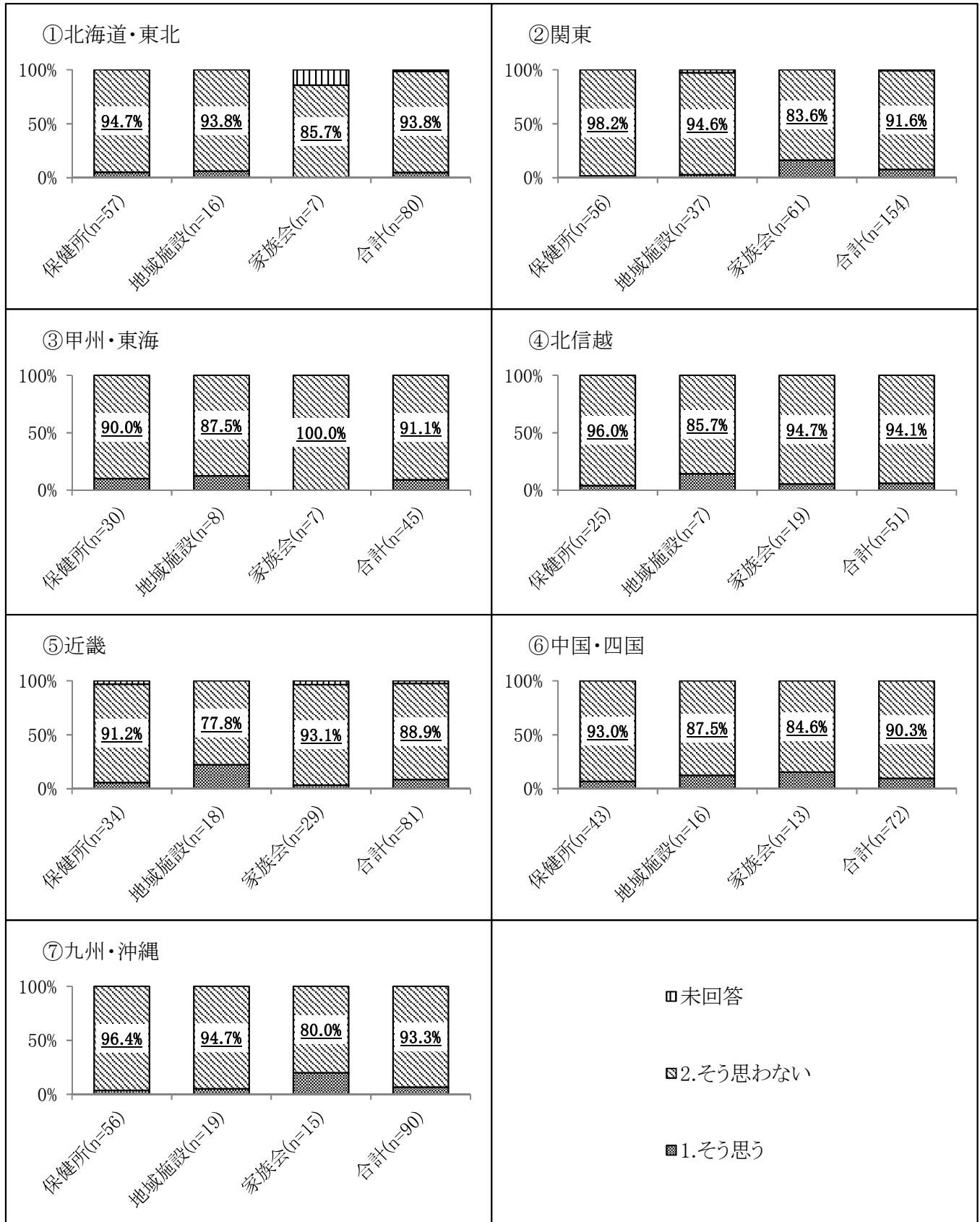
C「精神保健医療福祉の改革ビジョン」では、達成目標の一つとして「精神疾患は生活習慣病と同じく誰もがかかりうる病気であることについての認知度を90%以上とする」と示しています。あなたの印象と認知度はビジョン通り進んでいると思いますか。

【ブロック×施設種別】

		1. そう思う	2. そう思わない	未回答
①北海道・東北	保健所 (n=57)	3	<u>54</u>	0
	地域施設 (n=16)	1	<u>15</u>	0
	家族会 (n=7)	0	<u>6</u>	1
	合計 (n=80)	4	<u>75</u>	1
②関東	保健所 (n=56)	1	<u>55</u>	0
	地域施設 (n=37)	1	<u>35</u>	1
	家族会 (n=61)	10	<u>51</u>	0
	合計 (n=154)	12	<u>141</u>	1
③甲州・東海	保健所 (n=30)	3	<u>27</u>	0
	地域施設 (n=8)	1	<u>7</u>	0
	家族会 (n=7)	0	<u>7</u>	0
	合計 (n=45)	4	<u>41</u>	0
④北信越	保健所 (n=25)	1	<u>24</u>	0
	地域施設 (n=7)	1	<u>6</u>	0
	家族会 (n=19)	1	<u>18</u>	0
	合計 (n=51)	3	<u>48</u>	0
⑤近畿	保健所 (n=34)	2	<u>31</u>	1
	地域施設 (n=18)	4	<u>14</u>	0
	家族会 (n=29)	1	<u>27</u>	1
	合計 (n=81)	7	<u>72</u>	2
⑥中国・四国	保健所 (n=43)	3	<u>40</u>	0
	地域施設 (n=16)	2	<u>14</u>	0
	家族会 (n=13)	2	<u>11</u>	0
	合計 (n=72)	7	<u>65</u>	0
⑦九州・沖縄	保健所 (n=56)	2	<u>54</u>	0
	地域施設 (n=19)	1	<u>18</u>	0
	家族会 (n=15)	3	<u>12</u>	0
	合計 (n=90)	6	<u>84</u>	0

C「精神保健医療福祉の改革ビジョン」では、達成目標の一つとして「精神疾患は生活習慣病と同じく誰もがかかりうる病気であることについての認知度を90%以上とする」と示しています。あなたの印象と認知度はビジョン通り進んでいると思いますか。

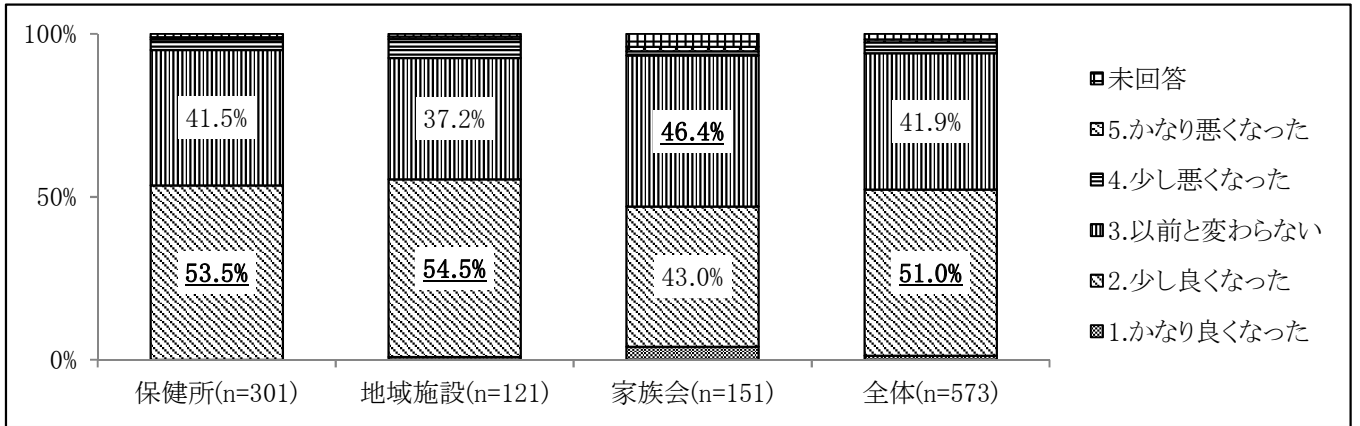
【ブロック×施設種別】



D 精神障害者に対する差別や偏見の変化

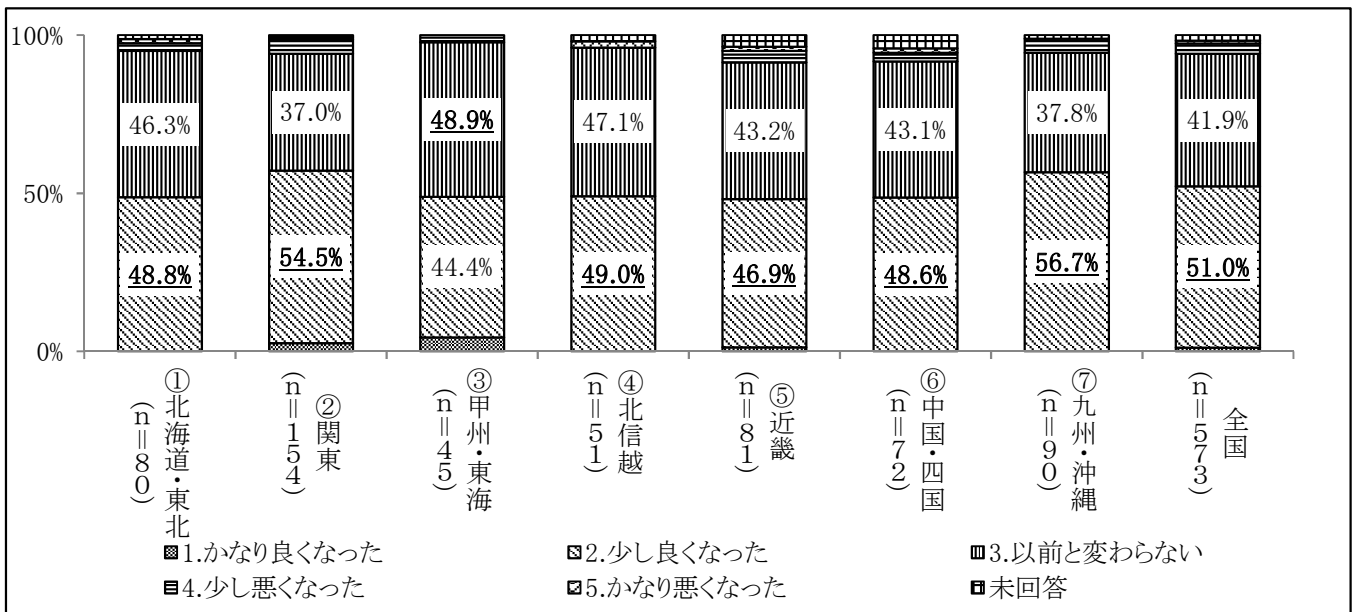
【施設種別】

	1. かなり良くなった	2. 少し良くなった	3. 以前と変わらない	4. 少し悪くなった	5. かなり悪くなった	未回答
保健所 (n=301)	0	<u>161</u>	125	10	2	3
地域施設 (n=121)	1	<u>66</u>	45	7	1	1
家族会 (n=151)	6	65	<u>70</u>	2	2	6
全体 (n=573)	7	<u>292</u>	240	19	5	10



【ブロック別】

	1. かなり良くなった	2. 少し良くなった	3. 以前と変わらない	4. 少し悪くなった	5. かなり悪くなった	未回答
①北海道・東北 (n=80)	0	<u>39</u>	37	2	1	1
②関東 (n=154)	4	<u>84</u>	57	7	1	1
③甲州・東海 (n=45)	2	20	<u>22</u>	1	0	0
④北信越 (n=51)	0	<u>25</u>	24	0	1	1
⑤近畿 (n=81)	1	<u>38</u>	35	3	1	3
⑥中国・四国 (n=72)	0	<u>35</u>	31	2	1	3
⑦九州・沖縄 (n=90)	0	<u>51</u>	34	4	0	1
全国 (n=573)	7	<u>292</u>	240	19	5	10



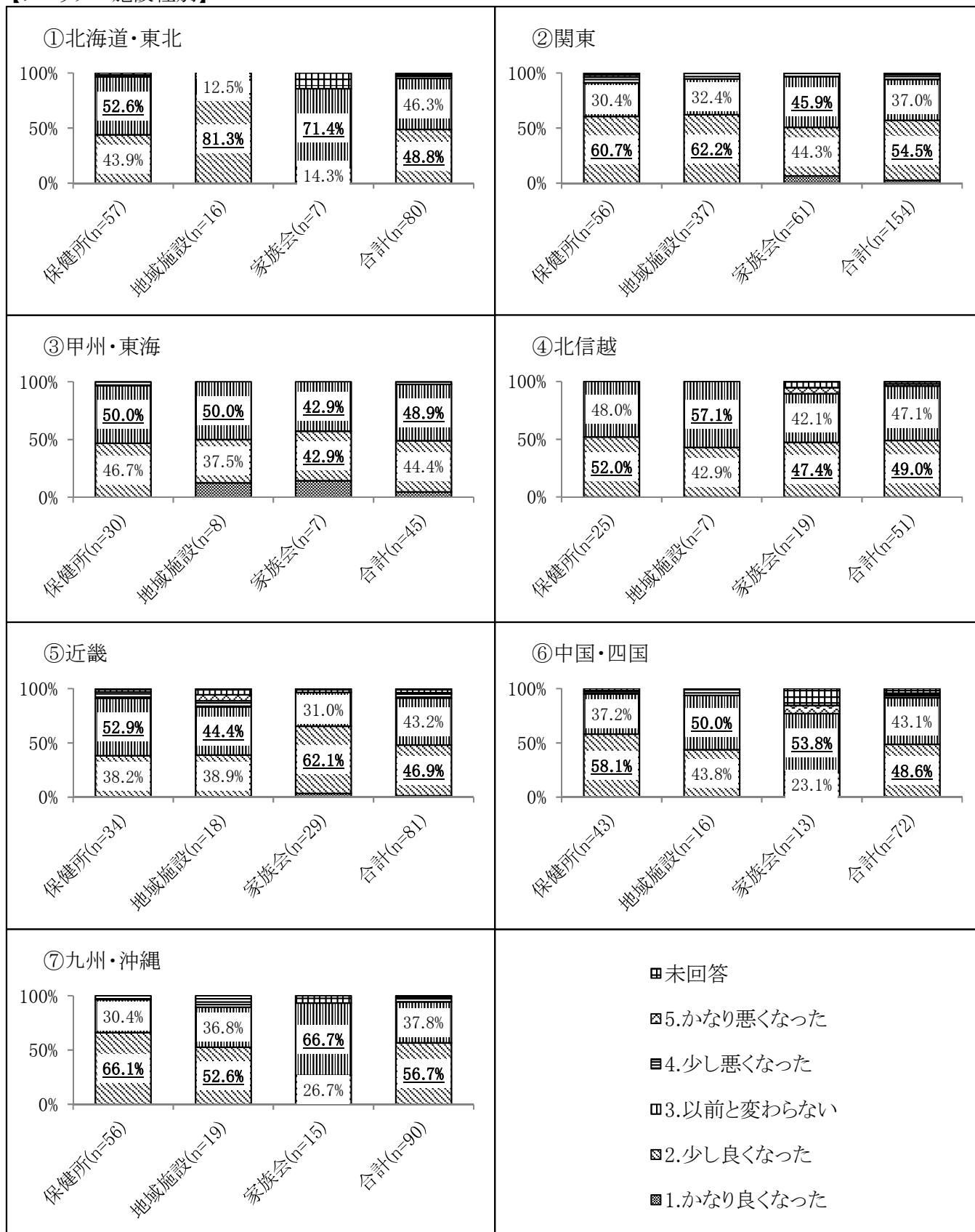
D 精神障害者に対する差別や偏見の変化

【ブロック×施設種別】

		1. かなり良くなった	2. 少し良くなった	3. 以前と変わらない	4. 少し悪くなった	5. かなり悪くなった	未回答
①北海道・東北	保健所 (n=57)	0	25	<u>30</u>	1	1	0
	地域施設 (n=16)	0	<u>13</u>	2	1	0	0
	家族会 (n=7)	0	1	<u>5</u>	0	0	1
	合計 (n=80)	0	<u>39</u>	37	2	1	1
②関東	保健所 (n=56)	0	<u>34</u>	17	3	1	1
	地域施設 (n=37)	0	<u>23</u>	12	2	0	0
	家族会 (n=61)	4	27	<u>28</u>	2	0	0
	合計 (n=154)	4	<u>84</u>	57	7	1	1
③甲州・東海	保健所 (n=30)	0	14	<u>15</u>	1	0	0
	地域施設 (n=8)	1	3	<u>4</u>	0	0	0
	家族会 (n=7)	1	<u>3</u>	<u>3</u>	0	0	0
	合計 (n=45)	2	20	<u>22</u>	1	0	0
④北信越	保健所 (n=25)	0	<u>13</u>	12	0	0	0
	地域施設 (n=7)	0	3	<u>4</u>	0	0	0
	家族会 (n=19)	0	<u>9</u>	8	0	1	1
	合計 (n=51)	0	<u>25</u>	24	0	1	1
⑤近畿	保健所 (n=34)	0	13	<u>18</u>	2	0	1
	地域施設 (n=18)	0	7	<u>8</u>	1	1	1
	家族会 (n=29)	1	<u>18</u>	9	0	0	1
	合計 (n=81)	1	<u>38</u>	35	3	1	3
⑥中国・四国	保健所 (n=43)	0	<u>25</u>	16	1	0	1
	地域施設 (n=16)	0	7	<u>8</u>	1	0	0
	家族会 (n=13)	0	3	<u>7</u>	0	1	2
	合計 (n=72)	0	<u>35</u>	31	2	1	3
⑦九州・沖縄	保健所 (n=56)	0	<u>37</u>	17	2	0	0
	地域施設 (n=19)	0	<u>10</u>	7	2	0	0
	家族会 (n=15)	0	4	<u>10</u>	0	0	1
	合計 (n=90)	0	<u>51</u>	34	4	0	1

D 精神障害者に対する差別や偏見の変化

【ブロック×施設種別】

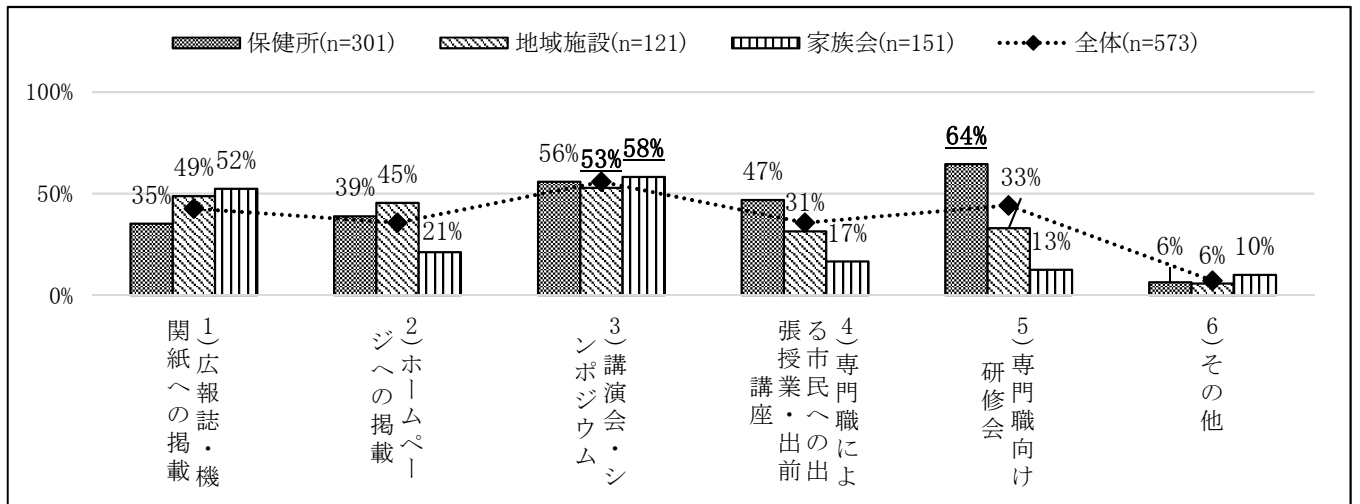


E 現在取り組んでいる内容(複数回答可)

1. 普及啓発活動

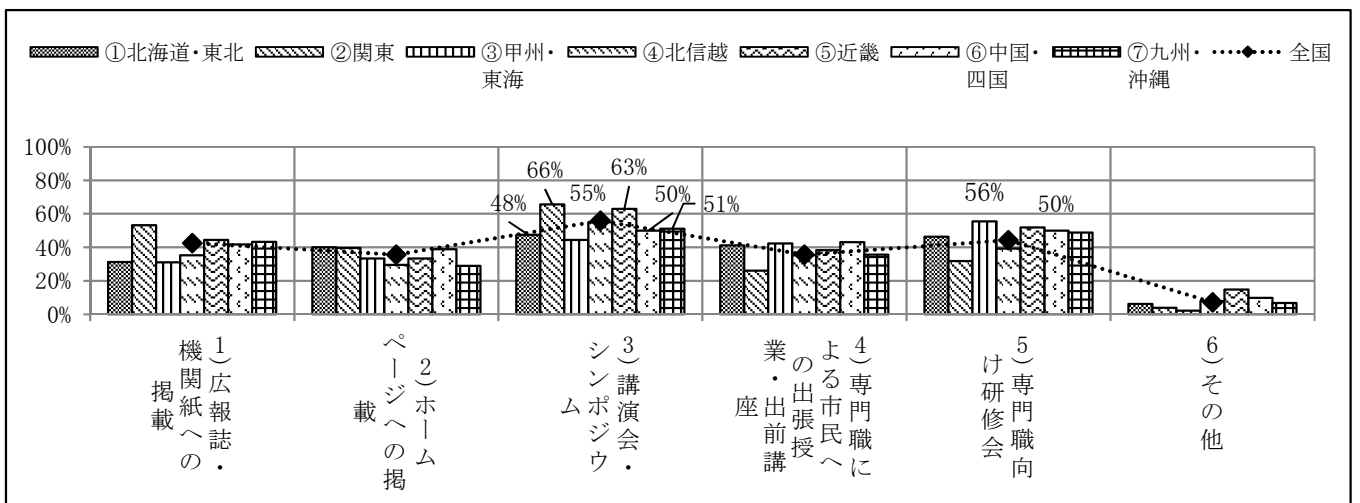
【施設種別】

	1) 広報誌・ 機関紙への 掲載	2) ホーム ページへの 掲載	3) 講演会・ シンポジウ ム	4) 専門職に よる市民へ の出張授 業・出前講 座	5) 専門職向 け研修会	6) その他
保健所 (n=301)	106	117	168	141	<u>194</u>	19
地域施設 (n=121)	59	55	<u>64</u>	38	40	7
家族会 (n=151)	79	32	<u>88</u>	25	19	15
全体 (n=573)	244	204	<u>320</u>	204	253	41



【ブロック別】

	1) 広報誌・ 機関紙への 掲載	2) ホーム ページへの 掲載	3) 講演会・ シンポジウ ム	4) 専門職に よる市民へ の出張授 業・出前講 座	5) 専門職向 け研修会	6) その他
①北海道・東北 (n=80)	25	32	<u>38</u>	33	37	5
②関東 (n=154)	82	61	<u>101</u>	40	49	6
③甲州・東海 (n=45)	14	15	20	19	<u>25</u>	1
④北信越 (n=51)	18	15	<u>28</u>	18	20	4
⑤近畿 (n=81)	36	27	<u>51</u>	31	42	12
⑥中国・四国 (n=72)	30	28	<u>36</u>	31	<u>36</u>	7
⑦九州・沖縄 (n=90)	39	26	<u>46</u>	32	44	6
全国 (n=573)	244	204	<u>320</u>	204	253	41



*上のグラフで値のあるものはそのカテゴリーの最多回答を示す

1.普及啓発活動(現在取り組んでいる)

【ブロック×施設種別】

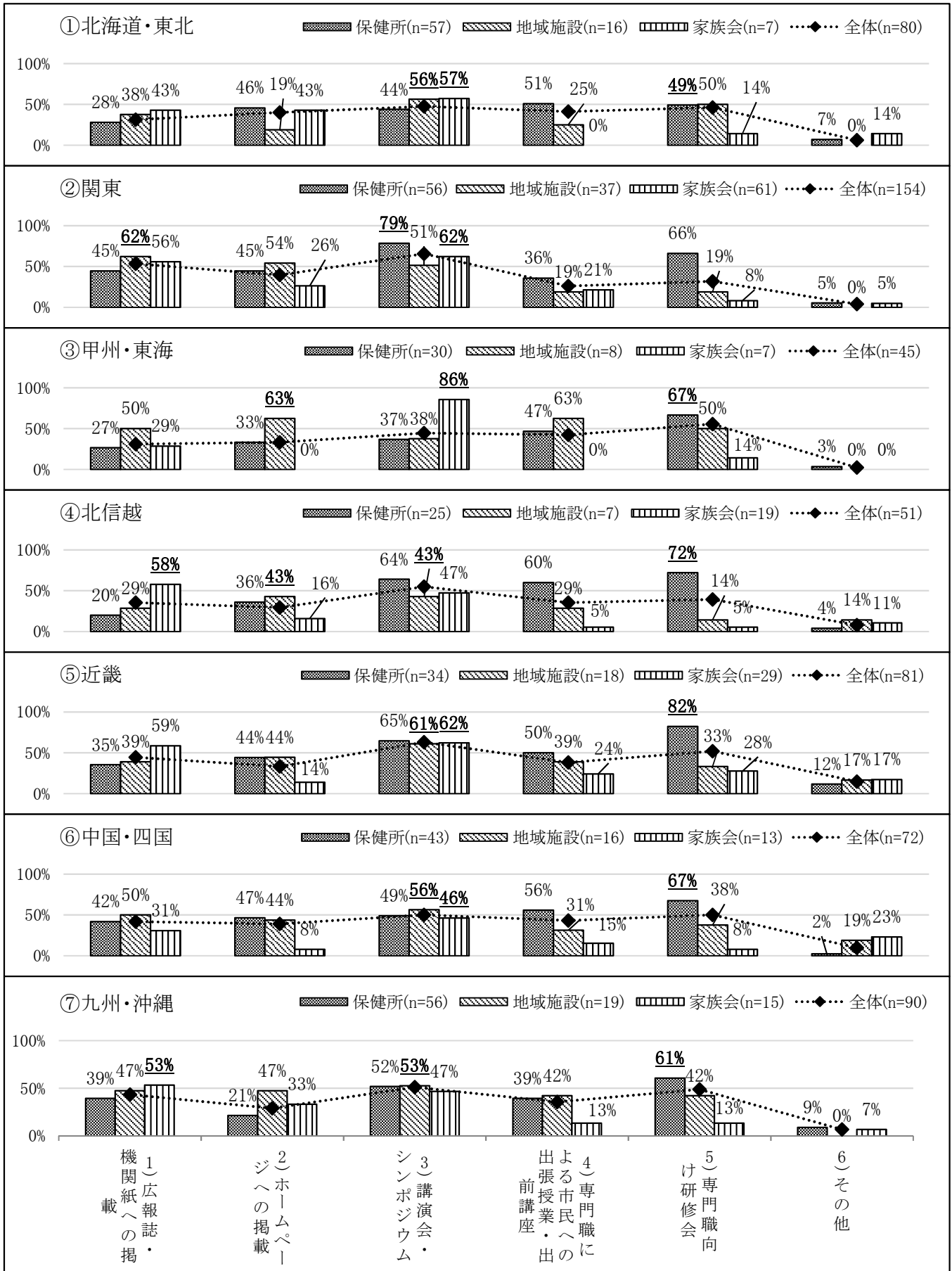
		1) 広報誌・ 機関紙への 掲載	2) ホーム ページへの 掲載	3) 講演会・ シンポジウ ム	4) 専門職に よる市民へ の出張授 業・出前講 座	5) 専門職向 け研修会	6) その他
①北海道・ 東北	保健所 (n=57)	16	26	25	<u>29</u>	28	4
	地域施設 (n=16)	6	3	<u>9</u>	4	8	0
	家族会 (n=7)	3	3	<u>4</u>	0	1	1
	全体 (n=80)	25	32	<u>38</u>	33	37	5
②関東	保健所 (n=56)	25	25	<u>44</u>	20	37	3
	地域施設 (n=37)	<u>23</u>	20	19	7	7	0
	家族会 (n=61)	34	16	<u>38</u>	13	5	3
	全体 (n=154)	82	61	<u>101</u>	40	49	6
③甲州・ 東海	保健所 (n=30)	8	10	11	14	<u>20</u>	1
	地域施設 (n=8)	4	<u>5</u>	3	<u>5</u>	4	0
	家族会 (n=7)	2	0	<u>6</u>	0	1	0
	全体 (n=45)	14	15	20	19	<u>25</u>	1
④北信越	保健所 (n=25)	5	9	16	15	<u>18</u>	1
	地域施設 (n=7)	2	<u>3</u>	<u>3</u>	2	1	1
	家族会 (n=19)	<u>11</u>	3	9	1	1	2
	全体 (n=51)	18	15	<u>28</u>	18	20	4
⑤近畿	保健所 (n=34)	12	15	22	17	<u>28</u>	4
	地域施設 (n=18)	7	8	<u>11</u>	7	6	3
	家族会 (n=29)	17	4	<u>18</u>	7	8	5
	全体 (n=81)	36	27	<u>51</u>	31	42	12
⑥中国・ 四国	保健所 (n=43)	18	20	21	24	<u>29</u>	1
	地域施設 (n=16)	8	7	<u>9</u>	5	6	3
	家族会 (n=13)	4	1	<u>6</u>	2	1	3
	全体 (n=72)	30	28	<u>36</u>	31	<u>36</u>	7
⑦九州・ 沖縄	保健所 (n=56)	22	12	29	22	<u>34</u>	5
	地域施設 (n=19)	9	9	<u>10</u>	8	8	0
	家族会 (n=15)	<u>8</u>	5	7	2	2	1
	全体 (n=90)	39	26	<u>46</u>	32	44	6

6)その他 の回答内容

<p>【保健所】 街頭活動 / 会報・チラシ・パンフ・ポスター / 自殺予防キャンペーン / 庁舎内での掲示 / 嘱託医による精神保健相談 / 地方紙への記事掲載 / 地域有線放送の活用 / 行政関係部局への研修 / 看護大学生を就労継続B型事業所に受け入れてもらう / 地域での健康まつりに啓発パネルを展示</p> <p>【地域施設】 街頭活動 / 地域交流事業 / 市と共同しての企画 / DVD作成、職場相談、相談事業所相談</p> <p>【家族会】 会報・チラシ・パンフ・ポスター / ピアサポーター(当事者)による啓発活動 / 家族会として活動 / 新聞への記事</p>
--

1. 普及啓発活動（現在取り組んでいる）

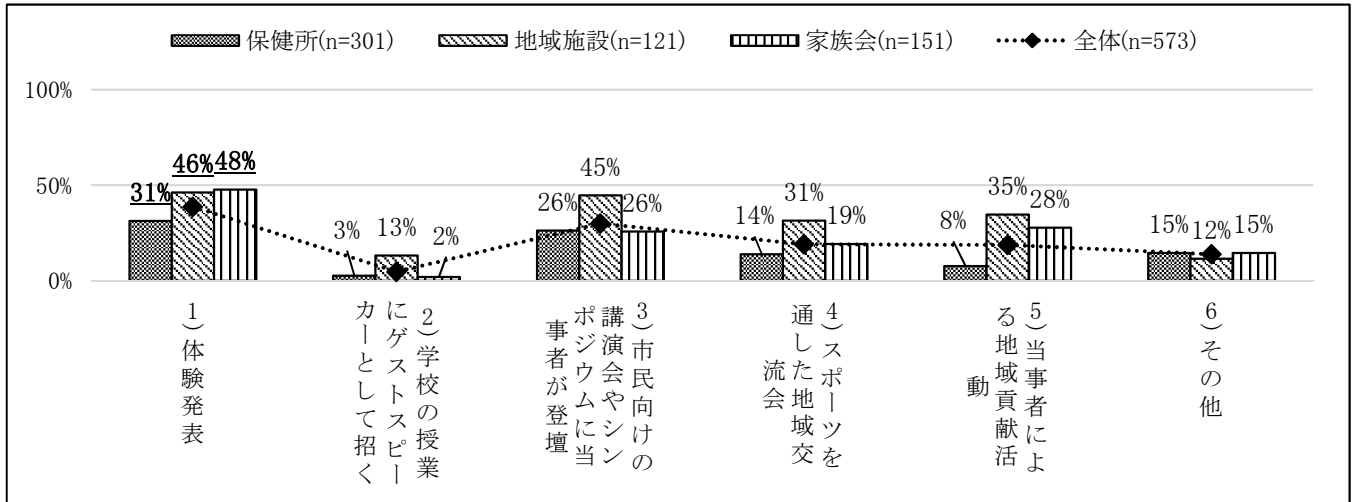
【ブロック×施設種別】



2. 当事者(家族を含む)とのふれあい(現在取り組んでいる)

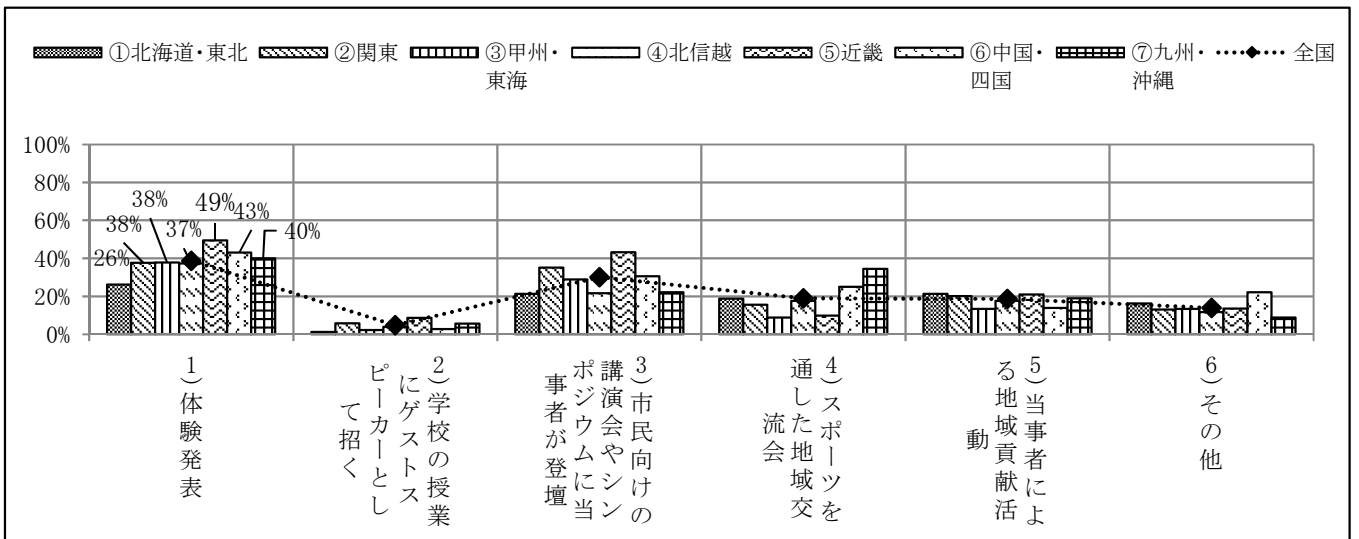
【施設種別】

	1) 体験発表	2) 学校の授業にゲストスピーカーとして招く	3) 市民向けの講演会やシンポジウムに当事者が登壇	4) スポーツを通じた地域交流会	5) 当事者による地域貢献活動	6) その他
保健所 (n=301)	<u>94</u>	8	79	42	23	44
地域施設 (n=121)	<u>56</u>	16	54	38	42	14
家族会 (n=151)	<u>72</u>	3	39	29	42	22
全体 (n=573)	<u>222</u>	27	172	109	107	80



【ブロック別】

	1) 体験発表	2) 学校の授業にゲストスピーカーとして招く	3) 市民向けの講演会やシンポジウムに当事者が登壇	4) スポーツを通じた地域交流会	5) 当事者による地域貢献活動	6) その他
①北海道・東北 (n=80)	<u>21</u>	1	17	15	17	13
②関東 (n=154)	<u>58</u>	9	54	24	31	20
③甲州・東海 (n=45)	<u>17</u>	1	13	4	6	6
④北信越 (n=51)	<u>19</u>	2	11	9	9	6
⑤近畿 (n=81)	<u>40</u>	7	35	8	17	11
⑥中国・四国 (n=72)	<u>31</u>	2	22	18	10	16
⑦九州・沖縄 (n=90)	<u>36</u>	5	20	31	17	8
全国 (n=573)	<u>222</u>	27	172	109	107	80



*上のグラフで値のあるものはそのカテゴリーの最多回答を示す

2.当事者(家族を含む)とのふれあい(現在取り組んでいる)

【ブロック×施設種別】

【ブロック×施設種別】		1) 体験発表	2) 学校の授業にゲストスピーカーとして招く	3) 市民向けの講演会やシンポジウムに当事者が登壇	4) スポーツを通じた地域交流会	5) 当事者による地域貢献活動	6) その他
①北海道・東北	保健所 (n=57)	<u>13</u>	0	12	5	5	8
	地域施設 (n=16)	6	1	5	7	<u>9</u>	3
	家族会 (n=7)	2	0	0	<u>3</u>	<u>3</u>	2
	全体 (n=80)	<u>21</u>	1	17	15	17	13
②関東	保健所 (n=56)	<u>19</u>	3	17	3	3	7
	地域施設 (n=37)	10	4	<u>18</u>	12	11	3
	家族会 (n=61)	<u>29</u>	2	19	9	17	10
	全体 (n=154)	<u>58</u>	9	54	24	31	20
③甲州・東海	保健所 (n=30)	4	0	<u>6</u>	2	1	<u>6</u>
	地域施設 (n=8)	<u>7</u>	1	3	2	4	0
	家族会 (n=7)	<u>6</u>	0	4	0	1	0
	全体 (n=45)	<u>17</u>	1	13	4	6	6
④北信越	保健所 (n=25)	<u>10</u>	0	9	3	1	3
	地域施設 (n=7)	2	2	1	2	<u>3</u>	0
	家族会 (n=19)	<u>7</u>	0	1	4	5	3
	全体 (n=51)	<u>19</u>	2	11	9	9	6
⑤近畿	保健所 (n=34)	10	2	<u>15</u>	1	2	5
	地域施設 (n=18)	11	4	<u>12</u>	1	8	2
	家族会 (n=29)	<u>19</u>	1	8	6	7	4
	全体 (n=81)	<u>40</u>	7	35	8	17	11
⑥中国・四国	保健所 (n=43)	<u>15</u>	1	9	9	6	8
	地域施設 (n=16)	<u>10</u>	1	9	7	3	5
	家族会 (n=13)	<u>6</u>	0	4	2	1	3
	全体 (n=72)	<u>31</u>	2	22	18	10	16
⑦九州・沖縄	保健所 (n=56)	<u>23</u>	2	11	19	5	7
	地域施設 (n=19)	<u>10</u>	3	6	7	4	1
	家族会 (n=15)	3	0	3	5	<u>8</u>	0
	全体 (n=90)	<u>36</u>	5	20	31	17	8

6)その他 の回答内容

【保健所】

大学生サークルによるデイケアでの演奏会 / 芸能・文化活動を通じた地域での発表会 / 精神科病院の患者・職員対象の地域生活報告会を開催 / 家族と当事者による家族教室 / レクリエーション教育を通じた交流 / 個別支援、相談対応等 / 月1回交流会に参加 / 関係機関での連絡会等 / 地域移行へ向けた当事者の体験交流等 / 居場所支援 / ピア体験活動 / 当事者・家族・ボランティア等の交流会 / ピアサポート講座の講師 / 自助グループ活動への参画 / 当事者グループ、家族会主催講演会等への参加

【地域施設】

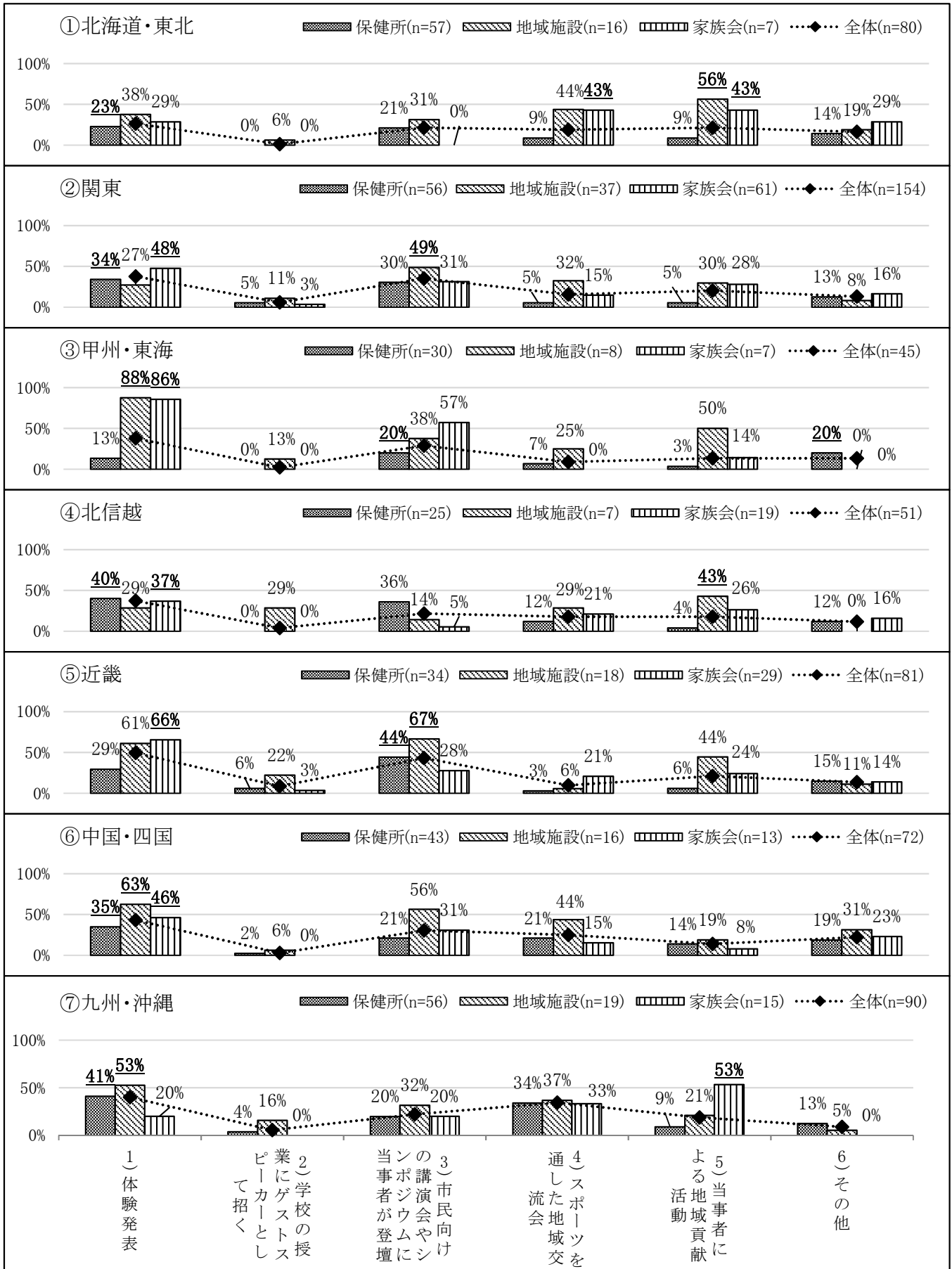
地域クラブ活動 / 家族学習交流会 / 大学生、実習生の受け入れ / バーベキュー / 精神科病院の病棟でのピアサポート活動 / ピアスタッフ雇用 / 町内の集会所でカフェをしています。 / 食事会を通じた地域交流会 / ゲストを招き、地域の方に向けた地域交流会 / 地域子育て支援センターとの交流事業

【家族会】

定例会での懇談。学習会。家族交流会等 / 一般市民に対しての家族相談事業(市委託) / 家族による家族学習会開催 / 作業所との交流・地域啓発交流会へ参加 / 精神科病院への面会。年賀状書き(当事者や家族へ) / 当事者の居場所、仲間づくりの場を開設 / つどいの広場での居場所において当事者及び家族とのふれあい

2.当事者(家族を含む)とのふれあい(現在取り組んでいる)

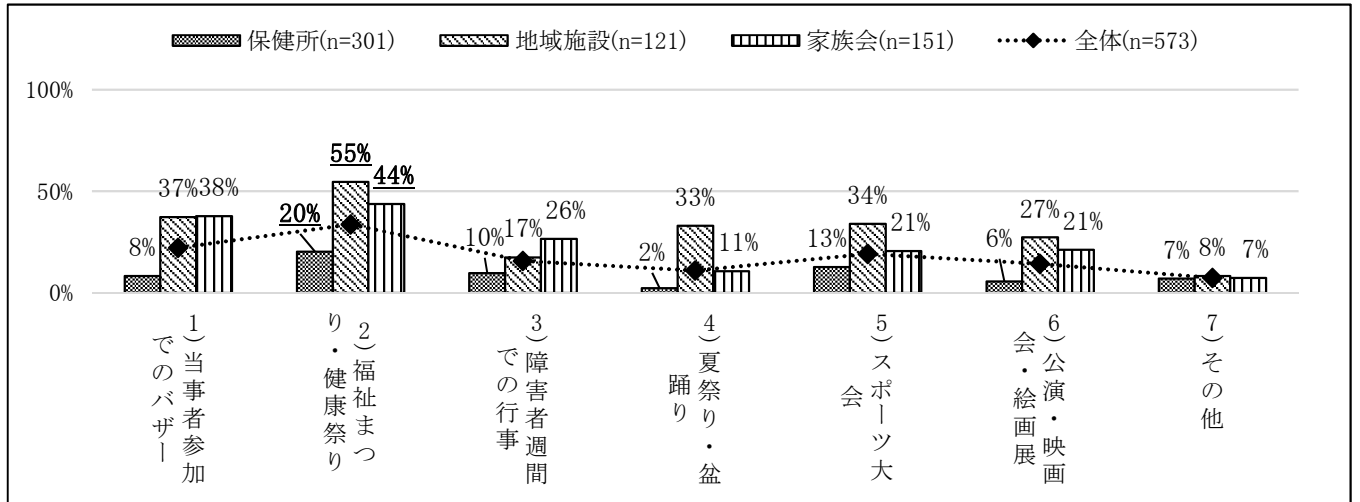
【ブロック×施設種別】



3. イベント活動（現在取り組んでいる）

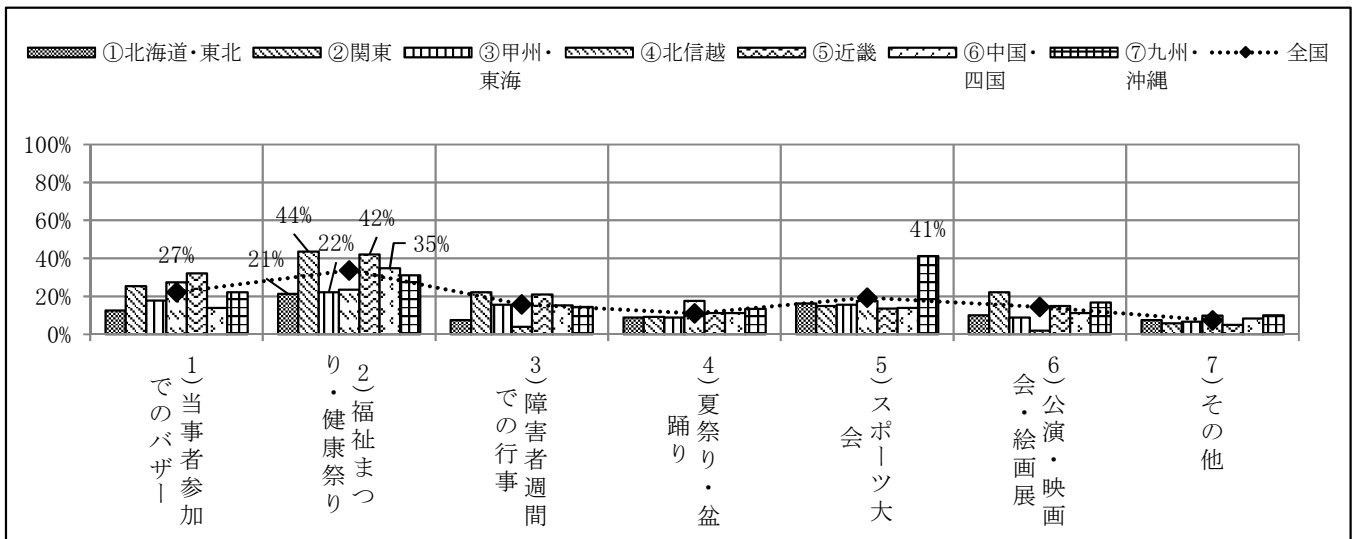
【施設種別】

	1) 当事者参加でのバザーの実施	2) 福祉まつり・健康祭り	3) 障害者週間での行事実施	4) 夏祭り・盆踊り	5) スポーツ大会	6) 様々な公演・映画会・絵画展	7) その他
保健所 (n=301)	25	<u>61</u>	29	7	38	17	21
地域施設 (n=121)	45	<u>66</u>	21	40	41	33	10
家族会 (n=151)	57	<u>66</u>	40	16	31	32	11
全体 (n=573)	127	<u>193</u>	90	63	110	82	42



【ブロック別】

	1) 当事者参加でのバザーの実施	2) 福祉まつり・健康祭り	3) 障害者週間での行事実施	4) 夏祭り・盆踊り	5) スポーツ大会	6) 様々な公演・映画会・絵画展	7) その他
①北海道・東北 (n=80)	10	<u>17</u>	6	7	13	8	6
②関東 (n=154)	39	<u>67</u>	34	14	23	34	9
③甲州・東海 (n=45)	8	<u>10</u>	7	4	7	4	3
④北信越 (n=51)	<u>14</u>	12	2	9	9	1	5
⑤近畿 (n=81)	26	<u>34</u>	17	9	11	12	4
⑥中国・四国 (n=72)	10	<u>25</u>	11	8	10	8	6
⑦九州・沖縄 (n=90)	20	28	13	12	<u>37</u>	15	9
全国 (n=573)	127	<u>193</u>	90	63	110	82	42



*上のグラフで値のあるものはそのカテゴリーの最多回答を示す

3. イベント活動(現在取り組んでいる)

【ブロック×施設種別】

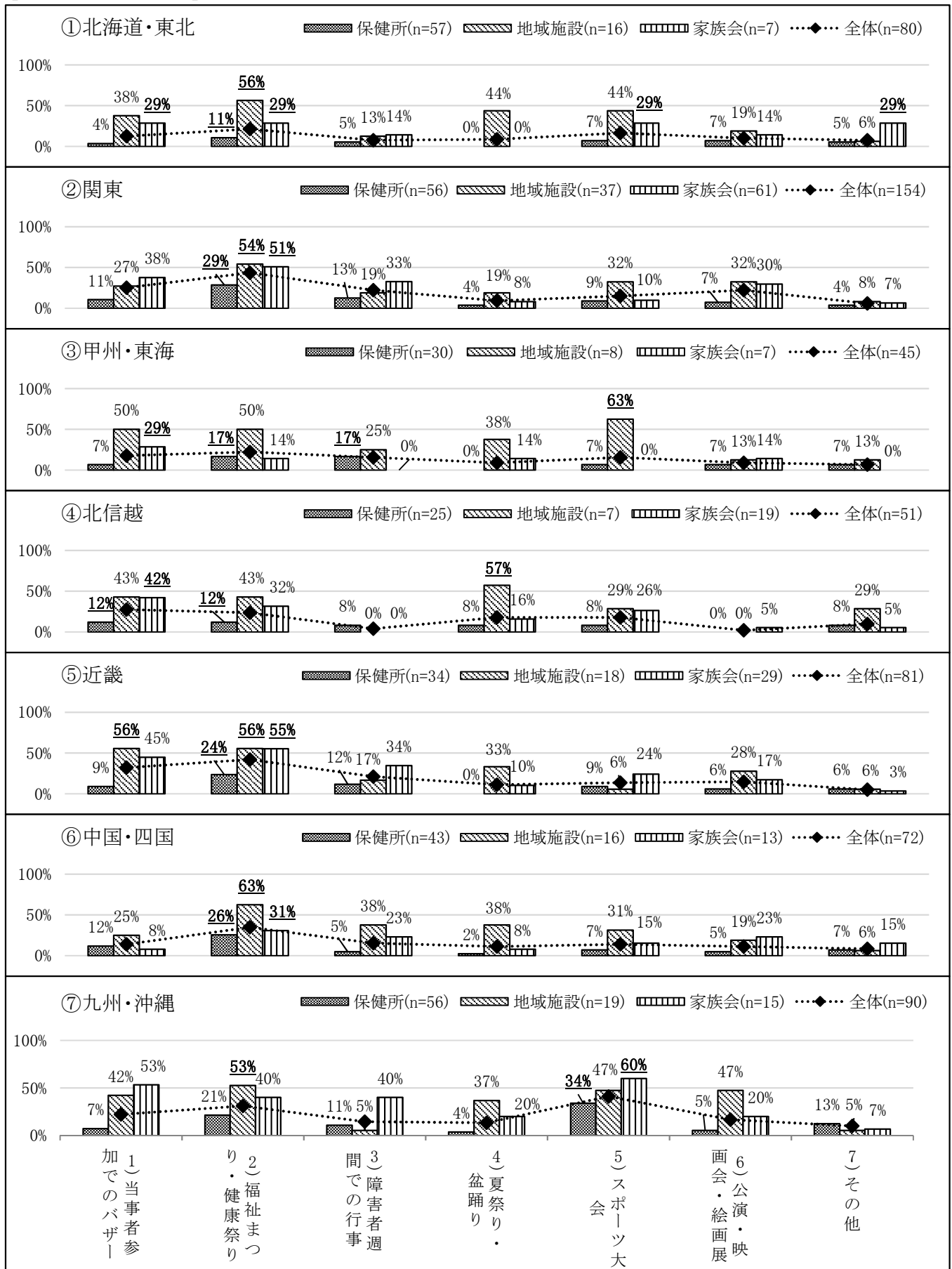
【ブロック×施設種別】		1) 当事者参加でのバザーの実施	2) 福祉まつり・健康祭り	3) 障害者週間での行事実施	4) 夏祭り・盆踊り	5) スポーツ大会	6) 様々な公演・映画会・絵画展	7) その他
①北海道・東北	保健所 (n=57)	2	<u>6</u>	3	0	4	4	3
	地域施設 (n=16)	6	<u>9</u>	2	7	7	3	1
	家族会 (n=7)	<u>2</u>	<u>2</u>	1	0	<u>2</u>	1	<u>2</u>
	全体 (n=80)	10	<u>17</u>	6	7	13	8	6
②関東	保健所 (n=56)	6	<u>16</u>	7	2	5	4	2
	地域施設 (n=37)	10	<u>20</u>	7	7	12	12	3
	家族会 (n=61)	23	<u>31</u>	20	5	6	18	4
	全体 (n=154)	39	<u>67</u>	34	14	23	34	9
③甲州・東海	保健所 (n=30)	2	<u>5</u>	<u>5</u>	0	2	2	2
	地域施設 (n=8)	4	4	2	3	<u>5</u>	1	1
	家族会 (n=7)	<u>2</u>	1	0	1	0	1	0
	全体 (n=45)	8	<u>10</u>	7	4	7	4	3
④北信越	保健所 (n=25)	<u>3</u>	<u>3</u>	2	2	2	0	2
	地域施設 (n=7)	3	3	0	<u>4</u>	2	0	2
	家族会 (n=19)	<u>8</u>	6	0	3	5	1	1
	全体 (n=51)	<u>14</u>	12	2	9	9	1	5
⑤近畿	保健所 (n=34)	3	<u>8</u>	4	0	3	2	2
	地域施設 (n=18)	<u>10</u>	<u>10</u>	3	6	1	5	1
	家族会 (n=29)	13	<u>16</u>	10	3	7	5	1
	全体 (n=81)	26	<u>34</u>	17	9	11	12	4
⑥中国・四国	保健所 (n=43)	5	<u>11</u>	2	1	3	2	3
	地域施設 (n=16)	4	<u>10</u>	6	6	5	3	1
	家族会 (n=13)	1	<u>4</u>	3	1	2	3	2
	全体 (n=72)	10	<u>25</u>	11	8	10	8	6
⑦九州・沖縄	保健所 (n=56)	4	12	6	2	<u>19</u>	3	7
	地域施設 (n=19)	8	<u>10</u>	1	7	9	9	1
	家族会 (n=15)	8	6	6	3	<u>9</u>	3	1
	全体 (n=90)	20	28	13	12	<u>37</u>	15	9

7) その他 の回答内容

<p>【保健所】 旅行・食事・ゲーム等その他のレク / 文化祭・文化交流会 / 各事業所合同開催のイベント / 交流会開催 / 県:心の健康展 / 市町等各イベントに参加 / 自殺予防キャンペーン / 商業まつり</p> <p>【地域施設】 旅行・食事・ゲーム等その他のレク / 文化祭・文化交流会 / 企業の勉強会への参加 / ピア活動参加 / 企業の街頭キャンペーン参加 / 当事者のボランティアスタッフ参加 / 季節の行事 / 年間を通して当事者向けの様々なイベントの実施 / 地域へのポスティングをし無料衣料交換会の実施 / 市の福祉フェアへの参加</p> <p>【家族会】 旅行・食事・ゲーム等その他のレク / 病院祭等への参加 / イベント参加しPRする(パネル展示、物販)</p>

3. イベント活動（現在取り組んでいる）

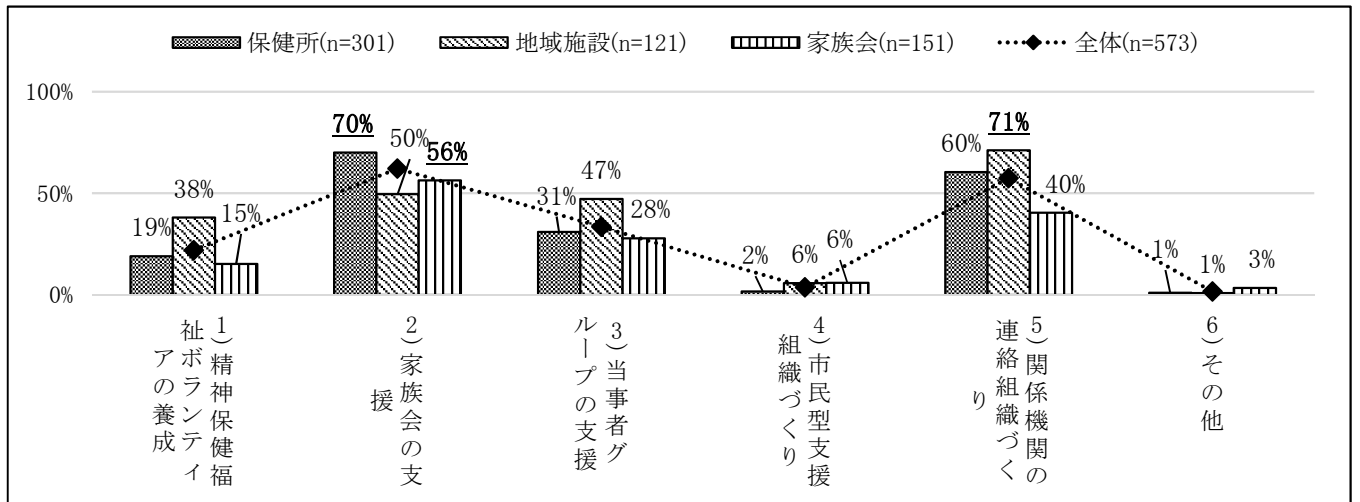
【ブロック×施設種別】



4.地域の組織化(現在取り組んでいる)

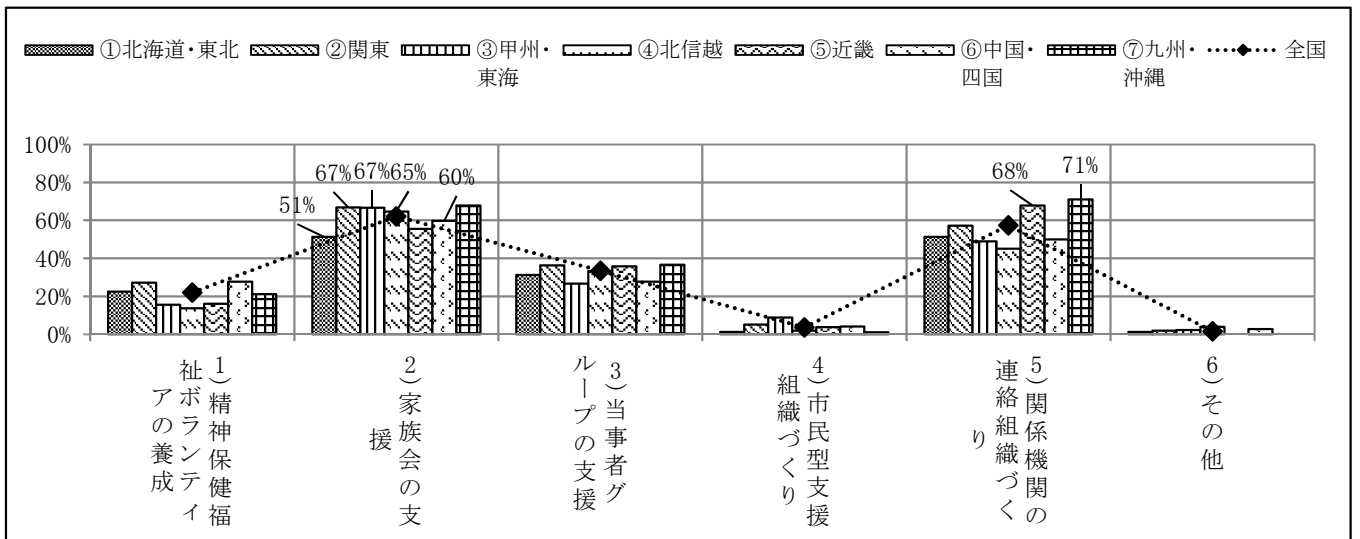
【施設種別】

		1) 精神保健福祉ボランティアの養成	2) 家族会の支援	3) 当事者グループの支援	4) 市民型支援組織づくり	5) 関係機関の連絡組織づくり	6) その他
保健所 (n=301)		57	211	93	5	182	3
地域施設 (n=121)		46	60	57	7	86	1
家族会 (n=151)		23	85	42	9	61	5
全体 (n=573)		126	356	192	21	329	9



【ブロック別】

		1) 精神保健福祉ボランティアの養成	2) 家族会の支援	3) 当事者グループの支援	4) 市民型支援組織づくり	5) 関係機関の連絡組織づくり	6) その他
①北海道・東北 (n=80)		18	41	25	1	41	1
②関東 (n=154)		42	103	56	8	88	3
③甲州・東海 (n=45)		7	30	12	4	22	1
④北信越 (n=51)		7	33	17	1	23	2
⑤近畿 (n=81)		13	45	29	3	55	0
⑥中国・四国 (n=72)		20	43	20	3	36	2
⑦九州・沖縄 (n=90)		19	61	33	1	64	0
全国 (n=573)		126	356	192	21	329	9



*上のグラフで値のあるものはそのカテゴリーの最多回答を示す

4.地域の組織化(現在取り組んでいる)

【ブロック×施設種別】

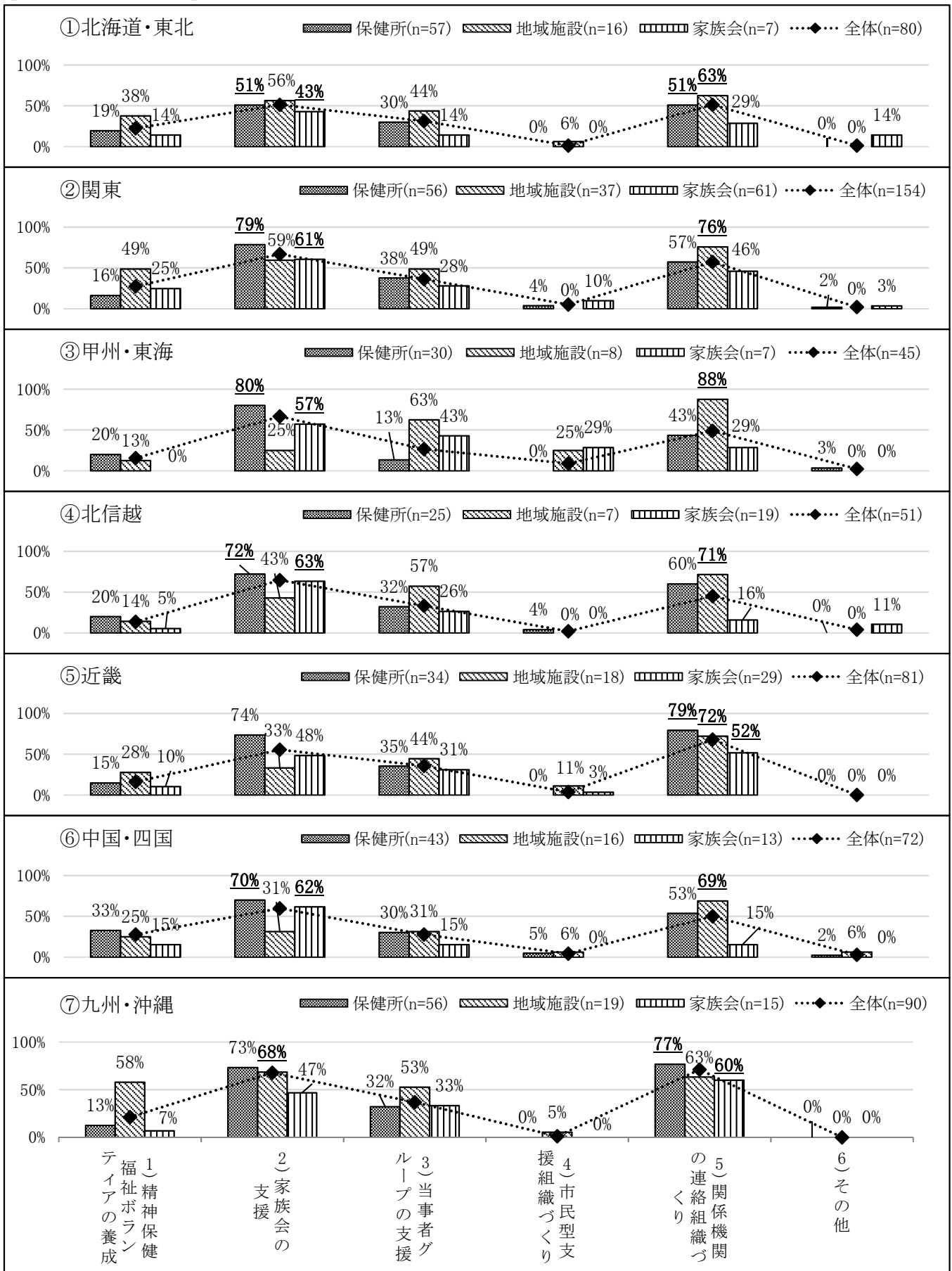
		1) 精神保健 福祉ボラン ティアの養 成	2) 家族会の 支援	3) 当事者グ ループの支 援	4) 市民型支 援組織づく り	5) 関係機関 の連絡組織 づくり	6) その他
①北海道・ 東北	保健所 (n=57)	11	<u>29</u>	17	0	<u>29</u>	0
	地域施設 (n=16)	6	9	7	1	<u>10</u>	0
	家族会 (n=7)	1	<u>3</u>	1	0	2	1
	全体 (n=80)	18	<u>41</u>	25	1	<u>41</u>	1
②関東	保健所 (n=56)	9	<u>44</u>	21	2	32	1
	地域施設 (n=37)	18	22	18	0	<u>28</u>	0
	家族会 (n=61)	15	<u>37</u>	17	6	28	2
	全体 (n=154)	42	<u>103</u>	56	8	88	3
③甲州・ 東海	保健所 (n=30)	6	<u>24</u>	4	0	13	1
	地域施設 (n=8)	1	2	5	2	<u>7</u>	0
	家族会 (n=7)	0	<u>4</u>	3	2	2	0
	全体 (n=45)	7	<u>30</u>	12	4	22	1
④北信越	保健所 (n=25)	5	<u>18</u>	8	1	15	0
	地域施設 (n=7)	1	3	4	0	<u>5</u>	0
	家族会 (n=19)	1	<u>12</u>	5	0	3	2
	全体 (n=51)	7	<u>33</u>	17	1	23	2
⑤近畿	保健所 (n=34)	5	25	12	0	<u>27</u>	0
	地域施設 (n=18)	5	6	8	2	<u>13</u>	0
	家族会 (n=29)	3	14	9	1	<u>15</u>	0
	全体 (n=81)	13	45	29	3	<u>55</u>	0
⑥中国・ 四国	保健所 (n=43)	14	<u>30</u>	13	2	23	1
	地域施設 (n=16)	4	5	5	1	<u>11</u>	1
	家族会 (n=13)	2	<u>8</u>	2	0	2	0
	全体 (n=72)	20	<u>43</u>	20	3	36	2
⑦九州・ 沖縄	保健所 (n=56)	7	41	18	0	<u>43</u>	0
	地域施設 (n=19)	11	<u>13</u>	10	1	12	0
	家族会 (n=15)	1	7	5	0	<u>9</u>	0
	全体 (n=90)	19	61	33	1	<u>64</u>	0

6)その他 の回答内容

<p>【保健所】 バリアフリーの組織づくり / 居場所支援</p> <p>【地域施設】 未治療、受療中断者、ひきこもり等へのアウトリーチを専門職(多職種による)チームでの関わりを実施している。 / 月1回精神障がい者包括支援会議(多機関、多職種専門家)にて、事例検討、協議を行っている。</p> <p>【家族会】 各家族会との連絡 / 地域移行のプロジェクト設立 / 私共の地域、町・村がいくつもあるが家族会活動をしているのは自分たちのみで何も協力し合えない。他町村の保健師や福祉課課長、町長にも時々働きかけてきているが、動きは全然無い。残念</p>

4.地域の組織化(現在取り組んでいる)

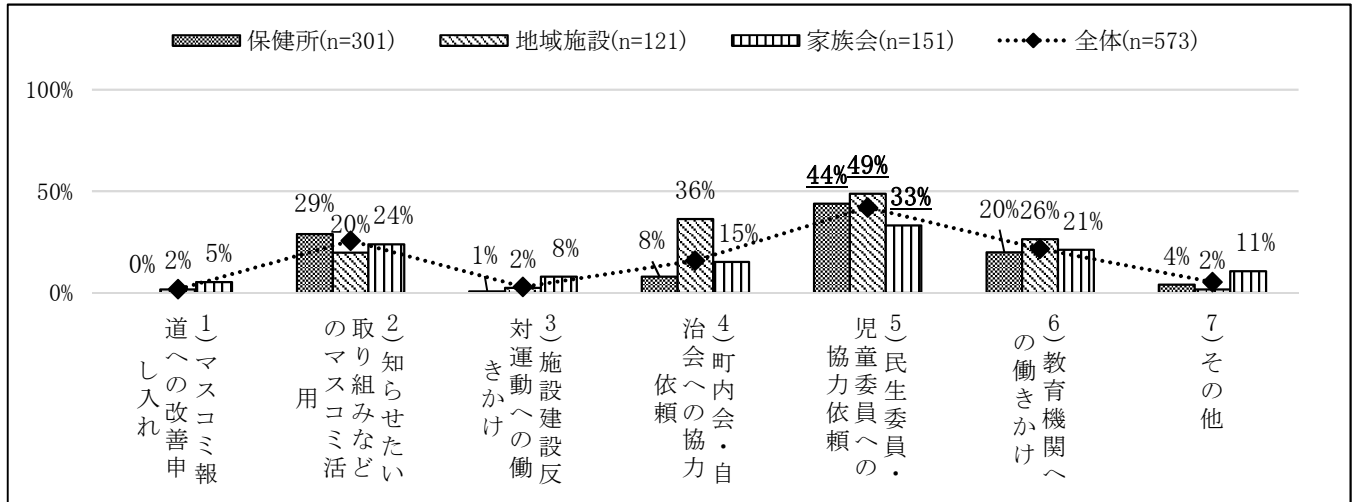
【ブロック×施設種別】



5.社会への働きかけ(現在取り組んでいる)

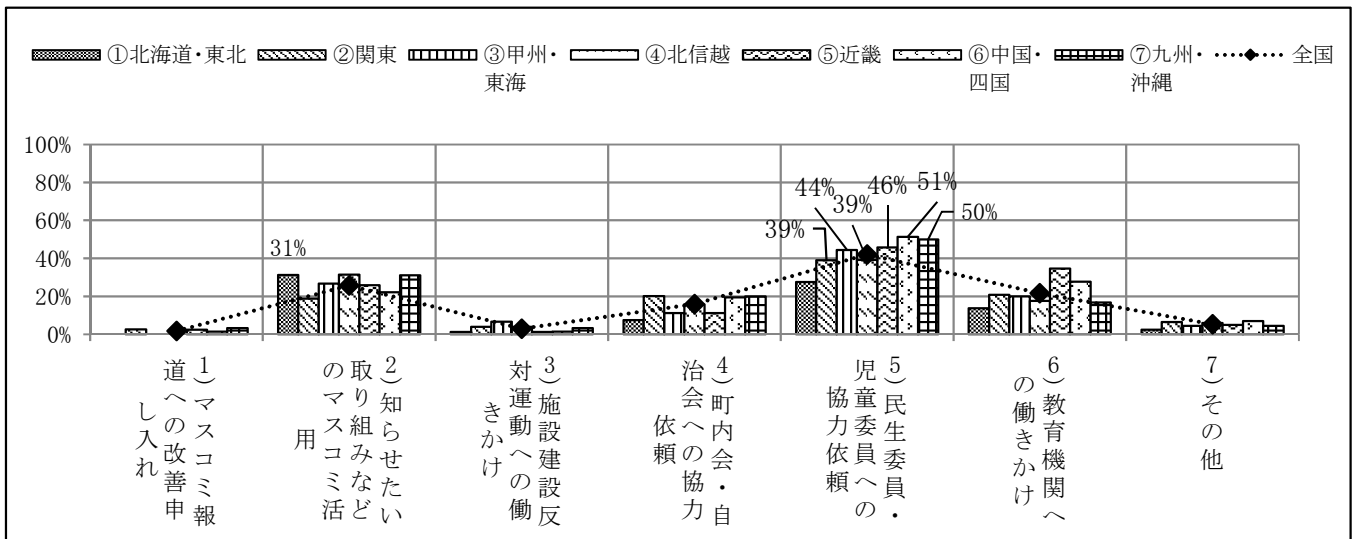
【施設種別】

		1) マスコミ報道への改善申し入れ	2) 知らせたい取り組みなどのマスコミ活用	3) 施設建設反対運動への働きかけ	4) 町内会・自治会への協力依頼	5) 民生委員・児童委員への協力依頼	6) 教育機関への働きかけ	7) その他
保健所 (n=301)		0	87	2	24	132	60	12
地域施設 (n=121)		2	24	3	44	59	32	2
家族会 (n=151)		8	36	12	23	50	32	16
全体 (n=573)		10	147	17	91	241	124	30



【ブロック別】

		1) マスコミ報道への改善申し入れ	2) 知らせたい取り組みなどのマスコミ活用	3) 施設建設反対運動への働きかけ	4) 町内会・自治会への協力依頼	5) 民生委員・児童委員への協力依頼	6) 教育機関への働きかけ	7) その他
①北海道・東北 (n=80)		0	25	1	6	22	11	2
②関東 (n=154)		4	29	6	31	60	32	10
③甲州・東海 (n=45)		0	12	3	5	20	9	2
④北信越 (n=51)		0	16	2	8	20	9	3
⑤近畿 (n=81)		2	21	1	9	37	28	4
⑥中国・四国 (n=72)		1	16	1	14	37	20	5
⑦九州・沖縄 (n=90)		3	28	3	18	45	15	4
全国 (n=573)		10	147	17	91	241	124	30



*上のグラフで値のあるものはそのカテゴリーの最多回答を示す

5.社会への働きかけ(現在取り組んでいる)

【ブロック×施設種別】

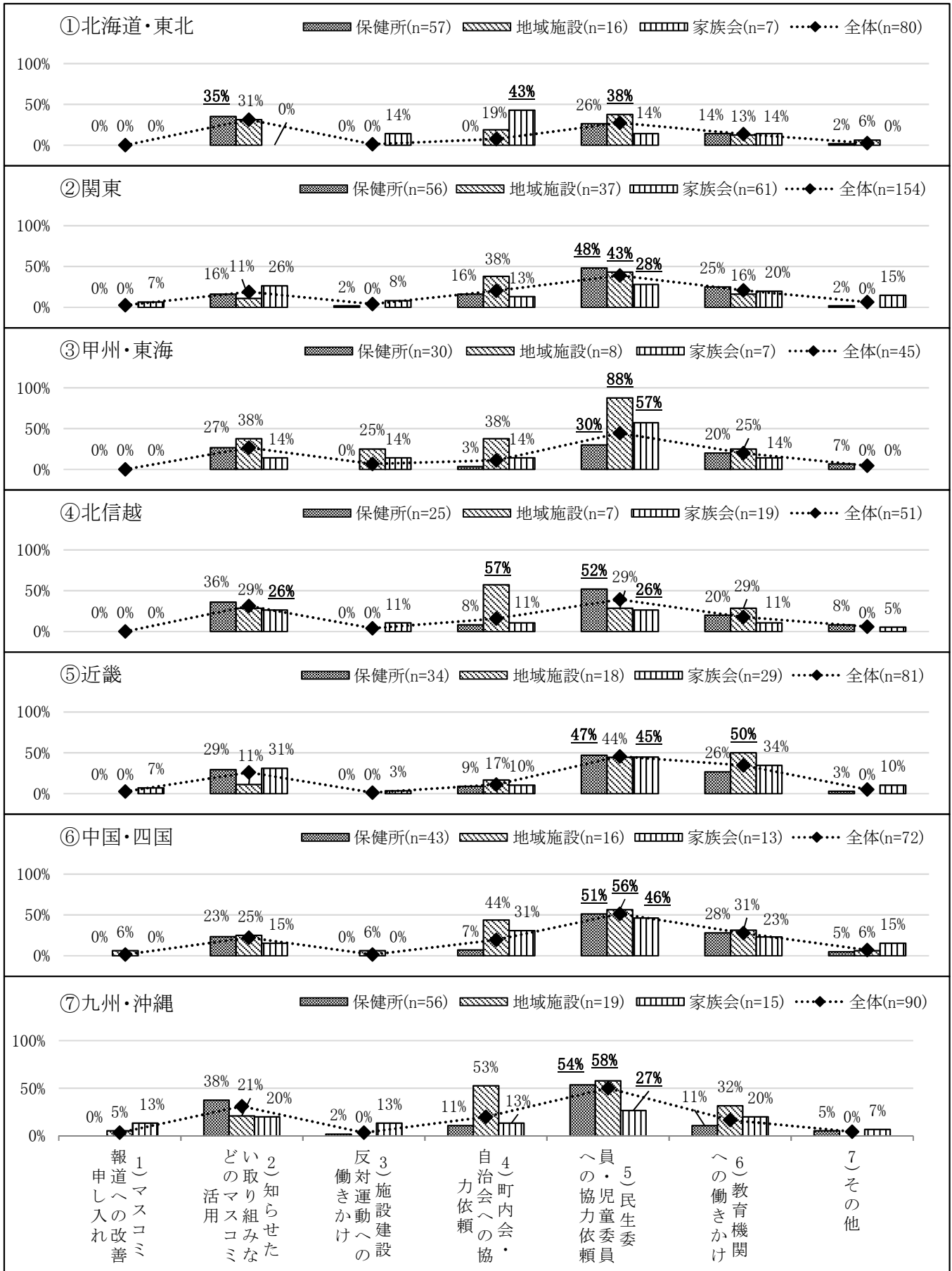
【ブロック×施設種別】		1) マスコミ 報道への改 善申し入れ	2) 知らせた い取組み などのマス コミ活用	3) 施設建設 反対運動へ の働きかけ	4) 町内会・ 自治会への 協力依頼	5) 民生委 員・児童委 員への協力 依頼	6) 教育機関 への働きか け	7) その他
①北海道・ 東北	保健所 (n=57)	0	<u>20</u>	0	0	15	8	1
	地域施設 (n=16)	0	5	0	3	<u>6</u>	2	1
	家族会 (n=7)	0	0	1	<u>3</u>	1	1	0
	全体 (n=80)	0	<u>25</u>	1	6	22	11	2
②関東	保健所 (n=56)	0	9	1	9	<u>27</u>	14	1
	地域施設 (n=37)	0	4	0	14	<u>16</u>	6	0
	家族会 (n=61)	4	16	5	8	<u>17</u>	12	9
	全体 (n=154)	4	29	6	31	<u>60</u>	32	10
③甲州・ 東海	保健所 (n=30)	0	8	0	1	<u>9</u>	6	2
	地域施設 (n=8)	0	3	2	3	<u>7</u>	2	0
	家族会 (n=7)	0	1	1	1	<u>4</u>	1	0
	全体 (n=45)	0	12	3	5	<u>20</u>	9	2
④北信越	保健所 (n=25)	0	9	0	2	<u>13</u>	5	2
	地域施設 (n=7)	0	2	0	<u>4</u>	2	2	0
	家族会 (n=19)	0	<u>5</u>	2	2	<u>5</u>	2	1
	全体 (n=51)	0	16	2	8	<u>20</u>	9	3
⑤近畿	保健所 (n=34)	0	10	0	3	<u>16</u>	9	1
	地域施設 (n=18)	0	2	0	3	8	<u>9</u>	0
	家族会 (n=29)	2	9	1	3	<u>13</u>	10	3
	全体 (n=81)	2	21	1	9	<u>37</u>	28	4
⑥中国・ 四国	保健所 (n=43)	0	10	0	3	<u>22</u>	12	2
	地域施設 (n=16)	1	4	1	7	<u>9</u>	5	1
	家族会 (n=13)	0	2	0	4	<u>6</u>	3	2
	全体 (n=72)	1	16	1	14	<u>37</u>	20	5
⑦九州・ 沖縄	保健所 (n=56)	0	21	1	6	<u>30</u>	6	3
	地域施設 (n=19)	1	4	0	10	<u>11</u>	6	0
	家族会 (n=15)	2	3	2	2	<u>4</u>	3	1
	全体 (n=90)	3	28	3	18	<u>45</u>	15	4

7)その他 の回答内容

<p>【保健所】 医療・介護関係者への働きかけ / 行政への要望活動 / 市町村支援</p> <p>【地域施設】 行政機関への働きかけ、県内市町村全て / 相談支援専門員への働きかけ / 精神科医師への働きかけ</p> <p>【家族会】 医療・介護関係者への働きかけ / 行政への要望活動 / 家族会を月一回実施 / 市町村より負担金もらう / 自治体へ医療費助成、通所費助成、ハイヤー代助成 / 色々な行事他、団体へ</p>

5.社会への働きかけ(現在取り組んでいる)

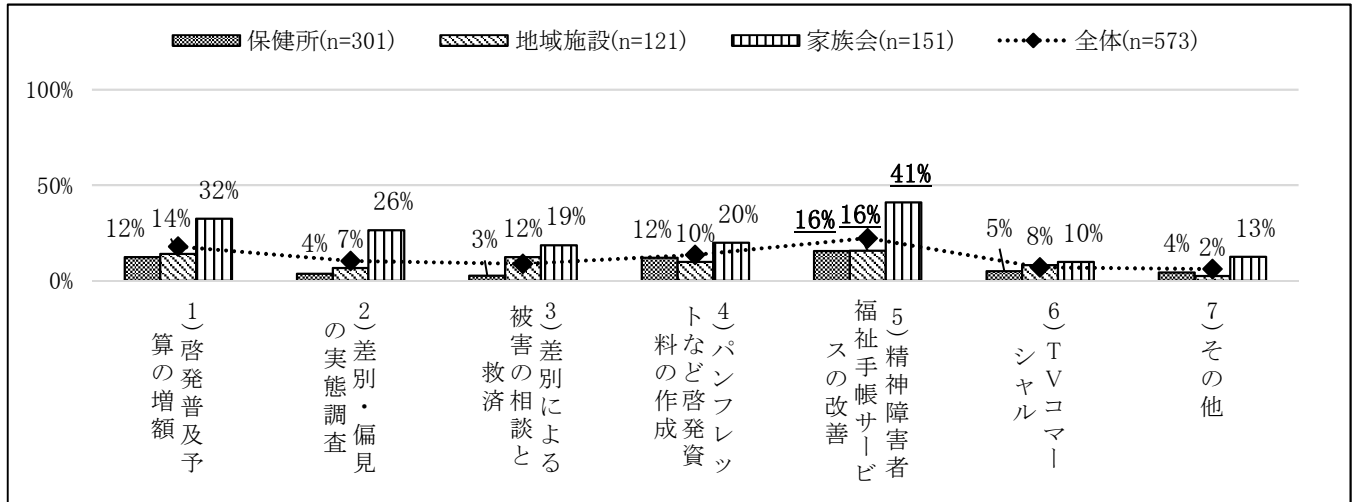
【ブロック×施設種別】



6. 国への要望（現在取り組んでいる）

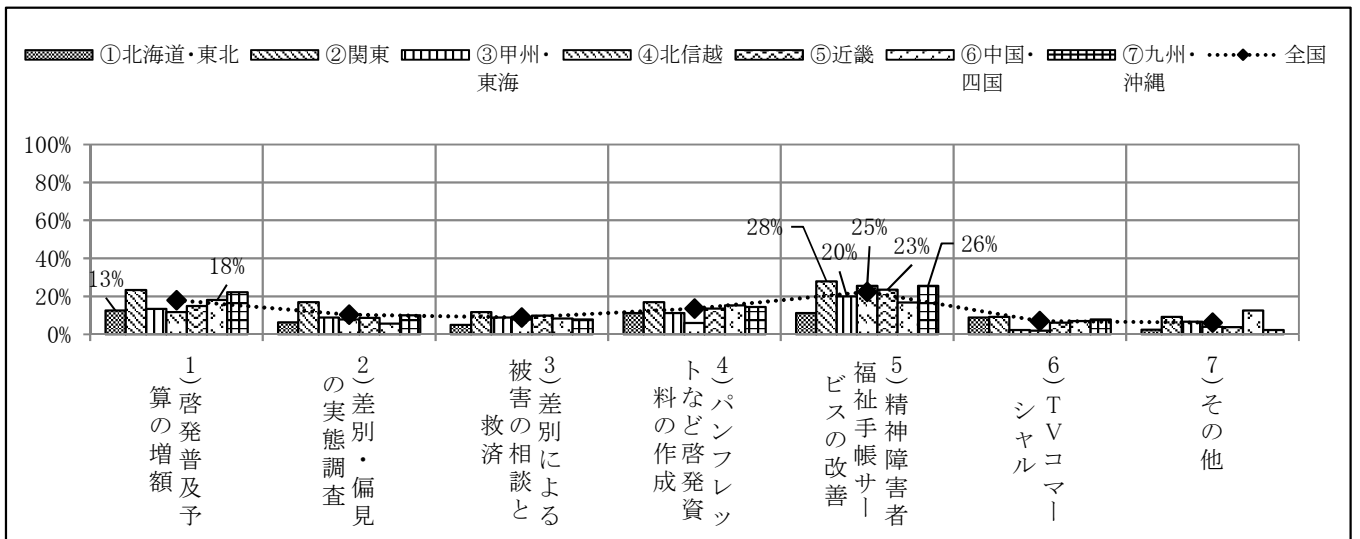
【施設種別】

		1) 啓発普及 予算の増額	2) 差別・偏 見の実態調 査	3) 差別によ る被害の相 談と救済	4) パンプ レットなど 啓発資料の 作成	5) 精神障害 者福祉手帳 サービスの 改善	6) TVコマー シャル	7) その他
保健所	(n=301)	37	11	8	36	47	15	13
地域施設	(n=121)	17	8	15	12	19	10	3
家族会	(n=151)	49	40	28	30	62	15	19
全体	(n=573)	103	59	51	78	128	40	35



【ブロック別】

		1) 啓発普及 予算の増額	2) 差別・偏 見の実態調 査	3) 差別によ る被害の相 談と救済	4) パンプ レットなど 啓発資料の 作成	5) 精神障害 者福祉手帳 サービスの 改善	6) TVコマー シャル	7) その他
①北海道・東北	(n=80)	10	5	4	9	9	7	2
②関東	(n=154)	36	26	18	26	43	14	14
③甲州・東海	(n=45)	6	4	4	5	9	1	3
④北信越	(n=51)	6	4	4	3	13	1	2
⑤近畿	(n=81)	12	7	8	11	19	5	3
⑥中国・四国	(n=72)	13	4	6	11	12	5	9
⑦九州・沖縄	(n=90)	20	9	7	13	23	7	2
全国	(n=573)	103	59	51	78	128	40	35



*上のグラフで値のあるものはそのカテゴリーの最多回答を示す

6.国への要望(現在取り組んでいる)

【ブロック×施設種別】

【ブロック×施設種別】		1) 啓発普及 予算の増額	2) 差別・偏 見の実態調 査	3) 差別によ る被害の相 談と救済	4) パンプ レットなど 啓発資料の 作成	5) 精神障害 者福祉手帳 サービスの 改善	6) TVコマー シャル	7) その他
①北海道・ 東北	保健所 (n=57)	4	1	1	<u>6</u>	5	3	1
	地域施設 (n=16)	<u>3</u>	2	<u>3</u>	2	<u>3</u>	<u>3</u>	1
	家族会 (n=7)	<u>3</u>	2	0	1	1	1	0
	全体 (n=80)	<u>10</u>	5	4	9	9	7	2
②関東	保健所 (n=56)	9	2	2	9	<u>10</u>	5	1
	地域施設 (n=37)	4	4	3	4	<u>6</u>	3	1
	家族会 (n=61)	23	20	13	13	<u>27</u>	6	12
	全体 (n=154)	36	26	18	26	<u>43</u>	14	14
③甲州・ 東海	保健所 (n=30)	2	3	2	<u>5</u>	4	1	2
	地域施設 (n=8)	<u>2</u>	0	<u>2</u>	0	1	0	0
	家族会 (n=7)	2	1	0	0	<u>4</u>	0	1
	全体 (n=45)	6	4	4	5	<u>9</u>	1	3
④北信越	保健所 (n=25)	1	1	1	1	<u>3</u>	0	1
	地域施設 (n=7)	<u>1</u>	0	0	0	<u>1</u>	0	0
	家族会 (n=19)	4	3	3	2	<u>9</u>	1	1
	全体 (n=51)	6	4	4	3	<u>13</u>	1	2
⑤近畿	保健所 (n=34)	3	1	1	2	<u>7</u>	1	2
	地域施設 (n=18)	2	1	2	<u>4</u>	0	1	0
	家族会 (n=29)	7	5	5	5	<u>12</u>	3	1
	全体 (n=81)	12	7	8	11	<u>19</u>	5	3
⑥中国・ 四国	保健所 (n=43)	<u>9</u>	1	0	5	6	2	4
	地域施設 (n=16)	1	0	<u>3</u>	1	2	0	1
	家族会 (n=13)	3	3	3	<u>5</u>	4	3	4
	全体 (n=72)	<u>13</u>	4	6	11	12	5	9
⑦九州・ 沖縄	保健所 (n=56)	9	2	1	8	<u>12</u>	3	2
	地域施設 (n=19)	4	1	2	1	<u>6</u>	3	0
	家族会 (n=15)	<u>7</u>	6	4	4	5	1	0
	全体 (n=90)	20	9	7	13	<u>23</u>	7	2

7)その他 の回答内容

【保健所】

交通費助成 / 人材確保施策 / 教育関連施策 / 障害福祉サービスの充実 / 地域移行促進に向けた関連事業への法定給付費引き上げ

【地域施設】

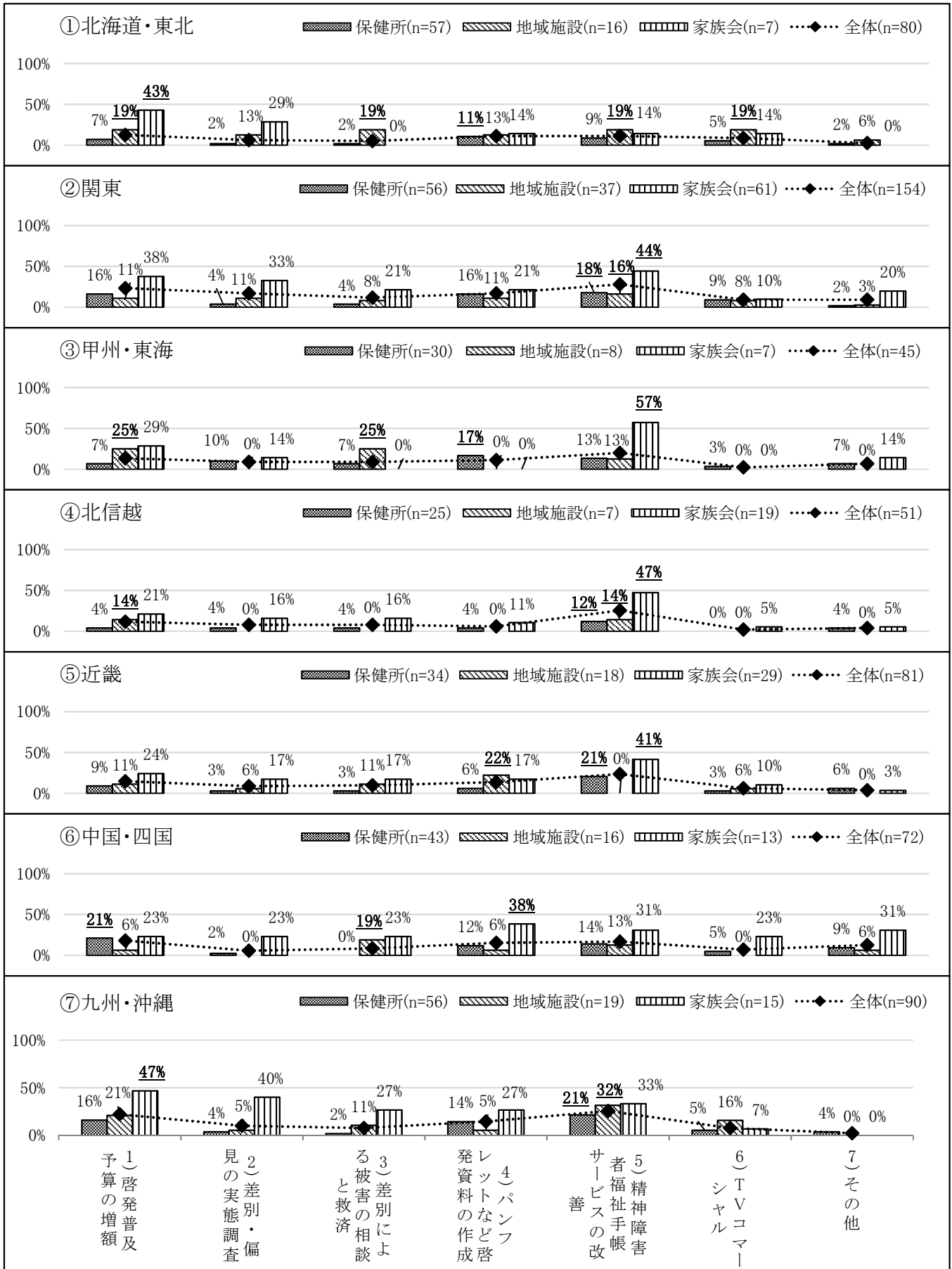
精神科病院での長期入院患者の退院阻害要因の調査

【家族会】

交通費助成 / 人材確保施策 / 他障害との格差解消 / 年金制度の改善 / 教育関連施策 / 家族会で電話相談をしているが、赤字。 / 相談事業の実施、家族支援…かけこみ寺の確保 / 市議会議員に協力を得て、家族相談員制度の法制化に向けての国会請願を行なった。

6.国への要望(現在取り組んでいる)

【ブロック×施設種別】



7.その他(現在取り組んでいる)

【保健所】

保健所担当職員数の増加、精神保健福祉士の配置等、現場の体制強化を県庁本課に要望 / 長期入院者の地域移行支援 / 家族ピアサポートに対する理解と後押しを求める働きかけ / 精神保健相談、通報対応、受診支援 / 精神障がい者が地域で生活することを支援する相談事業所等の困難事例の検討会等 / 障害者施設商品の積極的購入 / ピアサポーターの養成

【地域施設】

精神科病院職員への研修(地域で生活する意味の理解と、病院での抱え込み弊害について) / 自立支援協議会との連携

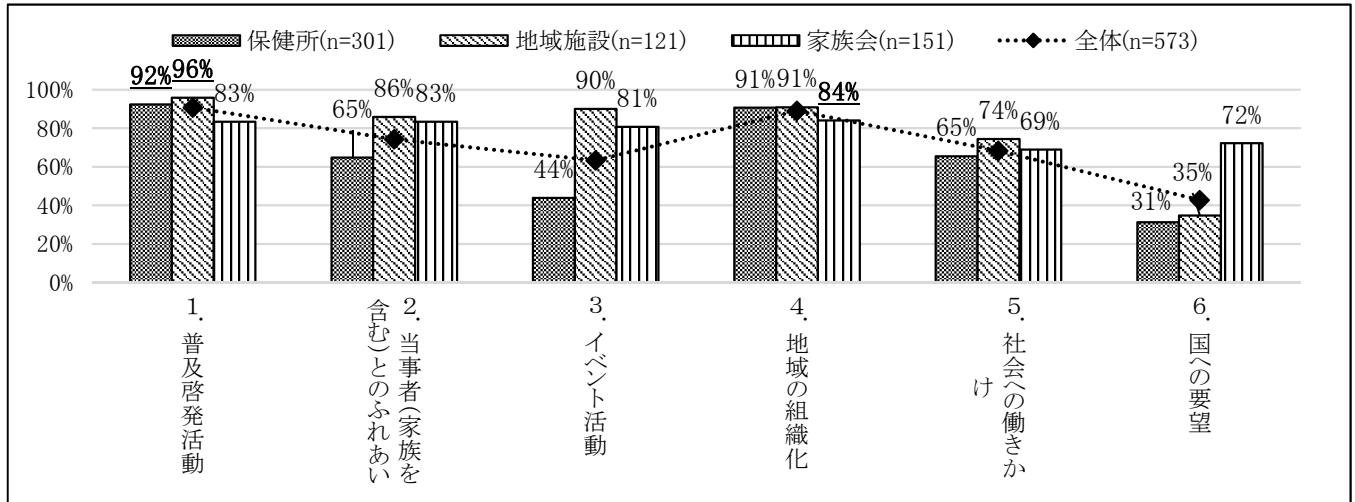
【家族会】

県連合会を通じて、相談員による電話相談活動 / 市町村への要望活動 / 当事者を支えている家族への支援(助成金の支援・行政職の理解や認知) / 精神障害者の交通運賃割引実現に向けての取組み / 毎年、市長、町長への要望活動 / すべての支援、サービスの届かない人々への働きかけが重要と思います。 / 県連の活動に協力して、三障害同等の医療費助成について、県に要望 / 自治体への協力依頼 / 行政窓口の充実(市役所などの相談窓口) / 親亡き後の生活を自立して生活できるようにするために何を支援、補助が必要か、話し合いを続けている。 / 精神障害を持つ家族による、家族のための相談会を第1・3木曜日に実施(一般向け、家族の精神障害に悩んでいる方を対象)。 / 毎月当会家族の会員を主な対象とした、勉強会、茶話会、地域施設見学会等、定例会を実施している。

E 現在取り組んでいる内容(カテゴリー毎のまとめ)

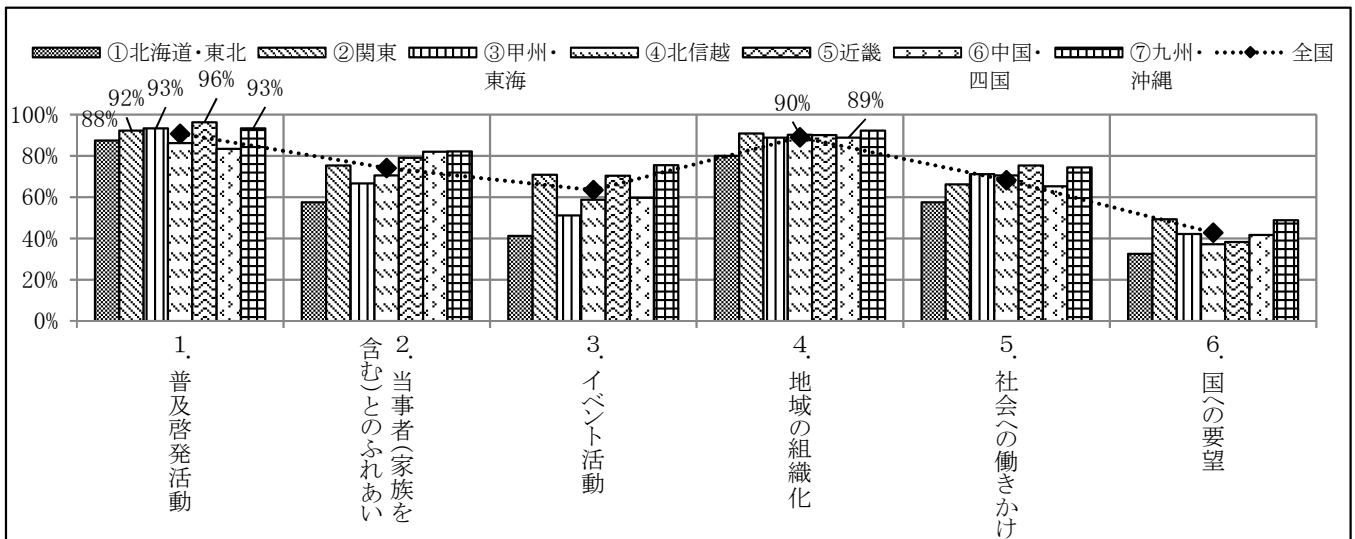
【施設種別】

	1. 普及啓発活動	2. 当事者(家族を含む)とのふれあい	3. イベント活動	4. 地域の組織化	5. 社会への働きかけ	6. 国への要望
保健所 (n=301)	<u>278</u>	195	132	273	197	94
地域施設 (n=121)	<u>116</u>	104	109	110	90	42
家族会 (n=151)	126	126	122	<u>127</u>	104	109
全体 (n=573)	<u>520</u>	425	363	510	391	245



【ブロック別】

	1. 普及啓発活動	2. 当事者(家族を含む)とのふれあい	3. イベント活動	4. 地域の組織化	5. 社会への働きかけ	6. 国への要望
①北海道・東北 (n=80)	<u>70</u>	46	33	64	46	26
②関東 (n=154)	<u>142</u>	116	109	140	102	76
③甲州・東海 (n=45)	<u>42</u>	30	23	40	32	19
④北信越 (n=51)	44	36	30	<u>46</u>	36	19
⑤近畿 (n=81)	<u>78</u>	64	57	73	61	31
⑥中国・四国 (n=72)	60	59	43	<u>64</u>	47	30
⑦九州・沖縄 (n=90)	<u>84</u>	74	68	83	67	44
全国 (n=573)	<u>520</u>	425	363	510	391	245



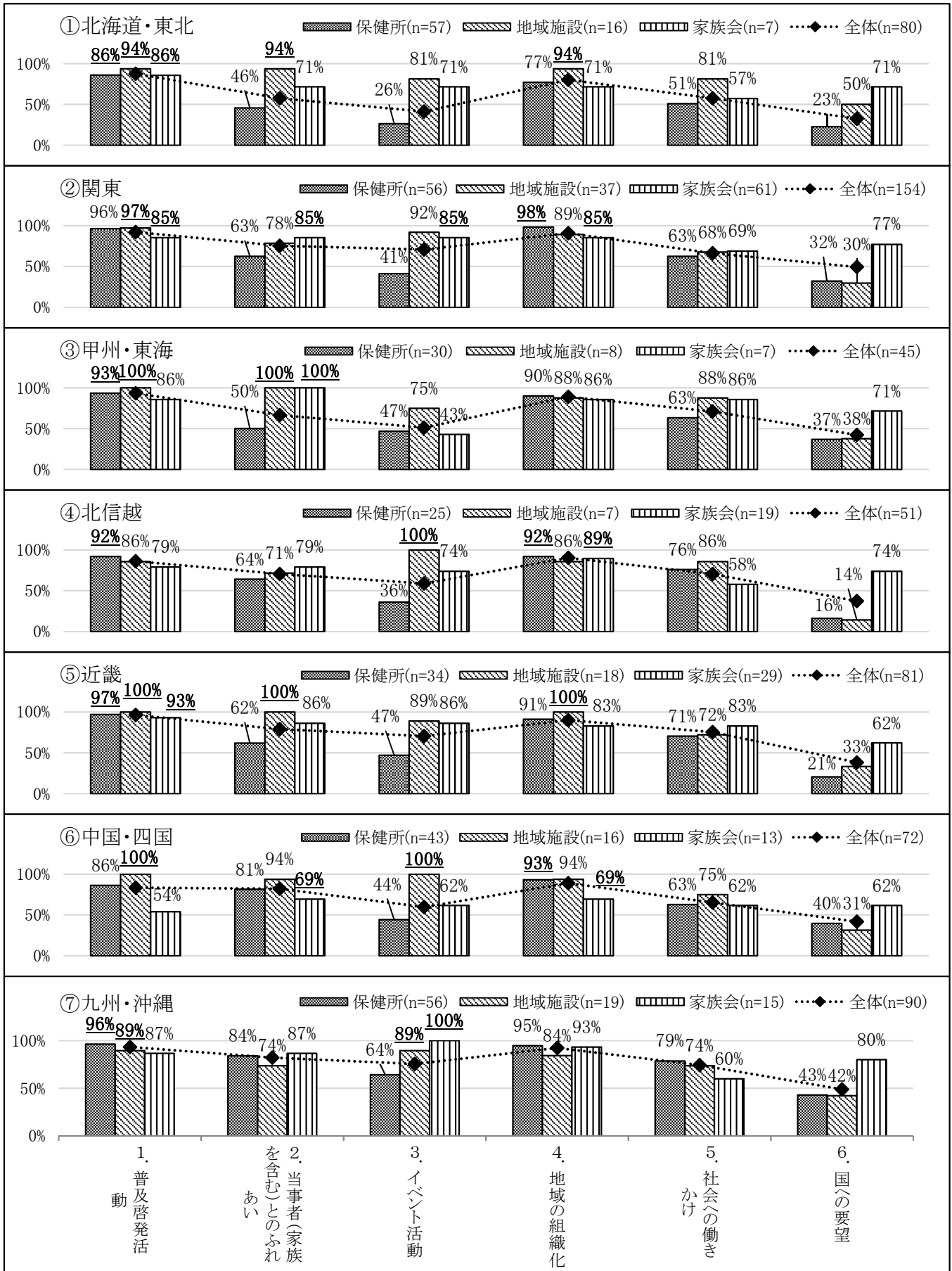
*上のグラフで値のあるものはそのカテゴリーの最多回答を示す

E 現在取り組んでいる内容(カテゴリー毎のまとめ)

【ブロック×施設種別】

【ブロック×施設種別】		1. 普及啓発活動	2. 当事者(家族を含む)とのふれあい	3. イベント活動	4. 地域の組織化	5. 社会への働きかけ	6. 国への要望
①北海道・東北	保健所 (n=57)	<u>49</u>	26	15	44	29	13
	地域施設 (n=16)	<u>15</u>	<u>15</u>	13	<u>15</u>	13	8
	家族会 (n=7)	<u>6</u>	5	5	5	4	5
	全体 (n=80)	<u>70</u>	46	33	64	46	26
②関東	保健所 (n=56)	54	35	23	<u>55</u>	35	18
	地域施設 (n=37)	<u>36</u>	29	34	33	25	11
	家族会 (n=61)	<u>52</u>	<u>52</u>	<u>52</u>	<u>52</u>	42	47
	全体 (n=154)	<u>142</u>	116	109	140	102	76
③甲州・東海	保健所 (n=30)	<u>28</u>	15	14	27	19	11
	地域施設 (n=8)	<u>8</u>	<u>8</u>	6	7	7	3
	家族会 (n=7)	6	<u>7</u>	3	6	6	5
	全体 (n=45)	<u>42</u>	30	23	40	32	19
④北信越	保健所 (n=25)	<u>23</u>	16	9	<u>23</u>	19	4
	地域施設 (n=7)	6	5	<u>7</u>	6	6	1
	家族会 (n=19)	15	15	14	<u>17</u>	11	14
	全体 (n=51)	44	36	30	<u>46</u>	36	19
⑤近畿	保健所 (n=34)	<u>33</u>	21	16	31	24	7
	地域施設 (n=18)	<u>18</u>	<u>18</u>	16	<u>18</u>	13	6
	家族会 (n=29)	<u>27</u>	25	25	24	24	18
	全体 (n=81)	<u>78</u>	64	57	73	61	31
⑥中国・四国	保健所 (n=43)	37	35	19	<u>40</u>	27	17
	地域施設 (n=16)	<u>16</u>	15	<u>16</u>	15	12	5
	家族会 (n=13)	7	<u>9</u>	8	<u>9</u>	8	8
	全体 (n=72)	60	59	43	<u>64</u>	47	30
⑦九州・沖縄	保健所 (n=56)	<u>54</u>	47	36	53	44	24
	地域施設 (n=19)	<u>17</u>	14	<u>17</u>	16	14	8
	家族会 (n=15)	13	13	<u>15</u>	14	9	12
	全体 (n=90)	<u>84</u>	74	68	83	67	44

E 現在取り組んでいる内容 (カテゴリ毎のまとめ)
【ブロック×施設種別】

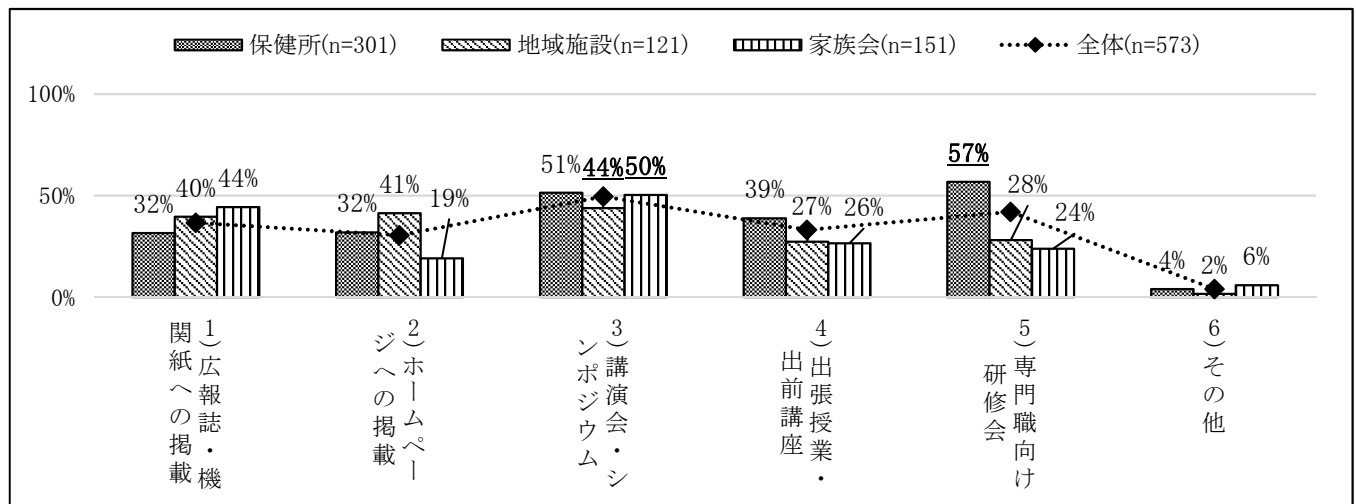


F 今後、実施したい取り組み

1. 普及啓発活動

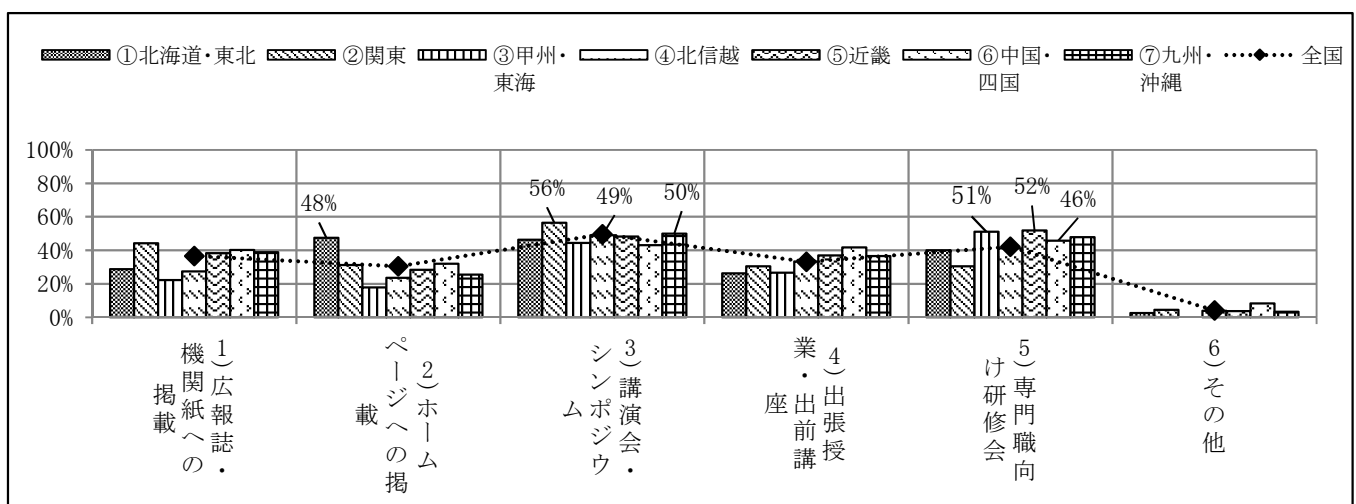
【施設種別】

	1) 広報誌・ 機関紙への 掲載	2) ホーム ページへの 掲載	3) 講演会・ シンポジウ ム	4) 出張授 業・出前講 座	5) 専門職向 け研修会	6) その他
保健所 (n=301)	95	96	155	117	<u>171</u>	12
地域施設 (n=121)	48	50	<u>53</u>	33	34	2
家族会 (n=151)	67	29	<u>76</u>	40	36	9
全体 (n=573)	210	175	<u>284</u>	190	241	23



【ブロック別】

	1) 広報誌・ 機関紙への 掲載	2) ホーム ページへの 掲載	3) 講演会・ シンポジウ ム	4) 出張授 業・出前講 座	5) 専門職向 け研修会	6) その他
①北海道・東北 (n=80)	23	<u>38</u>	37	21	32	2
②関東 (n=154)	68	48	<u>87</u>	47	47	7
③甲州・東海 (n=45)	10	8	20	12	<u>23</u>	0
④北信越 (n=51)	14	12	<u>25</u>	17	21	2
⑤近畿 (n=81)	31	23	39	30	<u>42</u>	3
⑥中国・四国 (n=72)	29	23	31	30	<u>33</u>	6
⑦九州・沖縄 (n=90)	35	23	<u>45</u>	33	43	3
全国 (n=573)	210	175	<u>284</u>	190	241	23



*上のグラフで値のあるものはそのカテゴリーの最多回答を示す

1.普及啓発活動(今後、実施したい)

【ブロック×施設種別】

		1) 広報誌・ 機関紙への 掲載	2) ホーム ページへの 掲載	3) 講演会・ シンポジウ ム	4) 出張授 業・出前講 座	5) 専門職向 け研修会	6) その他
①北海道・ 東北	保健所 (n=57)	17	26	<u>28</u>	20	25	1
	地域施設 (n=16)	5	<u>7</u>	5	1	4	0
	家族会 (n=7)	1	<u>5</u>	4	0	3	1
	全体 (n=80)	23	<u>38</u>	37	21	32	2
②関東	保健所 (n=56)	21	20	<u>33</u>	21	32	2
	地域施設 (n=37)	16	13	<u>18</u>	7	5	0
	家族会 (n=61)	31	15	<u>36</u>	19	10	5
	全体 (n=154)	68	48	<u>87</u>	47	47	7
③甲州・ 東海	保健所 (n=30)	6	5	11	8	<u>19</u>	0
	地域施設 (n=8)	2	<u>3</u>	<u>3</u>	<u>3</u>	<u>3</u>	0
	家族会 (n=7)	2	0	<u>6</u>	1	1	0
	全体 (n=45)	10	8	20	12	<u>23</u>	0
④北信越	保健所 (n=25)	4	7	16	11	<u>18</u>	1
	地域施設 (n=7)	3	<u>4</u>	1	2	2	0
	家族会 (n=19)	7	1	<u>8</u>	4	1	1
	全体 (n=51)	14	12	<u>25</u>	17	21	2
⑤近畿	保健所 (n=34)	12	10	18	13	<u>22</u>	1
	地域施設 (n=18)	6	<u>10</u>	<u>10</u>	8	8	0
	家族会 (n=29)	<u>13</u>	3	11	9	12	2
	全体 (n=81)	31	23	39	30	<u>42</u>	3
⑥中国・ 四国	保健所 (n=43)	13	17	20	21	<u>22</u>	4
	地域施設 (n=16)	<u>9</u>	5	6	5	6	2
	家族会 (n=13)	<u>7</u>	1	5	4	5	0
	全体 (n=72)	29	23	31	30	<u>33</u>	6
⑦九州・ 沖縄	保健所 (n=56)	22	11	29	23	<u>33</u>	3
	地域施設 (n=19)	7	8	<u>10</u>	7	6	0
	家族会 (n=15)	<u>6</u>	4	<u>6</u>	3	4	0
	全体 (n=90)	35	23	<u>45</u>	33	43	3

6)その他 の回答内容

<p>【保健所】 会報・チラシ・パンフ・ポスター / 街頭活動 / あったかふれあいセンター等の高知型福祉関係職員への啓発 / 相談対応の中で地域住民・医療機関への協力依頼・啓発を続ける。 / ゲートキーパー養成講座の実施、特に健康問題に無関心な住民 / 各機会をとらえての啓発活動</p> <p>【地域施設】 教育現場での啓発</p> <p>【家族会】 会報・チラシ・パンフ・ポスター / 教育現場での啓発 / 引続き家族による家族学習会 / 他団体開催行事への参加 / 専門職との連携</p>
--

1.普及啓発活動(今後、実施したい)

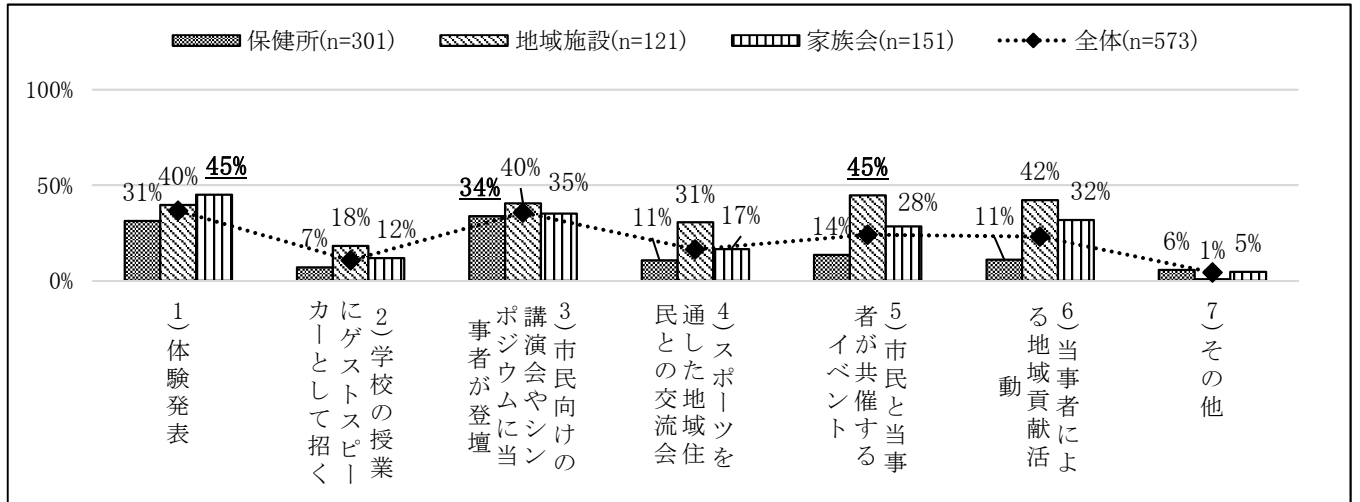
【ブロック×施設種別】



2. 当事者とのふれあい(今後、実施したい)

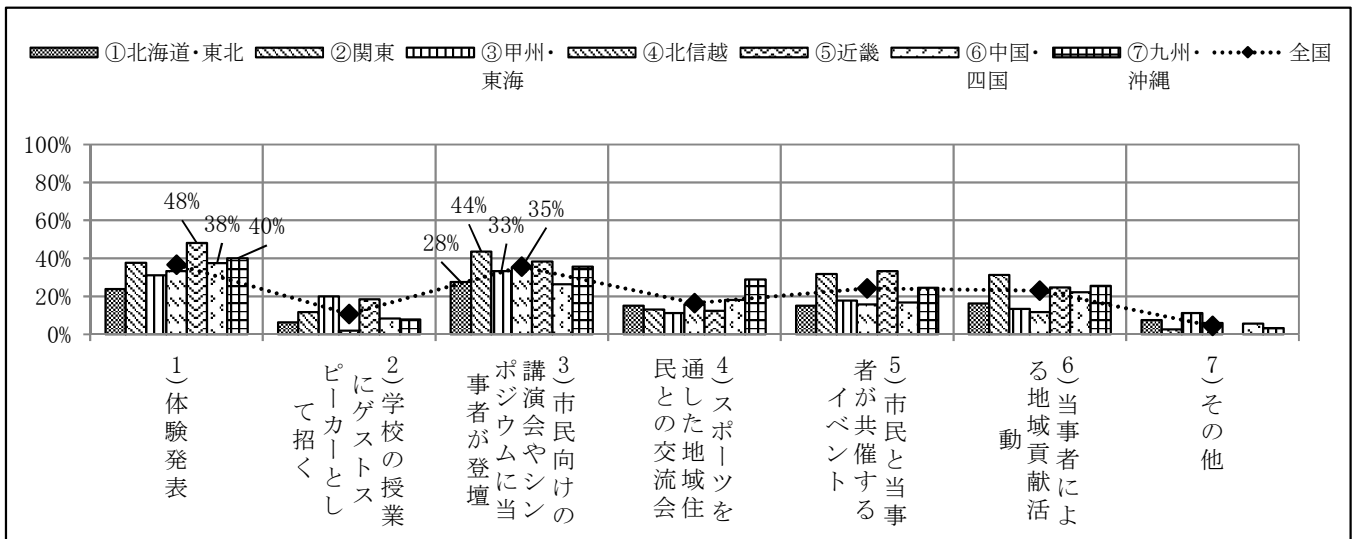
【施設種別】

	1) 体験発表	2) 学校の授業にゲストスピーカーとして招く	3) 市民向けの講演会やシンポジウムに当事者が登壇	4) スポーツを通じた地域住民との交流会	5) 市民と当事者が共催するイベント	6) 当事者による地域貢献活動	7) その他
保健所 (n=301)	94	21	102	32	41	33	17
地域施設 (n=121)	48	22	49	37	54	51	1
家族会 (n=151)	68	18	53	25	43	48	7
全体 (n=573)	210	61	204	94	138	132	25



【ブロック別】

	1) 体験発表	2) 学校の授業にゲストスピーカーとして招く	3) 市民向けの講演会やシンポジウムに当事者が登壇	4) スポーツを通じた地域住民との交流会	5) 市民と当事者が共催するイベント	6) 当事者による地域貢献活動	7) その他
①北海道・東北 (n=80)	19	5	22	12	12	13	6
②関東 (n=154)	58	18	67	20	49	48	4
③甲州・東海 (n=45)	14	9	15	5	8	6	5
④北信越 (n=51)	17	1	18	8	8	6	3
⑤近畿 (n=81)	39	15	31	10	27	20	0
⑥中国・四国 (n=72)	27	6	19	13	12	16	4
⑦九州・沖縄 (n=90)	36	7	32	26	22	23	3
全国 (n=573)	210	61	204	94	138	132	25



*上のグラフで値のあるものはそのカテゴリーの最多回答を示す

2.当事者とのふれあい(今後、実施したい)

【ブロック×施設種別】

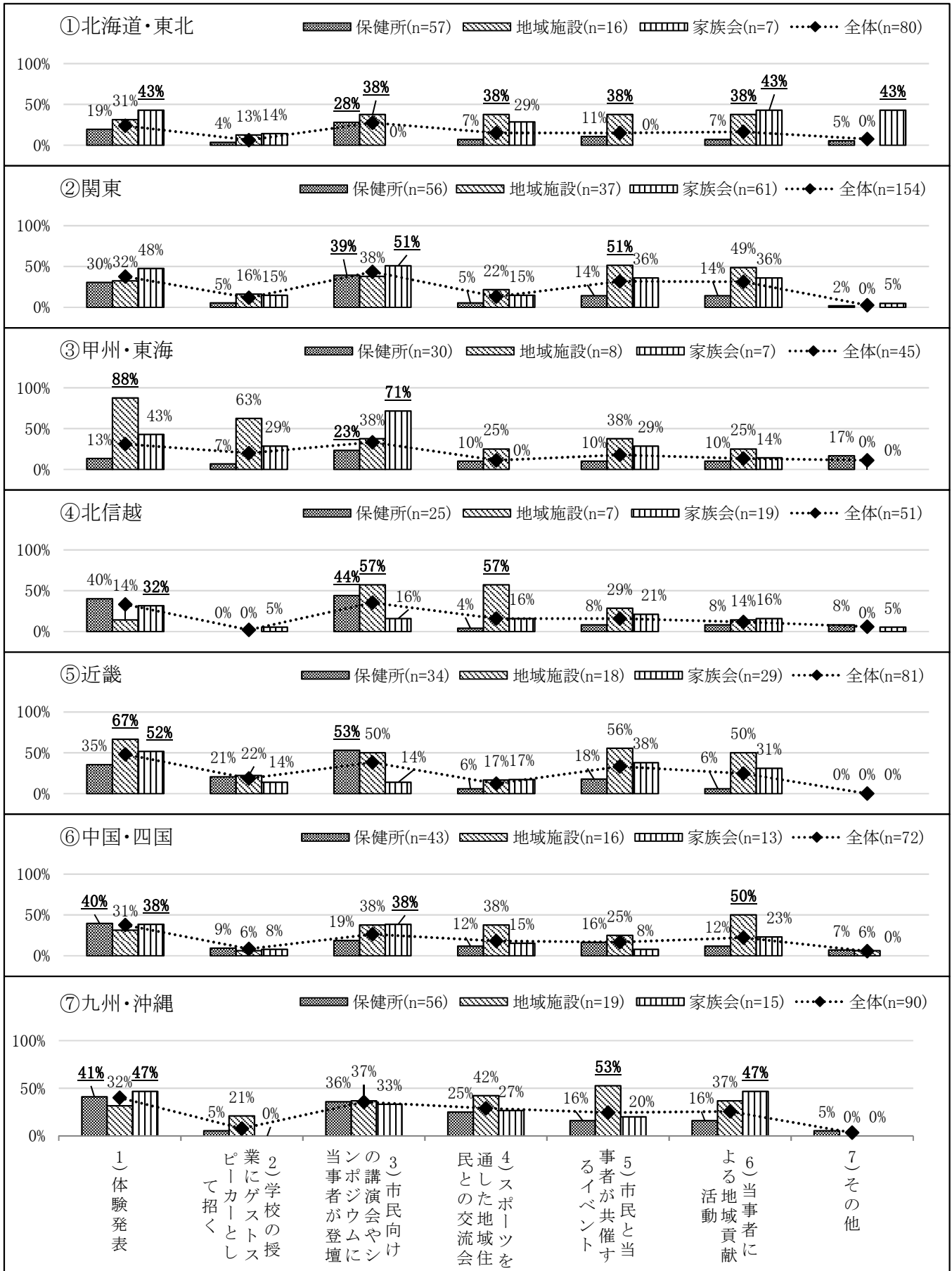
【ブロック×施設種別】		1) 体験発表	2) 学校の授業にゲストスピーカーとして招く	3) 市民向けの講演会やシンポジウムに当事者が登壇	4) スポーツを通じた地域住民との交流会	5) 市民と当事者が共催するイベント	6) 当事者による地域貢献活動	7) その他
①北海道・東北	保健所 (n=57)	11	2	<u>16</u>	4	6	4	3
	地域施設 (n=16)	5	2	<u>6</u>	<u>6</u>	<u>6</u>	<u>6</u>	0
	家族会 (n=7)	<u>3</u>	1	0	2	0	<u>3</u>	<u>3</u>
	全体 (n=80)	19	5	<u>22</u>	12	12	13	6
②関東	保健所 (n=56)	17	3	<u>22</u>	3	8	8	1
	地域施設 (n=37)	12	6	14	8	<u>19</u>	18	0
	家族会 (n=61)	29	9	<u>31</u>	9	22	22	3
	全体 (n=154)	58	18	<u>67</u>	20	49	48	4
③甲州・東海	保健所 (n=30)	4	2	<u>7</u>	3	3	3	5
	地域施設 (n=8)	<u>7</u>	5	3	2	3	2	0
	家族会 (n=7)	3	2	<u>5</u>	0	2	1	0
	全体 (n=45)	14	9	<u>15</u>	5	8	6	5
④北信越	保健所 (n=25)	10	0	<u>11</u>	1	2	2	2
	地域施設 (n=7)	1	0	<u>4</u>	<u>4</u>	2	1	0
	家族会 (n=19)	<u>6</u>	1	3	3	4	3	1
	全体 (n=51)	17	1	<u>18</u>	8	8	6	3
⑤近畿	保健所 (n=34)	12	7	<u>18</u>	2	6	2	0
	地域施設 (n=18)	<u>12</u>	4	9	3	10	9	0
	家族会 (n=29)	<u>15</u>	4	4	5	11	9	0
	全体 (n=81)	<u>39</u>	15	31	10	27	20	0
⑥中国・四国	保健所 (n=43)	<u>17</u>	4	8	5	7	5	3
	地域施設 (n=16)	5	1	6	6	4	<u>8</u>	1
	家族会 (n=13)	<u>5</u>	1	<u>5</u>	2	1	3	0
	全体 (n=72)	<u>27</u>	6	19	13	12	16	4
⑦九州・沖縄	保健所 (n=56)	<u>23</u>	3	20	14	9	9	3
	地域施設 (n=19)	6	4	7	8	<u>10</u>	7	0
	家族会 (n=15)	<u>7</u>	0	5	4	3	<u>7</u>	0
	全体 (n=90)	<u>36</u>	7	32	26	22	23	3

7)その他 の回答内容

<p>【保健所】 入院患者に対するピア活動 / 家族教室 / 当事者による地域移行支援 / 家族教室の講師、ソーシャルクラブ / レクリエーション教室を通じた交流 / 各機会に応じて協力いただく / ピアとして当事者への交流促進</p> <p>【地域施設】 入院患者さんへのピアサポート</p> <p>【家族会】 「当事者団体とのふれあい」はとれるが(当事者単会)は無理←対県レベルの家族会として、ふれあいをとりたい。 / 街中にふれあいカフェをつくる / 主に精神障がい者対象の事業所や家族会へ研修の一環として参加依頼。</p>

2.当事者とのふれあい(今後、実施したい)

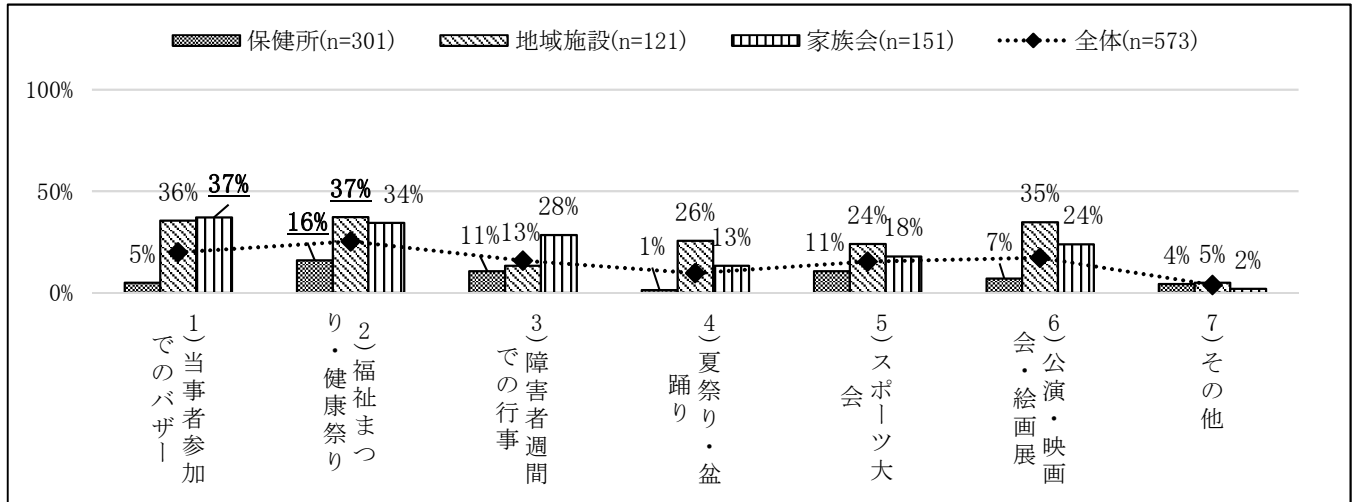
【ブロック×施設種別】



3. イベント活動(今後、実施したい)

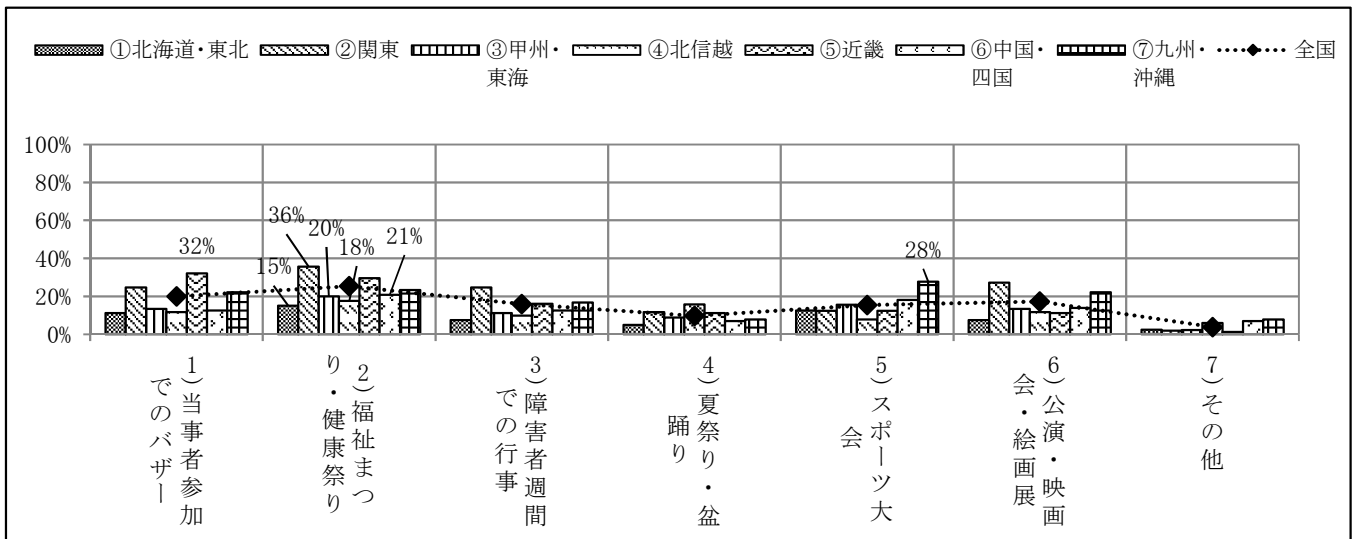
【施設種別】

	1) 当事者参加でのバザーの実施	2) 福祉まつり・健康祭り	3) 障害者週間での行事実施	4) 夏祭り・盆踊り	5) スポーツ大会	6) さまざまな公演・映画会・絵画展	7) その他
保健所 (n=301)	15	<u>48</u>	32	4	32	21	13
地域施設 (n=121)	43	<u>45</u>	16	31	29	42	6
家族会 (n=151)	<u>56</u>	52	43	20	27	36	3
全体 (n=573)	114	<u>145</u>	91	55	88	99	22



【ブロック別】

	1) 当事者参加でのバザーの実施	2) 福祉まつり・健康祭り	3) 障害者週間での行事実施	4) 夏祭り・盆踊り	5) スポーツ大会	6) さまざまな公演・映画会・絵画展	7) その他
①北海道・東北 (n=80)	9	<u>12</u>	6	4	10	6	2
②関東 (n=154)	38	<u>55</u>	38	18	19	42	3
③甲州・東海 (n=45)	6	<u>9</u>	5	4	7	6	1
④北信越 (n=51)	6	<u>9</u>	5	8	4	6	3
⑤近畿 (n=81)	<u>26</u>	24	13	9	10	9	1
⑥中国・四国 (n=72)	9	<u>15</u>	9	5	13	10	5
⑦九州・沖縄 (n=90)	20	21	15	7	<u>25</u>	20	7
全国 (n=573)	114	<u>145</u>	91	55	88	99	22



*上のグラフで値のあるものはそのカテゴリーの最多回答を示す

3. イベント活動(今後、実施したい)

【ブロック×施設種別】

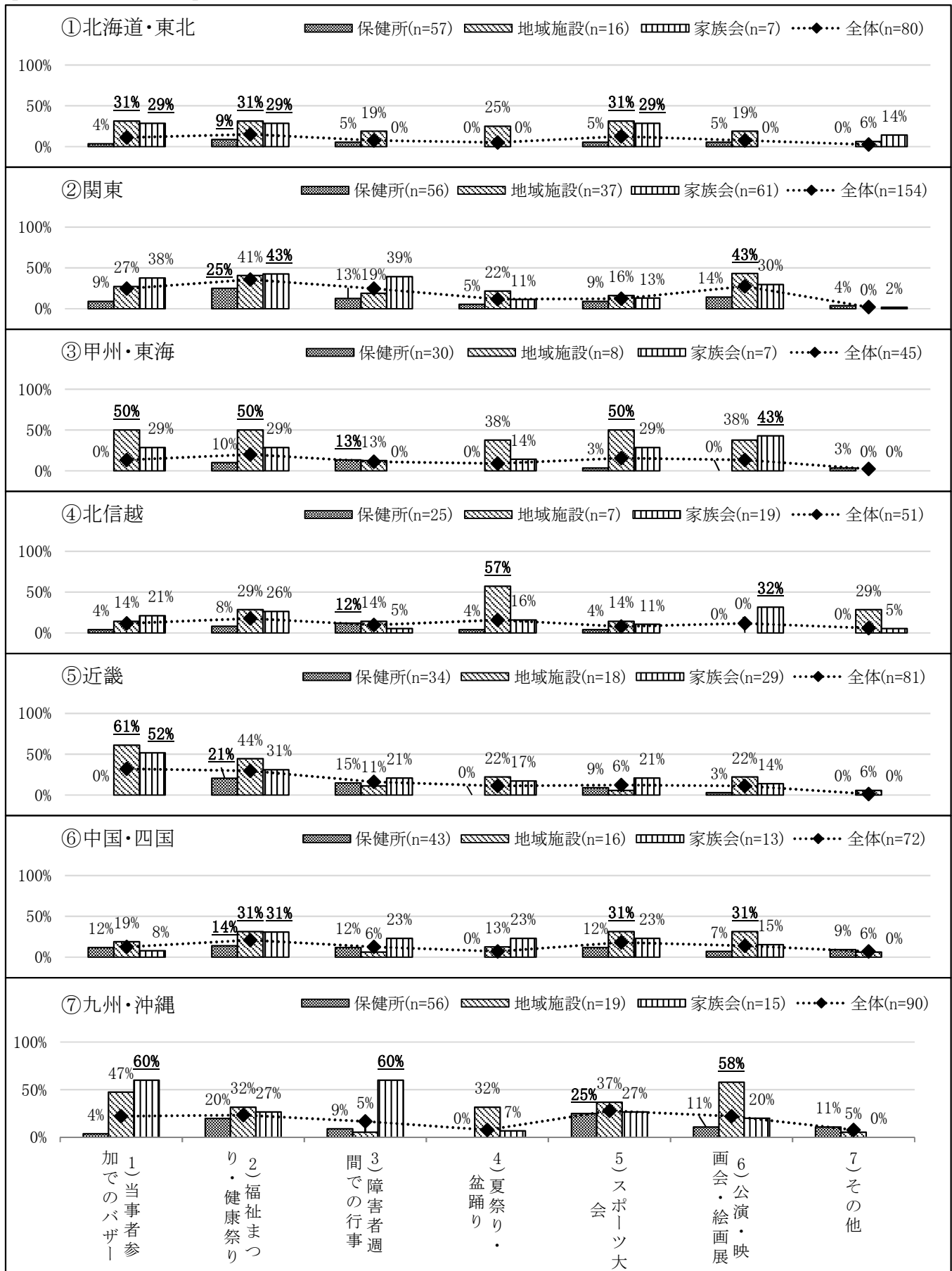
【ブロック×施設種別】		1) 当事者参加でのバザーの実施	2) 福祉まつり・健康祭り	3) 障害者週間での行事実施	4) 夏祭り・盆踊り	5) スポーツ大会	6) さまざまな公演・映画会・絵画展	7) その他
①北海道・東北	保健所 (n=57)	2	<u>5</u>	3	0	3	3	0
	地域施設 (n=16)	<u>5</u>	<u>5</u>	3	4	<u>5</u>	3	1
	家族会 (n=7)	<u>2</u>	<u>2</u>	0	0	<u>2</u>	0	1
	全体 (n=80)	9	<u>12</u>	6	4	10	6	2
②関東	保健所 (n=56)	5	<u>14</u>	7	3	5	8	2
	地域施設 (n=37)	10	15	7	8	6	<u>16</u>	0
	家族会 (n=61)	23	<u>26</u>	24	7	8	18	1
	全体 (n=154)	38	<u>55</u>	38	18	19	42	3
③甲州・東海	保健所 (n=30)	0	3	<u>4</u>	0	1	0	1
	地域施設 (n=8)	<u>4</u>	<u>4</u>	1	3	<u>4</u>	3	0
	家族会 (n=7)	2	2	0	1	2	<u>3</u>	0
	全体 (n=45)	6	<u>9</u>	5	4	7	6	1
④北信越	保健所 (n=25)	1	2	<u>3</u>	1	1	0	0
	地域施設 (n=7)	1	2	1	<u>4</u>	1	0	2
	家族会 (n=19)	4	5	1	3	2	<u>6</u>	1
	全体 (n=51)	6	<u>9</u>	5	8	4	6	3
⑤近畿	保健所 (n=34)	0	<u>7</u>	5	0	3	1	0
	地域施設 (n=18)	<u>11</u>	8	2	4	1	4	1
	家族会 (n=29)	<u>15</u>	9	6	5	6	4	0
	全体 (n=81)	<u>26</u>	24	13	9	10	9	1
⑥中国・四国	保健所 (n=43)	5	<u>6</u>	5	0	5	3	4
	地域施設 (n=16)	3	<u>5</u>	1	2	<u>5</u>	<u>5</u>	1
	家族会 (n=13)	1	<u>4</u>	3	3	3	2	0
	全体 (n=72)	9	<u>15</u>	9	5	13	10	5
⑦九州・沖縄	保健所 (n=56)	2	11	5	0	<u>14</u>	6	6
	地域施設 (n=19)	9	6	1	6	7	<u>11</u>	1
	家族会 (n=15)	<u>9</u>	4	<u>9</u>	1	4	3	0
	全体 (n=90)	20	21	15	7	<u>25</u>	20	7

7) その他 の回答内容

<p>【保健所】 文化祭・文化交流会 / 3障害一緒の行事の実施 / 交流会開催 / 各自治体・団体が実施するイベントへの支援 / 幅広く市民に理解を広げるイベント / 障害福祉部門と連携した活動 / 精神保健福祉普及月間でイベント実施</p> <p>【地域施設】 旅行・食事・ゲーム等その他のレク / 定例行事 / 専門職(精神)の地域活動と連携 / 季節毎の当事者向けのイベント</p> <p>【家族会】 他団体開催行事への参加</p>
--

3. イベント活動(今後、実施したい)

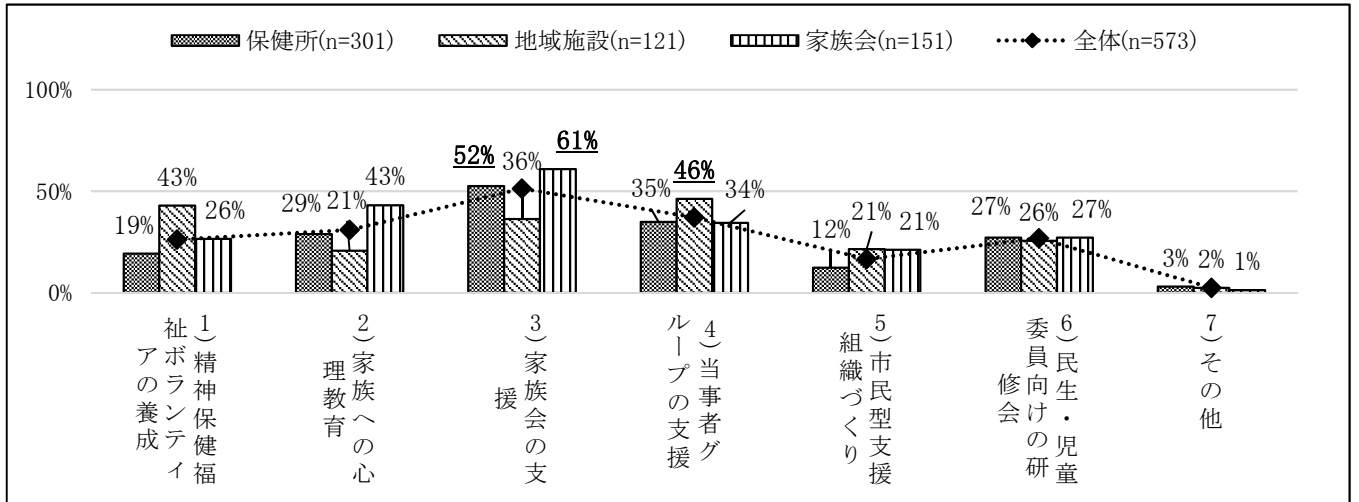
【ブロック×施設種別】



4.地域の組織化(今後、実施したい)

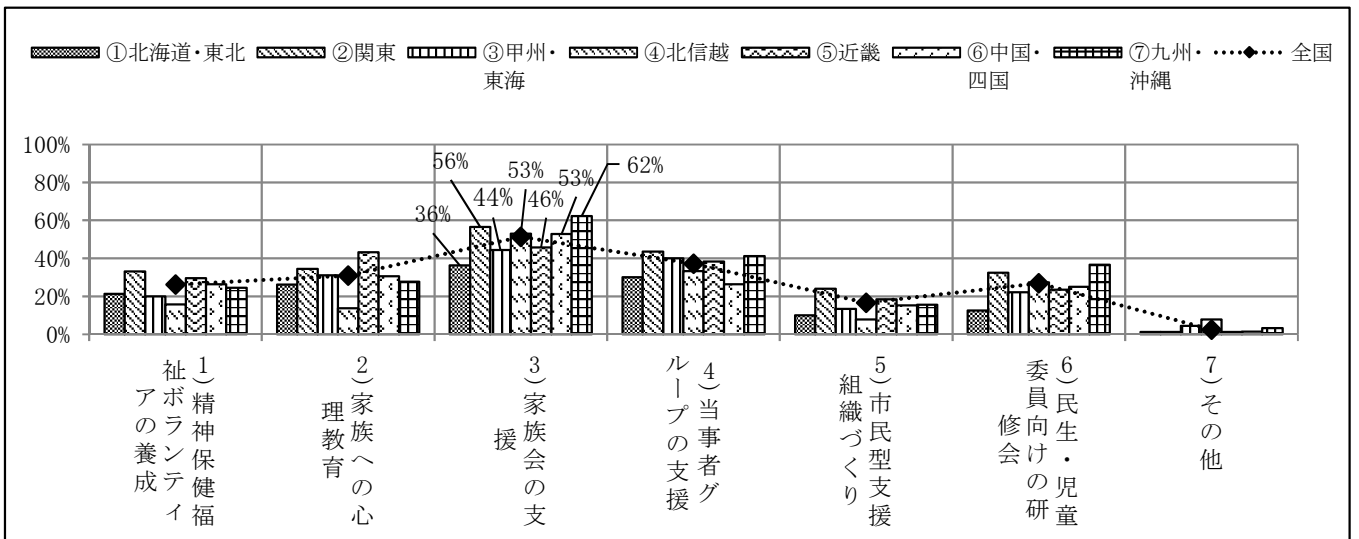
【施設種別】

		1) 精神保健福祉ボランティアの養成	2) 家族への心理教育	3) 家族会の支援	4) 当事者グループの支援	5) 市民型支援組織づくり	6) 民生・児童委員向けの研修会	7) その他
保健所 (n=301)		58	87	158	105	37	82	9
地域施設 (n=121)		52	25	44	56	26	31	3
家族会 (n=151)		40	65	92	52	32	41	2
全体 (n=573)		150	177	294	213	95	154	14



【ブロック別】

		1) 精神保健福祉ボランティアの養成	2) 家族への心理教育	3) 家族会の支援	4) 当事者グループの支援	5) 市民型支援組織づくり	6) 民生・児童委員向けの研修会	7) その他
①北海道・東北 (n=80)		17	21	29	24	8	10	1
②関東 (n=154)		51	53	87	67	37	50	2
③甲州・東海 (n=45)		9	14	20	18	6	10	2
④北信越 (n=51)		8	7	27	17	4	14	4
⑤近畿 (n=81)		24	35	37	31	15	19	1
⑥中国・四国 (n=72)		19	22	38	19	11	18	1
⑦九州・沖縄 (n=90)		22	25	56	37	14	33	3
全国 (n=573)		150	177	294	213	95	154	14



*上のグラフで値のあるものはそのカテゴリーの最多回答を示す

4.地域の組織化(今後、実施したい)

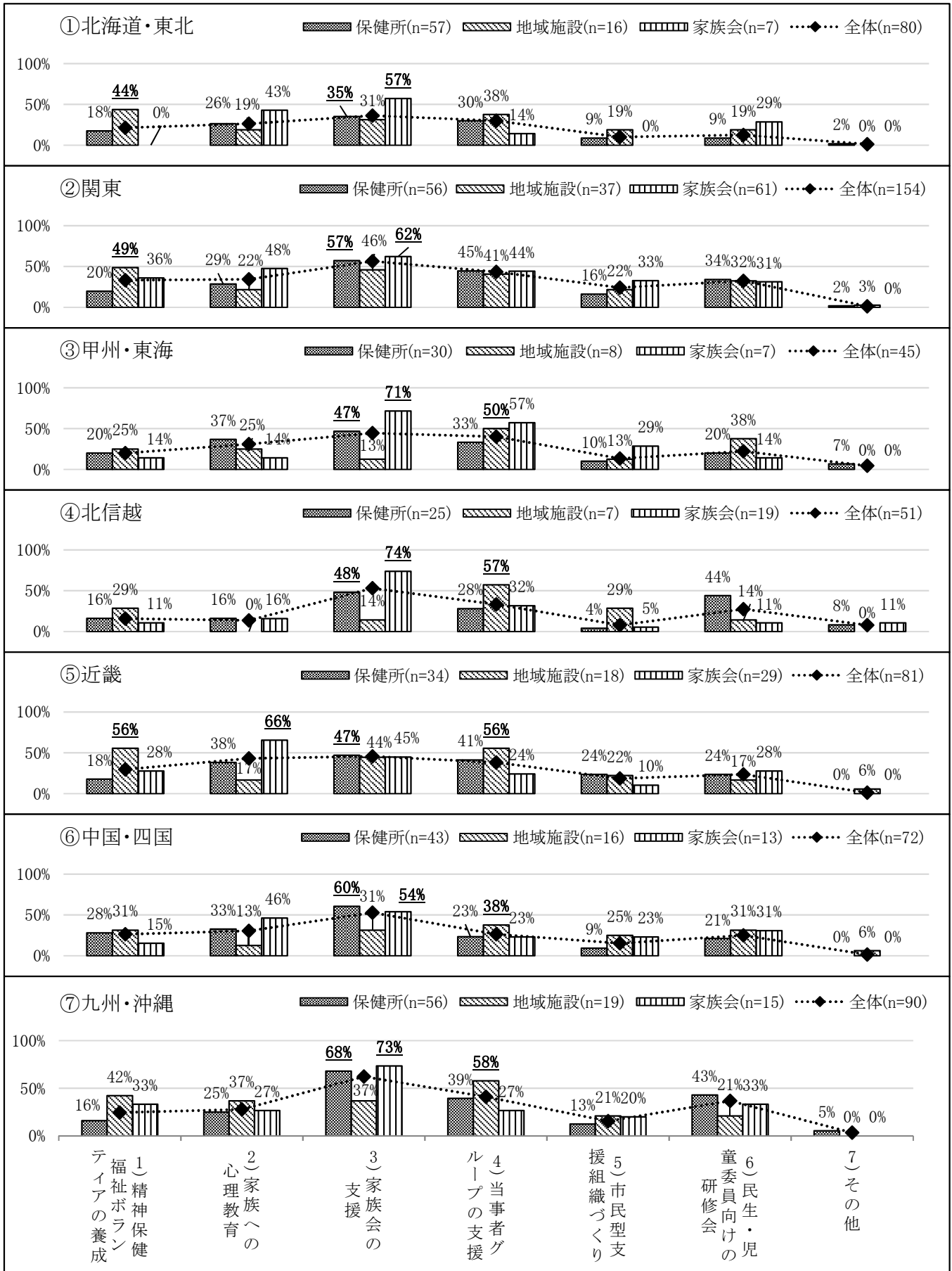
【ブロック×施設種別】

【ブロック×施設種別】		1) 精神保健 福祉ボラン ティアの養成	2) 家族への 心理教育	3) 家族会の 支援	4) 当事者グ ループの支 援	5) 市民型支 援組織づく り	6) 民生・児 童委員向け の研修会	7) その他
①北海道・ 東北	保健所 (n=57)	10	15	<u>20</u>	17	5	5	1
	地域施設 (n=16)	<u>7</u>	3	5	6	3	3	0
	家族会 (n=7)	0	3	<u>4</u>	1	0	2	0
	全体 (n=80)	17	21	<u>29</u>	24	8	10	1
②関東	保健所 (n=56)	11	16	<u>32</u>	25	9	19	1
	地域施設 (n=37)	<u>18</u>	8	17	15	8	12	1
	家族会 (n=61)	22	29	<u>38</u>	27	20	19	0
	全体 (n=154)	51	53	<u>87</u>	67	37	50	2
③甲州・ 東海	保健所 (n=30)	6	11	<u>14</u>	10	3	6	2
	地域施設 (n=8)	2	2	1	<u>4</u>	1	3	0
	家族会 (n=7)	1	1	<u>5</u>	4	2	1	0
	全体 (n=45)	9	14	<u>20</u>	18	6	10	2
④北信越	保健所 (n=25)	4	4	<u>12</u>	7	1	11	2
	地域施設 (n=7)	2	0	1	<u>4</u>	2	1	0
	家族会 (n=19)	2	3	<u>14</u>	6	1	2	2
	全体 (n=51)	8	7	<u>27</u>	17	4	14	4
⑤近畿	保健所 (n=34)	6	13	<u>16</u>	14	8	8	0
	地域施設 (n=18)	<u>10</u>	3	8	<u>10</u>	4	3	1
	家族会 (n=29)	8	<u>19</u>	13	7	3	8	0
	全体 (n=81)	24	35	<u>37</u>	31	15	19	1
⑥中国・ 四国	保健所 (n=43)	12	14	<u>26</u>	10	4	9	0
	地域施設 (n=16)	5	2	5	<u>6</u>	4	5	1
	家族会 (n=13)	2	6	<u>7</u>	3	3	4	0
	全体 (n=72)	19	22	<u>38</u>	19	11	18	1
⑦九州・ 沖縄	保健所 (n=56)	9	14	<u>38</u>	22	7	24	3
	地域施設 (n=19)	8	7	7	<u>11</u>	4	4	0
	家族会 (n=15)	5	4	<u>11</u>	4	3	5	0
	全体 (n=90)	22	25	<u>56</u>	37	14	33	3

7)その他 の回答内容

<p>【保健所】 関係機関の連絡組織づくり / 自殺対策のゲートキーパーの地域での活動支援</p> <p>【地域施設】 区への働きかけ</p> <p>【家族会】 関係機関の連絡組織づくり</p>

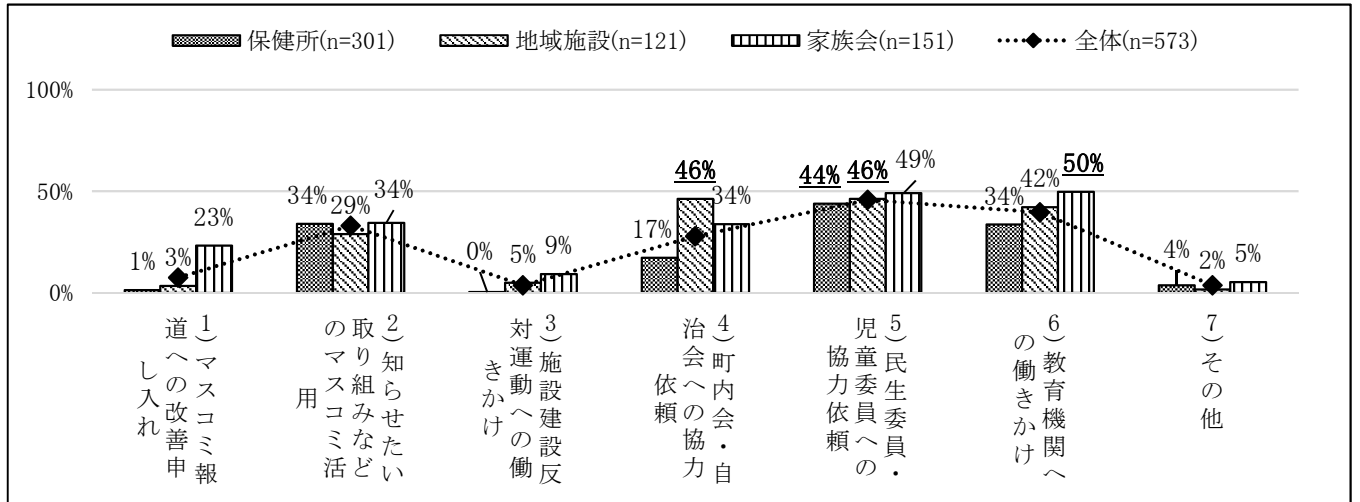
4.地域の組織化(今後、実施したい)
【ブロック×施設種別】



5.社会への働きかけ(今後、実施したい)

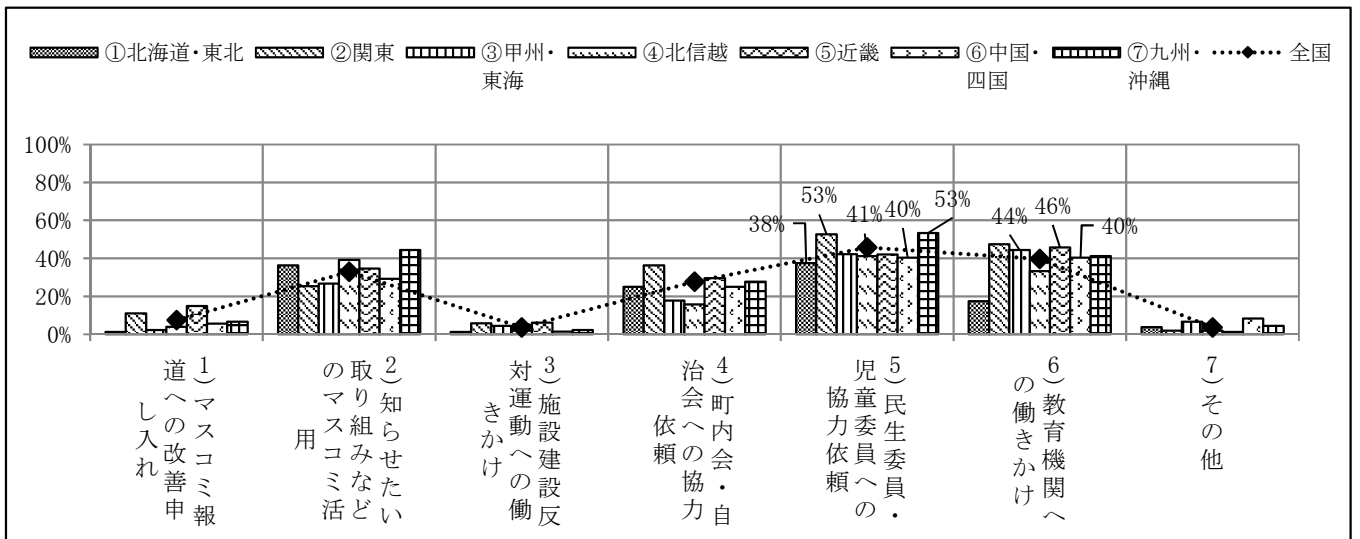
【施設種別】

	1) マスコミ報道への改善申し入れ	2) 知らせたい取り組みなどのマスコミ活用	3) 施設建設反対運動への働きかけ	4) 町内会・自治会への協力依頼	5) 民生委員・児童委員への協力依頼	6) 教育機関への働きかけ	7) その他
保健所 (n=301)	4	102	1	52	132	101	11
地域施設 (n=121)	4	35	6	56	56	51	2
家族会 (n=151)	35	52	14	51	74	75	8
全体 (n=573)	43	189	21	159	262	227	21



【ブロック別】

	1) マスコミ報道への改善申し入れ	2) 知らせたい取り組みなどのマスコミ活用	3) 施設建設反対運動への働きかけ	4) 町内会・自治会への協力依頼	5) 民生委員・児童委員への協力依頼	6) 教育機関への働きかけ	7) その他
①北海道・東北 (n=80)	1	29	1	20	30	14	3
②関東 (n=154)	17	39	9	56	81	73	3
③甲州・東海 (n=45)	1	12	2	8	19	20	3
④北信越 (n=51)	2	20	1	8	21	17	1
⑤近畿 (n=81)	12	28	5	24	34	37	1
⑥中国・四国 (n=72)	4	21	1	18	29	29	6
⑦九州・沖縄 (n=90)	6	40	2	25	48	37	4
全国 (n=573)	43	189	21	159	262	227	21



*上のグラフで値のあるものはそのカテゴリーの最多回答を示す

5.社会への働きかけ(今後、実施したい)

【ブロック×施設種別】

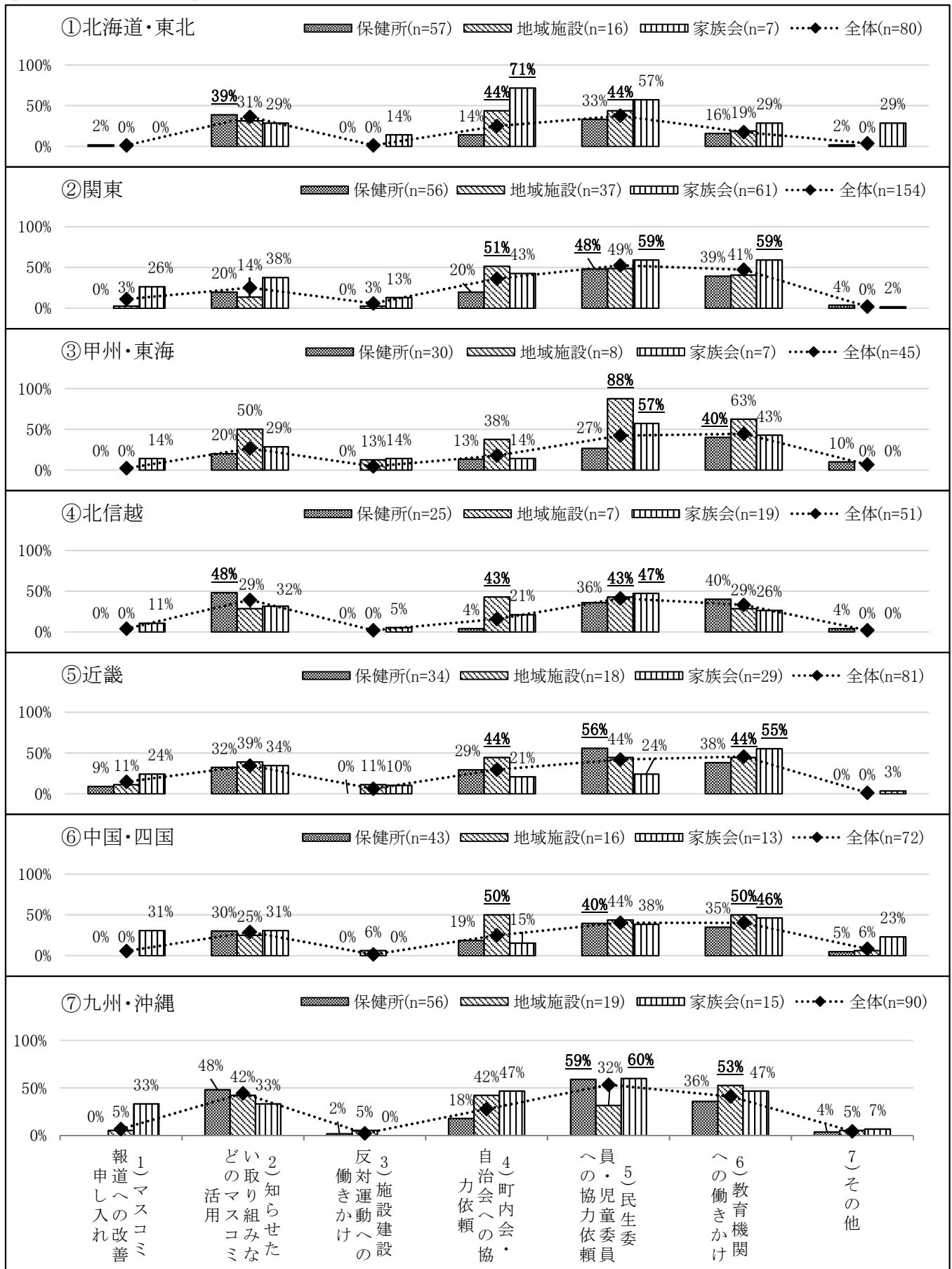
【ブロック×施設種別】		1) マスコミ 報道への改 善申し入れ	2) 知らせた い組み などのマス コミ活用	3) 施設建設 反対運動へ の働きかけ	4) 町内会・ 自治会への 協力依頼	5) 民生委 員・児童委 員への協力 依頼	6) 教育機関 への働きか け	7) その他
①北海道・ 東北	保健所 (n=57)	1	<u>22</u>	0	8	19	9	1
	地域施設 (n=16)	0	5	0	<u>7</u>	<u>7</u>	3	0
	家族会 (n=7)	0	2	1	<u>5</u>	4	2	2
	全体 (n=80)	1	29	1	20	30	14	3
②関東	保健所 (n=56)	0	11	0	11	<u>27</u>	22	2
	地域施設 (n=37)	1	5	1	<u>19</u>	18	15	0
	家族会 (n=61)	16	23	8	26	36	36	1
	全体 (n=154)	17	39	9	56	81	73	3
③甲州・ 東海	保健所 (n=30)	0	6	0	4	8	<u>12</u>	3
	地域施設 (n=8)	0	4	1	3	<u>7</u>	5	0
	家族会 (n=7)	1	2	1	1	<u>4</u>	3	0
	全体 (n=45)	1	12	2	8	19	20	3
④北信越	保健所 (n=25)	0	<u>12</u>	0	1	9	10	1
	地域施設 (n=7)	0	2	0	<u>3</u>	<u>3</u>	2	0
	家族会 (n=19)	2	6	1	4	<u>9</u>	5	0
	全体 (n=51)	2	20	1	8	21	17	1
⑤近畿	保健所 (n=34)	3	11	0	10	<u>19</u>	13	0
	地域施設 (n=18)	2	7	2	<u>8</u>	<u>8</u>	<u>8</u>	0
	家族会 (n=29)	7	10	3	6	7	<u>16</u>	1
	全体 (n=81)	12	28	5	24	34	37	1
⑥中国・ 四国	保健所 (n=43)	0	13	0	8	<u>17</u>	15	2
	地域施設 (n=16)	0	4	1	<u>8</u>	7	<u>8</u>	1
	家族会 (n=13)	4	4	0	2	5	<u>6</u>	3
	全体 (n=72)	4	21	1	18	29	29	6
⑦九州・ 沖縄	保健所 (n=56)	0	27	1	10	33	20	2
	地域施設 (n=19)	1	8	1	8	6	<u>10</u>	1
	家族会 (n=15)	5	5	0	7	<u>9</u>	7	1
	全体 (n=90)	6	40	2	25	48	37	4

7)その他 の回答内容

<p>【保健所】 行政への要望活動 / 企業への働きかけ / 市町村支援 / 事業所との連携等 / 警察への働きかけ</p> <p>【地域施設】 行政への要望活動</p> <p>【家族会】 行政への要望活動 / 企業への働きかけ / ACT、オープン・ダイアログなどの推進要請</p>
--

5.社会への働きかけ(今後、実施したい)

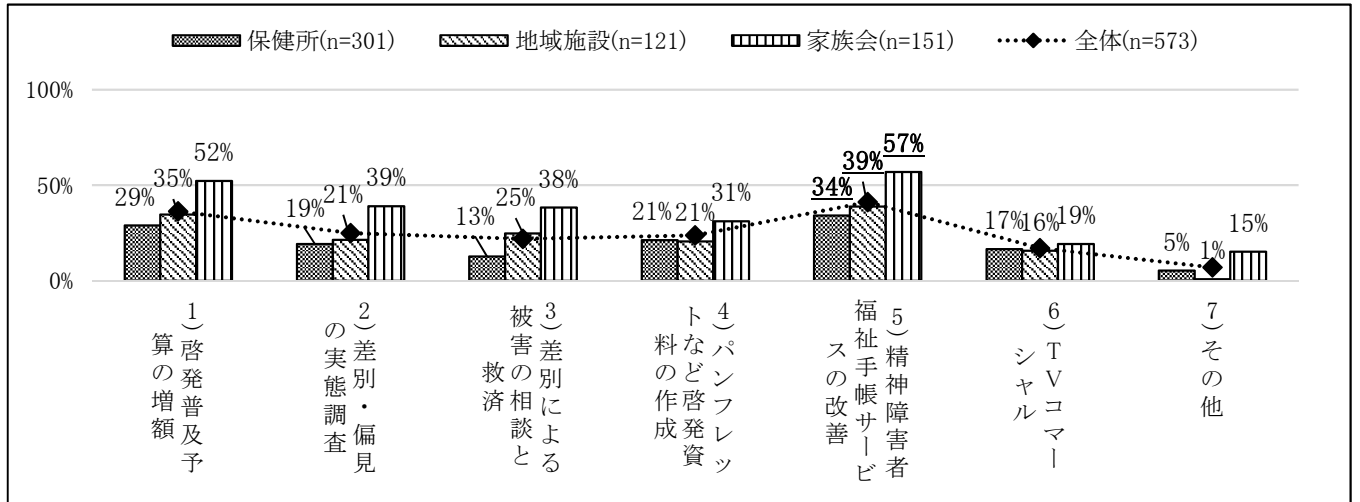
【ブロック×施設種別】



6. 国への要望(今後、実施したい)

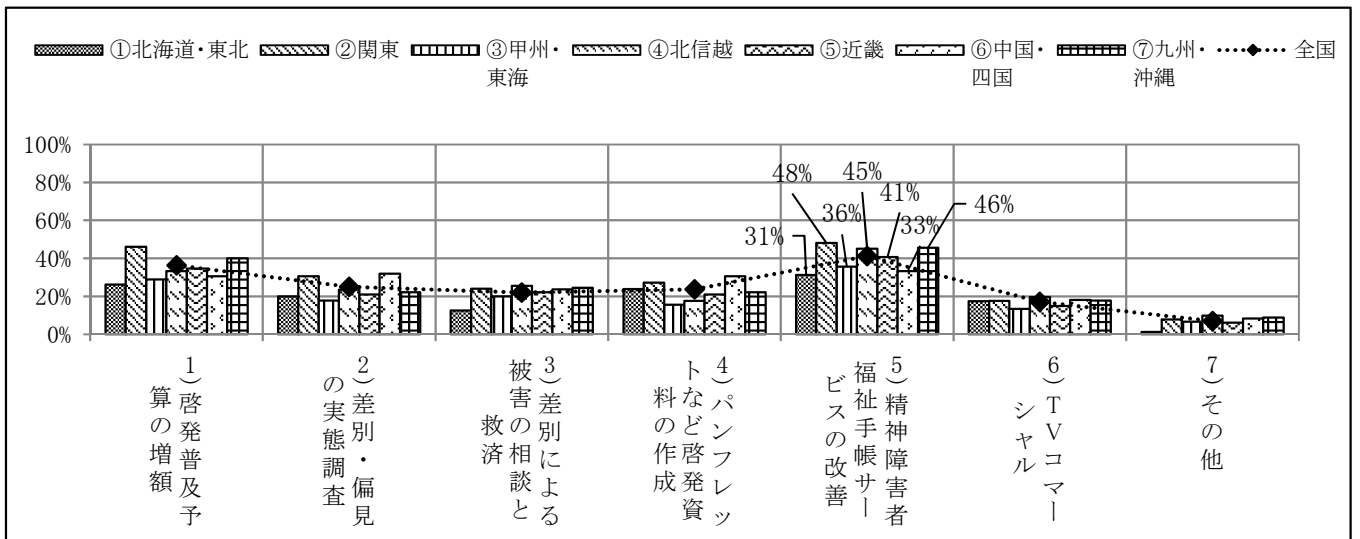
【施設種別】

	1) 啓発普及 予算の増額	2) 差別・偏 見の実態調 査	3) 差別によ る被害の相 談と救済	4) パンプ レットなど 啓発資料の 作成	5) 精神障害 者福祉手帳 サービスの 改善	6) TVコマー シャル	7) その他
保健所 (n=301)	87	58	38	64	103	50	16
地域施設 (n=121)	42	26	30	25	47	19	1
家族会 (n=151)	79	59	58	47	86	29	23
全体 (n=573)	208	143	126	136	236	98	40



【ブロック別】

	1) 啓発普及 予算の増額	2) 差別・偏 見の実態調 査	3) 差別によ る被害の相 談と救済	4) パンプ レットなど 啓発資料の 作成	5) 精神障害 者福祉手帳 サービスの 改善	6) TVコマー シャル	7) その他
①北海道・東北 (n=80)	21	16	10	19	25	14	1
②関東 (n=154)	71	47	37	42	74	27	12
③甲州・東海 (n=45)	13	8	9	7	16	6	3
④北信越 (n=51)	17	12	13	9	23	10	5
⑤近畿 (n=81)	28	17	18	17	33	12	5
⑥中国・四国 (n=72)	22	23	17	22	24	13	6
⑦九州・沖縄 (n=90)	36	20	22	20	41	16	8
全国 (n=573)	208	143	126	136	236	98	40



*上のグラフで値のあるものはそのカテゴリーの最多回答を示す

6.国への要望(今後、実施したい)

【ブロック×施設種別】

【ブロック×施設種別】		1) 啓発普及 予算の増額	2) 差別・偏 見の実態調 査	3) 差別によ る被害の相 談と救済	4) パンプ レットなど 啓発資料の 作成	5) 精神障害 者福祉手帳 サービスの 改善	6) TVコマー シャル	7) その他
①北海道・ 東北	保健所 (n=57)	15	11	7	14	<u>17</u>	9	1
	地域施設 (n=16)	3	3	1	3	<u>6</u>	3	0
	家族会 (n=7)	<u>3</u>	2	2	2	2	2	0
	全体 (n=80)	21	16	10	19	<u>25</u>	14	1
②関東	保健所 (n=56)	16	10	5	10	<u>25</u>	9	0
	地域施設 (n=37)	<u>18</u>	9	9	10	16	7	0
	家族会 (n=61)	<u>37</u>	28	23	22	33	11	12
	全体 (n=154)	71	47	37	42	<u>74</u>	27	12
③甲州・ 東海	保健所 (n=30)	7	5	4	6	<u>8</u>	4	3
	地域施設 (n=8)	2	2	<u>3</u>	0	<u>3</u>	1	0
	家族会 (n=7)	4	1	2	1	<u>5</u>	1	0
	全体 (n=45)	13	8	9	7	<u>16</u>	6	3
④北信越	保健所 (n=25)	<u>7</u>	4	5	4	<u>7</u>	5	2
	地域施設 (n=7)	<u>3</u>	2	2	2	<u>3</u>	0	0
	家族会 (n=19)	7	6	6	3	<u>13</u>	5	3
	全体 (n=51)	17	12	13	9	<u>23</u>	10	5
⑤近畿	保健所 (n=34)	8	5	4	5	<u>12</u>	6	1
	地域施設 (n=18)	<u>6</u>	2	4	3	3	0	0
	家族会 (n=29)	14	10	10	9	<u>18</u>	6	4
	全体 (n=81)	28	17	18	17	<u>33</u>	12	5
⑥中国・ 四国	保健所 (n=43)	<u>14</u>	12	6	10	11	7	4
	地域施設 (n=16)	2	5	5	5	<u>8</u>	4	0
	家族会 (n=13)	6	6	6	<u>7</u>	5	2	2
	全体 (n=72)	22	23	17	22	<u>24</u>	13	6
⑦九州・ 沖縄	保健所 (n=56)	20	11	7	15	<u>23</u>	10	5
	地域施設 (n=19)	<u>8</u>	3	6	2	<u>8</u>	4	1
	家族会 (n=15)	8	6	9	3	<u>10</u>	2	2
	全体 (n=90)	36	20	22	20	<u>41</u>	16	8

7)その他 の回答内容

【保健所】

他障害との格差解消 / 人材確保施策 / 教育関連施策 / 障害福祉サービスの充実 / 障がい者雇用の促進 / 現場体制強化の明文化(精神保健福祉の配置義務等) / 社会的入院者の実態の公表 / SNSを活用した普及啓発 / 保健、医療、福祉関係者に対する精神疾患への理解や適切な対応ができるような働きかけ / 制度の不備の是正や充実 / マスコミ報道の改善 / 指定特定や指定一般事業所への計画相談費の上乗せ / 精神科救急に対する財政上の制度拡大

【地域施設】

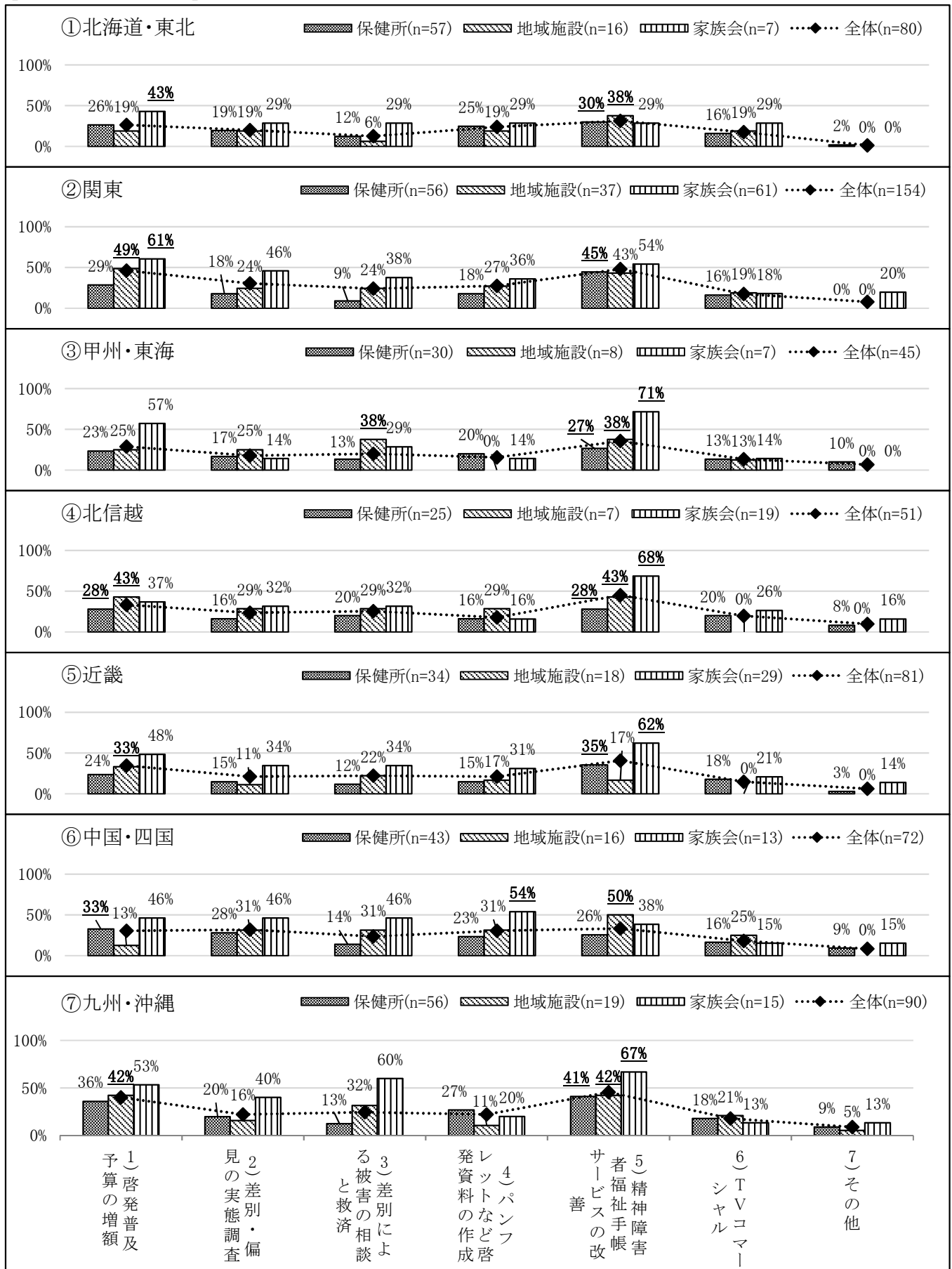
福祉関係予算を増やし地域生活支援サービスを充実させてもらいたい

【家族会】

他障害との格差解消 / 交通費助成 / 教育関連施策 / 福祉医療の推進、自立支援医療の無料化推進 / アウトリーチ事業の区市町村単位での実施 / 国会議員等への働きかけ / 継続的、総合的、包括的支援制度の創設 / 自立支援医療を無料に→合併症にもなりやすいので医療費すべて無料に / 作業所への工賃助成を国がすべき。(すべての障がい者が一般就労は難しい現実) / 退院促進への取り組み / 障害の完治に向けた医療研究の推進 / 他団体活動への協力 / 自治体、保健所、警察署、医療機関等との連携 / 精神科特例の廃止、精神科医教育の改善 / 地域生活の支援の充実、自立への援助 / 法律の中にある精神障害者差別の撤廃 / 精神医療以外の他科受診に対する、医療費助成制度の法制化に向けての活動 / 家族会への支援(相談事業)

6.国への要望(今後、実施したい)

【ブロック×施設種別】



7.その他(今後、実施したい)

【保健所】

行政の職員の中にも精神に対する偏見があり、内部の改革が必要である。／ 治療が必要にもかかわらず医療へのつながりがスムーズにできず、悪化につながるケースが多い。そのことが偏見につながってしまう原因と思われるので、人権も確かに大事ではあるが、診察・治療をスムーズに受けられる体制整備

【地域施設】

地活が個別給付で給付費が低額すぎる為運営が大変です。地活の給付費を上げてほしいと思います。／ 障害年金の受給に狭間を作らないでほしい ／ 施設の充実等

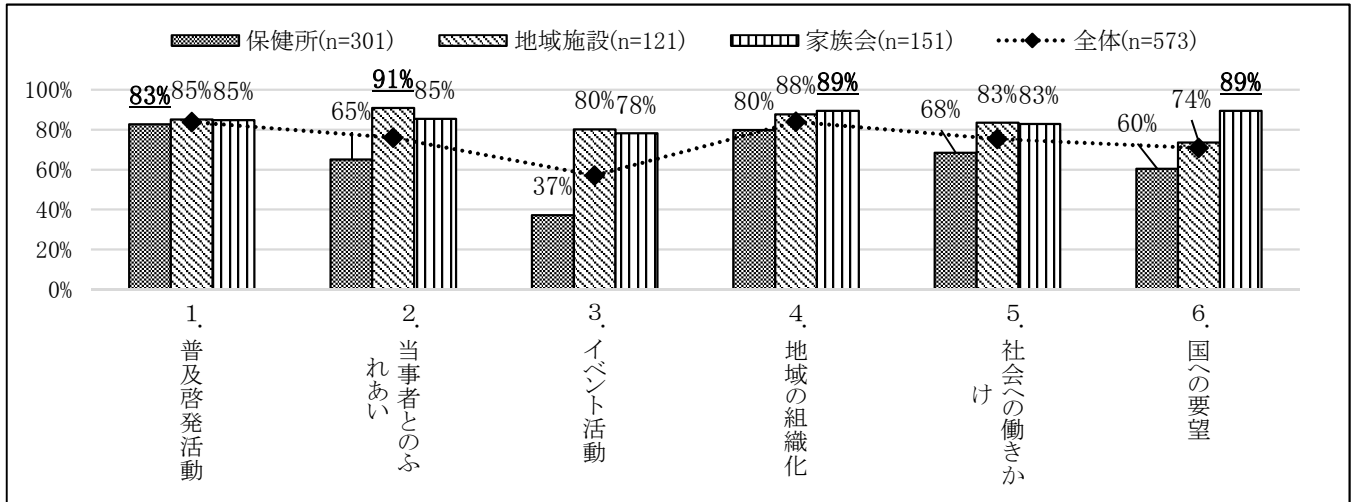
【家族会】

県へー医療福祉費の適応、障害間の格差是正 ／ アウトリーチの推進:精神科訪問看護の充実、多職種チームによる365日24時間支援制度の確立 ／ 今の日本の警察はストーカー被害者の訴えに冷たく尊い人命が失われてから動く。精神障害者が暴れてもしかり。これでは事件は減りません。予防対策を徹底して、地域の安全を守って下さい。／ 相談・支援事業を身近に。／ 障害者が地域で普通に生活できるシステムづくり ／ 入院3ヶ月にこだわらず、当事者、家族の意見を聞いてほしい。／ 他障害者との差別解消 交通費、福祉手当、医療費助成等 ／ 精神障害者の働く場所がほしい ／ 失調症発症原因の究明機関と研究者が少ないと思う。もっと国が力を入れ、計画性をもって原因究明に当たってほしい。／ 国民に対し罹患・原因の周知、症状等を教育、いじめ等が原因で発症すれば多額の慰謝料請求問題発生への注意、喚起を願いたい。／ 家族会の活性化 ／ 家族のための相談会を担う相談員を増やし、資質の向上をめざし、基盤を強化する。その上で、当会に入会する会員を増やし、家族同士の支え合い、学び合いの輪を広げていく。

F 今後、実施したい取り組み(カテゴリー毎のまとめ)

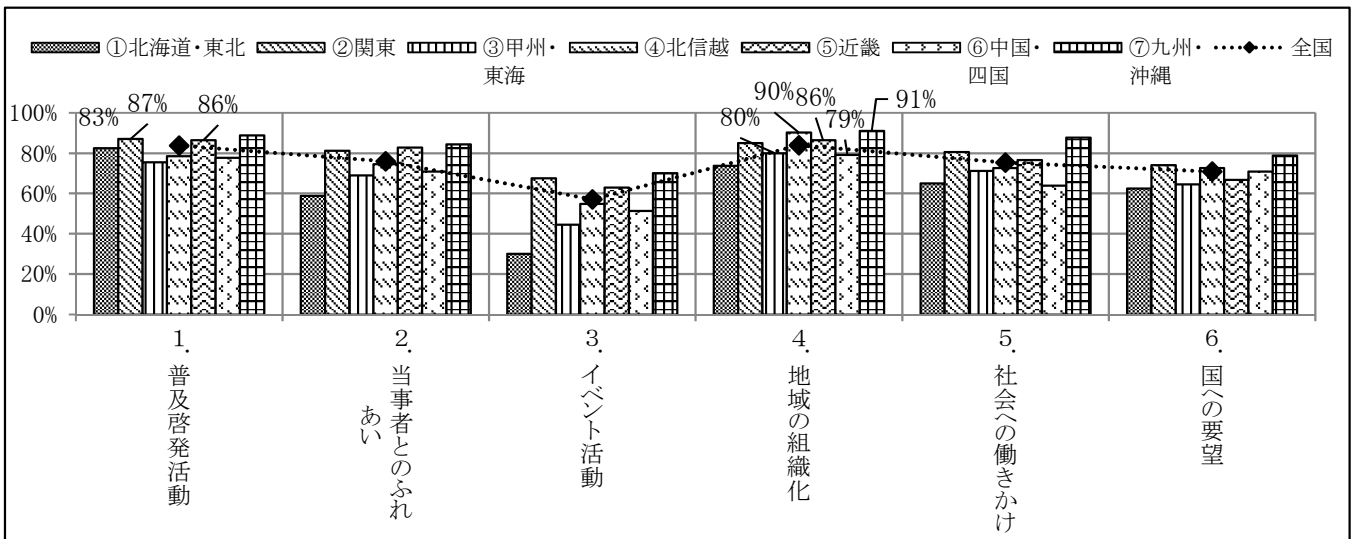
【施設種別】

	1. 普及啓発活動	2. 当事者とのふれあい	3. イベント活動	4. 地域の組織化	5. 社会への働きかけ	6. 国への要望
保健所 (n=301)	<u>249</u>	196	112	240	206	182
地域施設 (n=121)	103	<u>110</u>	97	106	101	89
家族会 (n=151)	128	129	118	<u>135</u>	125	<u>135</u>
全体 (n=573)	480	435	327	<u>481</u>	432	406



【ブロック別】

	1. 普及啓発活動	2. 当事者とのふれあい	3. イベント活動	4. 地域の組織化	5. 社会への働きかけ	6. 国への要望
①北海道・東北 (n=80)	<u>66</u>	47	24	59	52	50
②関東 (n=154)	<u>134</u>	125	104	131	124	114
③甲州・東海 (n=45)	34	31	20	<u>36</u>	32	29
④北信越 (n=51)	40	38	28	<u>46</u>	37	37
⑤近畿 (n=81)	<u>70</u>	67	51	<u>70</u>	62	54
⑥中国・四国 (n=72)	56	51	37	<u>57</u>	46	51
⑦九州・沖縄 (n=90)	80	76	63	<u>82</u>	79	71
全国 (n=573)	480	435	327	<u>481</u>	432	406



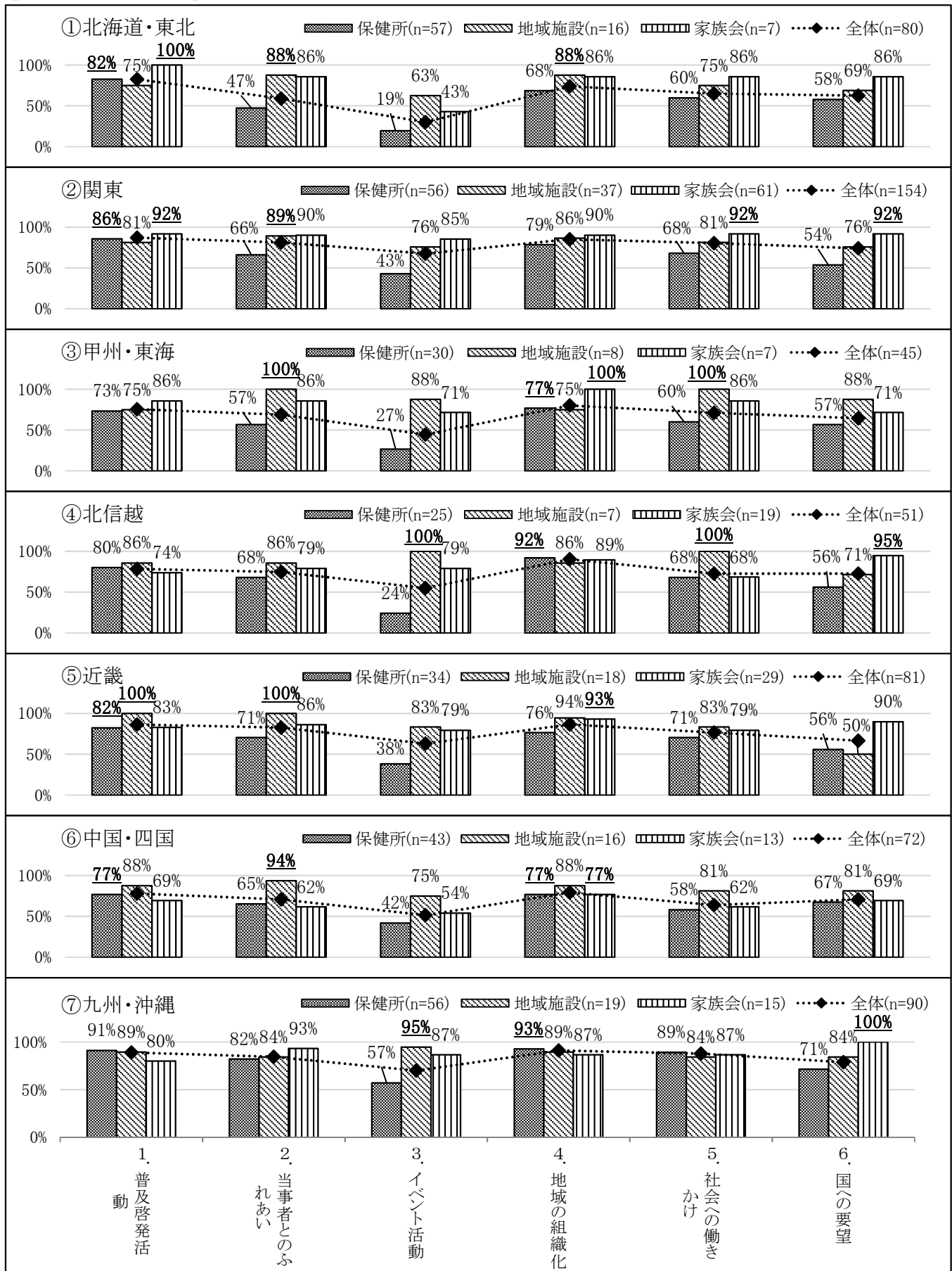
*上のグラフで値のあるものはそのカテゴリーの最多回答を示す

F 今後、実施したい取り組み(カテゴリー毎のまとめ)

【ブロック×施設種別】

【ブロック×施設種別】		1. 普及啓発活動	2. 当事者とのふれあい	3. イベント活動	4. 地域の組織化	5. 社会への働きかけ	6. 国への要望
①北海道・東北	保健所 (n=57)	<u>47</u>	27	11	39	34	33
	地域施設 (n=16)	12	<u>14</u>	10	<u>14</u>	12	11
	家族会 (n=7)	<u>7</u>	6	3	6	6	6
	全体 (n=80)	<u>66</u>	47	24	59	52	50
②関東	保健所 (n=56)	<u>48</u>	37	24	44	38	30
	地域施設 (n=37)	30	<u>33</u>	28	32	30	28
	家族会 (n=61)	<u>56</u>	55	52	55	<u>56</u>	<u>56</u>
	全体 (n=154)	<u>134</u>	125	104	131	124	114
③甲州・東海	保健所 (n=30)	22	17	8	<u>23</u>	18	17
	地域施設 (n=8)	6	<u>8</u>	7	6	<u>8</u>	7
	家族会 (n=7)	6	6	5	<u>7</u>	6	5
	全体 (n=45)	34	31	20	<u>36</u>	32	29
④北信越	保健所 (n=25)	20	17	6	<u>23</u>	17	14
	地域施設 (n=7)	6	6	<u>7</u>	6	<u>7</u>	5
	家族会 (n=19)	14	15	15	17	13	<u>18</u>
	全体 (n=51)	40	38	28	<u>46</u>	37	37
⑤近畿	保健所 (n=34)	<u>28</u>	24	13	26	24	19
	地域施設 (n=18)	<u>18</u>	<u>18</u>	15	17	15	9
	家族会 (n=29)	24	25	23	<u>27</u>	23	26
	全体 (n=81)	<u>70</u>	67	51	<u>70</u>	62	54
⑥中国・四国	保健所 (n=43)	<u>33</u>	28	18	<u>33</u>	25	29
	地域施設 (n=16)	14	<u>15</u>	12	14	13	13
	家族会 (n=13)	9	8	7	<u>10</u>	8	9
	全体 (n=72)	56	51	37	<u>57</u>	46	51
⑦九州・沖縄	保健所 (n=56)	51	46	32	<u>52</u>	50	40
	地域施設 (n=19)	17	16	<u>18</u>	17	16	16
	家族会 (n=15)	12	14	13	13	13	<u>15</u>
	全体 (n=90)	80	76	63	<u>82</u>	79	71

F 今後、実施したい取り組み(カテゴリー毎のまとめ)
【ブロック×施設種別】



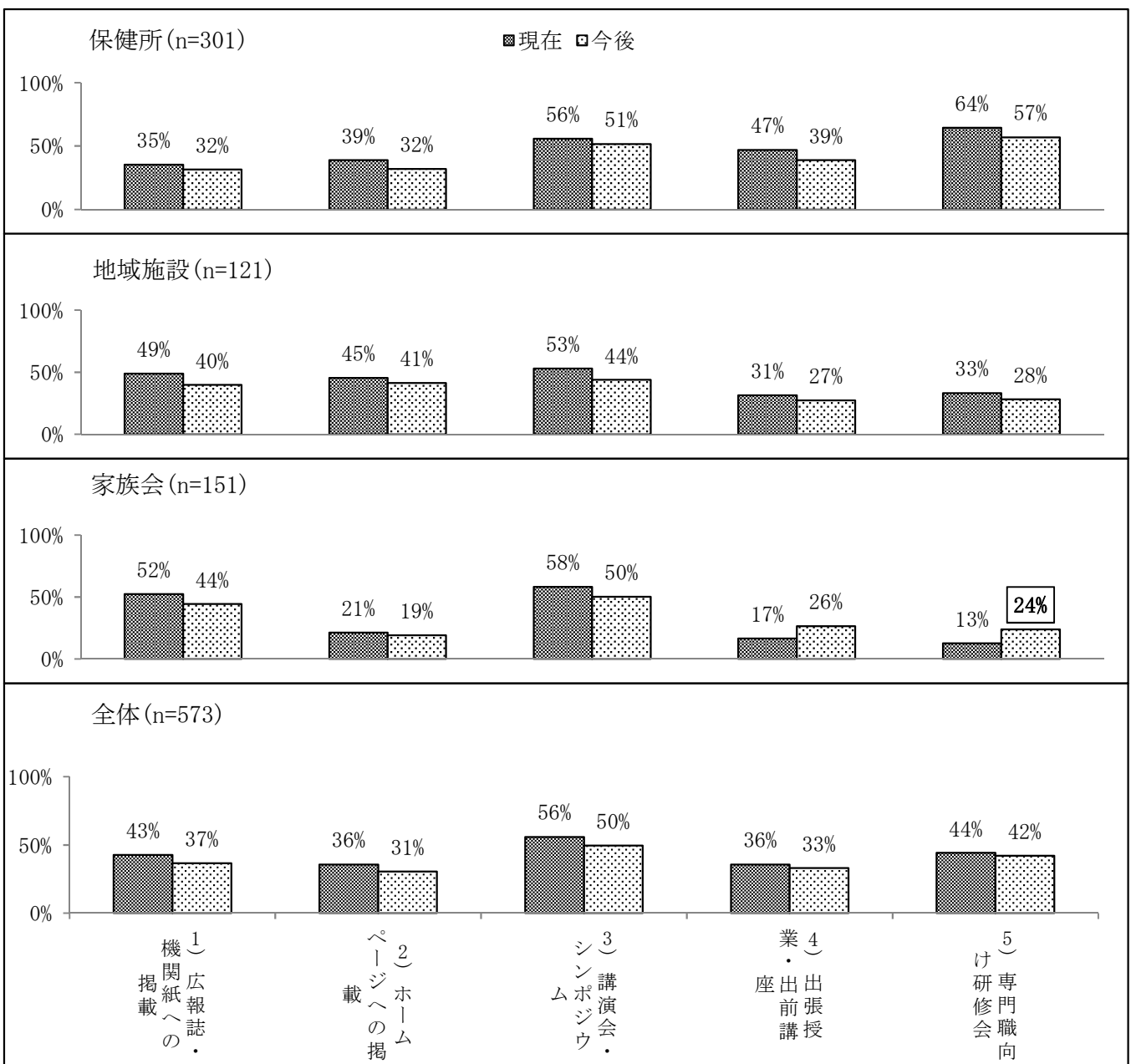
「E 現在取り組んでいる内容」と「F 今後、実施したい取り組み」の比較

1. 普及啓発活動

【施設種別】

施設種別	現在	1) 広報誌・ 機関紙への 掲載					2) ホーム ページへの 掲載					3) 講演会・ シンポジウ ム					4) 出張授 業・出前講 座					5) 専門職向 け研修会				
		現在	今後	現在	今後	現在	今後	現在	今後	現在	今後	現在	今後	現在	今後	現在	今後									
保健所 (n=301)	106	95	117	96	168	155	141	117	194	171																
地域施設 (n=121)	59	48	55	50	64	53	38	33	40	34																
家族会 (n=151)	79	67	32	29	88	76	25	19	36	36																
全体 (n=573)	244	210	204	175	320	284	204	190	253	241																

*網掛けは【現在<今後】となっている回答を示す(以下同様)



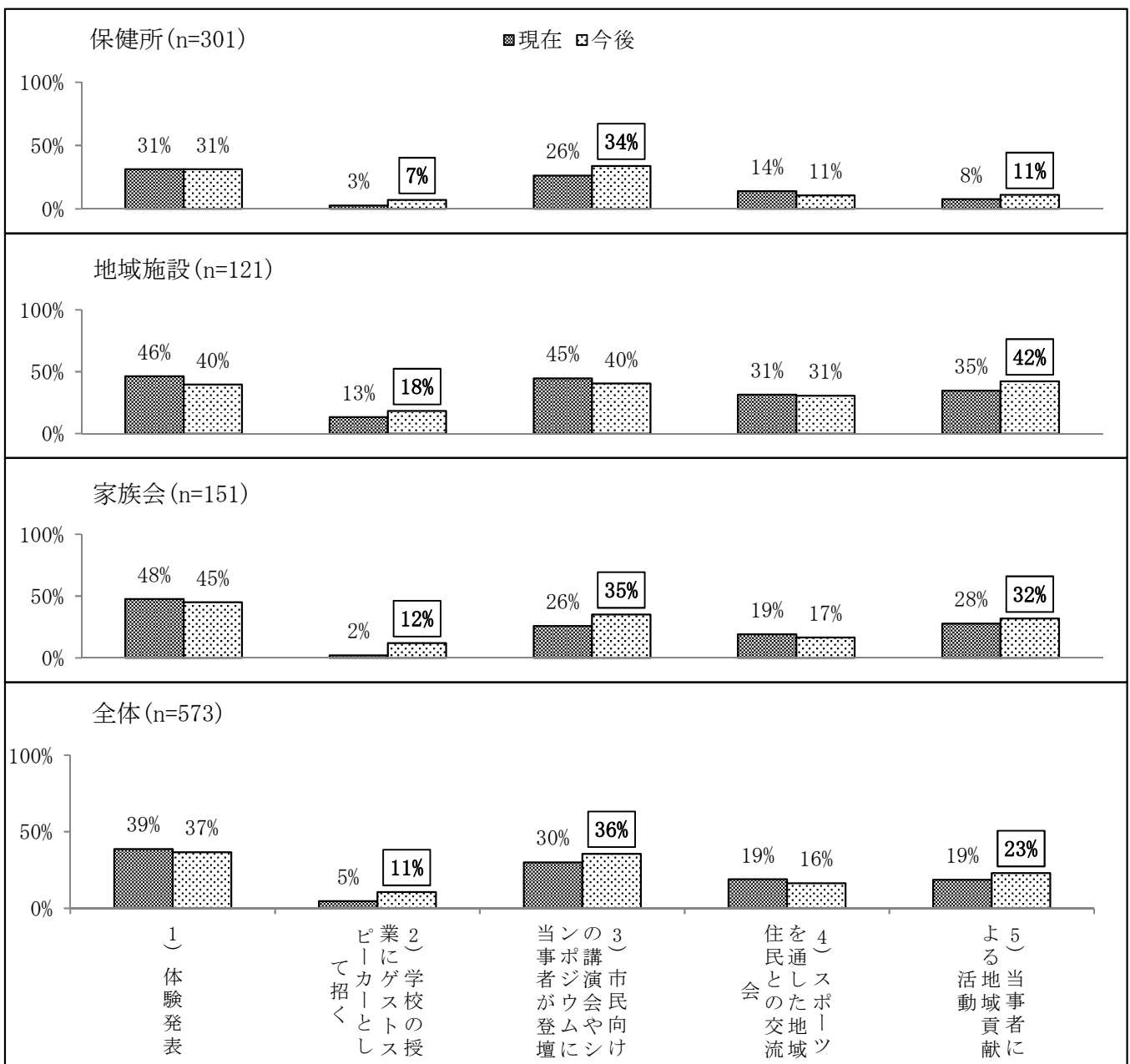
*太字で四角囲み付きの数値は【現在<今後】となっている回答を示す(以下同様)

「E 現在取り組んでいる内容」と「F 今後、実施したい取り組み」の比較

2. 当事者(家族を含む)とのふれあい

【施設種別】

		1) 体験発表 2) 学校の授業にゲストスピーカーとして招く 3) 市民向けの講演会やシンポジウムに当事者が登壇 4) スポーツを通じた地域交流会 5) 当事者による地域貢献活動							
		現在	今後	現在	今後	現在	今後	現在	今後
保健所 (n=301)	現在	94	8	79	42	23			
	今後	94	21	102	32	33			
地域施設 (n=121)	現在	56	16	54	38	42			
	今後	48	22	49	37	51			
家族会 (n=151)	現在	72	3	39	29	42			
	今後	68	18	53	25	48			
全体 (n=573)	現在	222	27	172	109	107			
	今後	210	61	204	94	132			

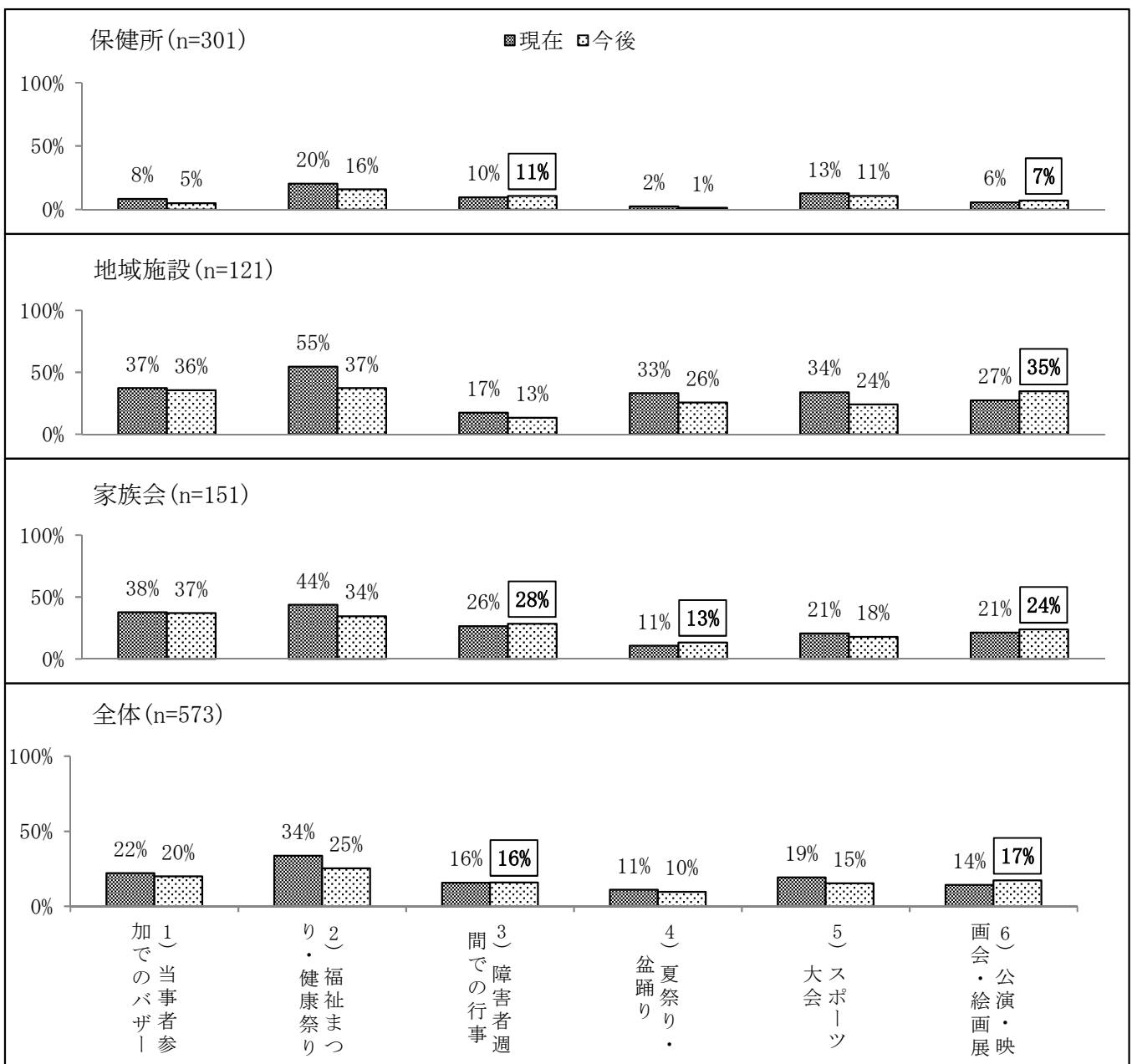


「E 現在取り組んでいる内容」と「F 今後、実施したい取り組み」の比較

3. イベント活動

【施設種別】

		1) 当事者参加でのバザーの実施	2) 福祉まつり・健康祭り	3) 障害者週間での行事実施	4) 夏祭り・盆踊り	5) スポーツ大会	6) 様々な公演・映画会・絵画展
保健所 (n=301)	現在	25	61	29	7	38	17
	今後	15	48	32	4	32	21
地域施設 (n=121)	現在	45	66	21	40	41	33
	今後	43	45	16	31	29	42
家族会 (n=151)	現在	57	66	40	16	31	32
	今後	56	52	43	20	27	36
全体 (n=573)	現在	127	193	90	63	110	82
	今後	114	145	91	55	88	99

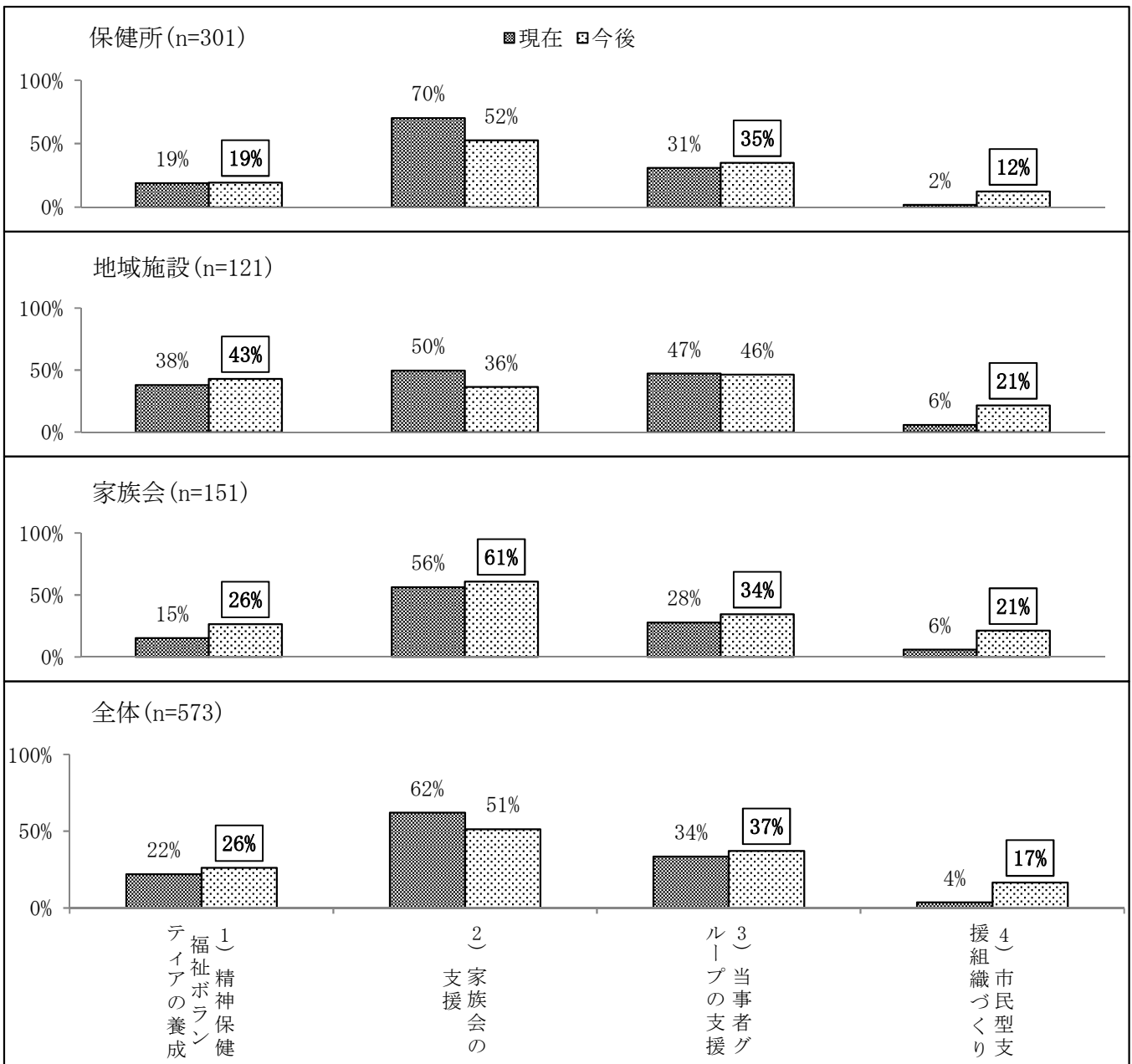


「E 現在取り組んでいる内容」と「F 今後、実施したい取り組み」の比較

4. 地域の組織化

【施設種別】

			1) 精神保健福祉ボランティアの養成	2) 家族会の支援	3) 当事者グループの支援	4) 市民型支援組織づくり
			保健所 (n=301)	現在	57	211
	今後	58	158	105	37	
地域施設 (n=121)	現在	46	60	57	7	
	今後	52	44	56	26	
家族会 (n=151)	現在	23	85	42	9	
	今後	40	92	52	32	
全体 (n=573)	現在	126	356	192	21	
	今後	150	294	213	95	

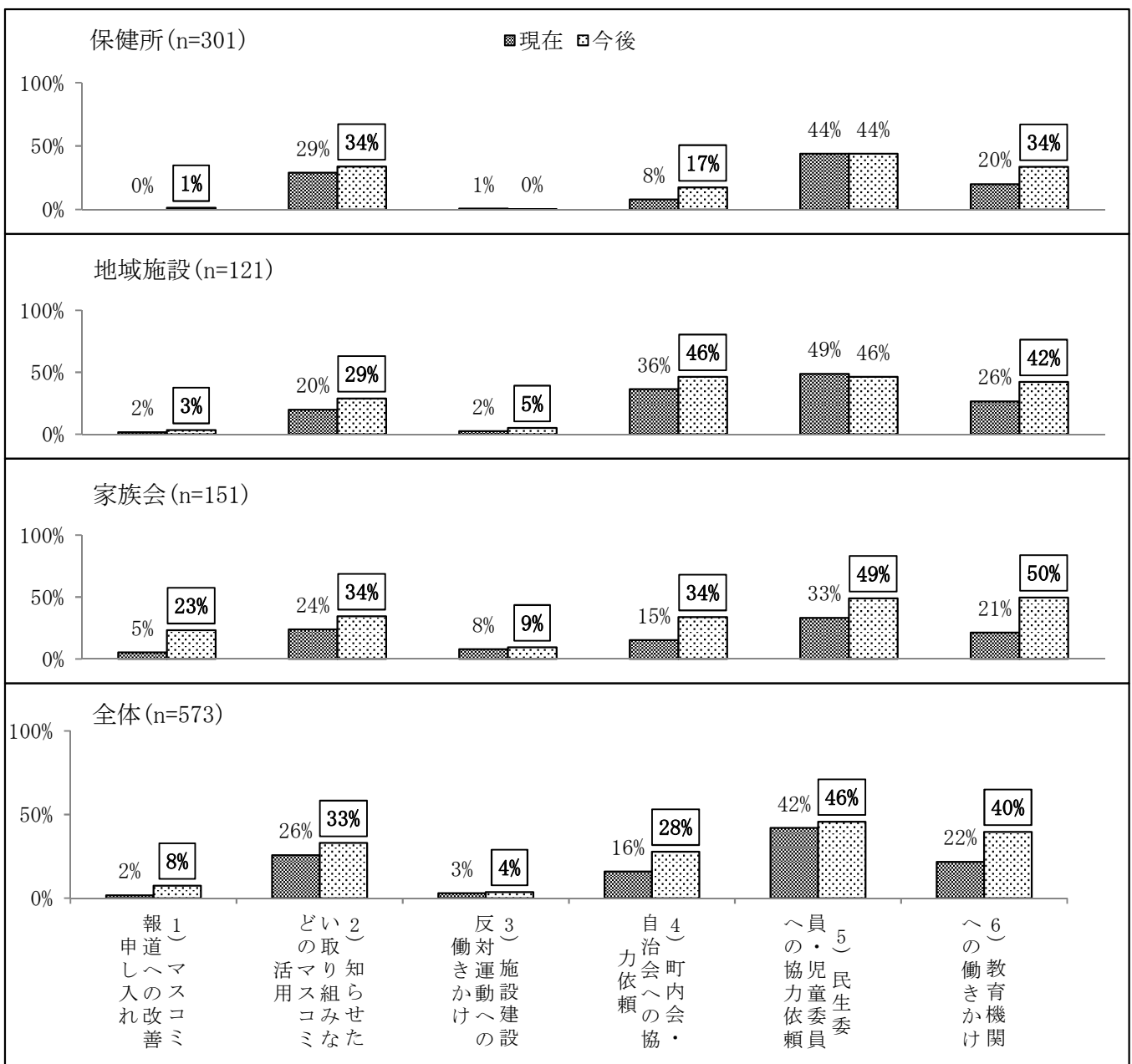


「E 現在取り組んでいる内容」と「F 今後、実施したい取り組み」の比較

5. 社会への働きかけ

【施設種別】

		1) マスコミ 報道への改 善申し入れ	2) 知らせた い組み などのマス コミ活用	3) 施設建設 反対運動へ の働きかけ	4) 町内会・ 自治会への 協力依頼	5) 民生委 員・児童委 員への協力 依頼	6) 教育機関 への働きか け
保健所 (n=301)	現在	0	87	2	24	132	60
	今後	4	102	1	52	132	101
地域施設 (n=121)	現在	2	24	3	44	59	32
	今後	4	35	6	56	56	51
家族会 (n=151)	現在	8	36	12	23	50	32
	今後	35	52	14	51	74	75
全体 (n=573)	現在	10	147	17	91	241	124
	今後	43	189	21	159	262	227

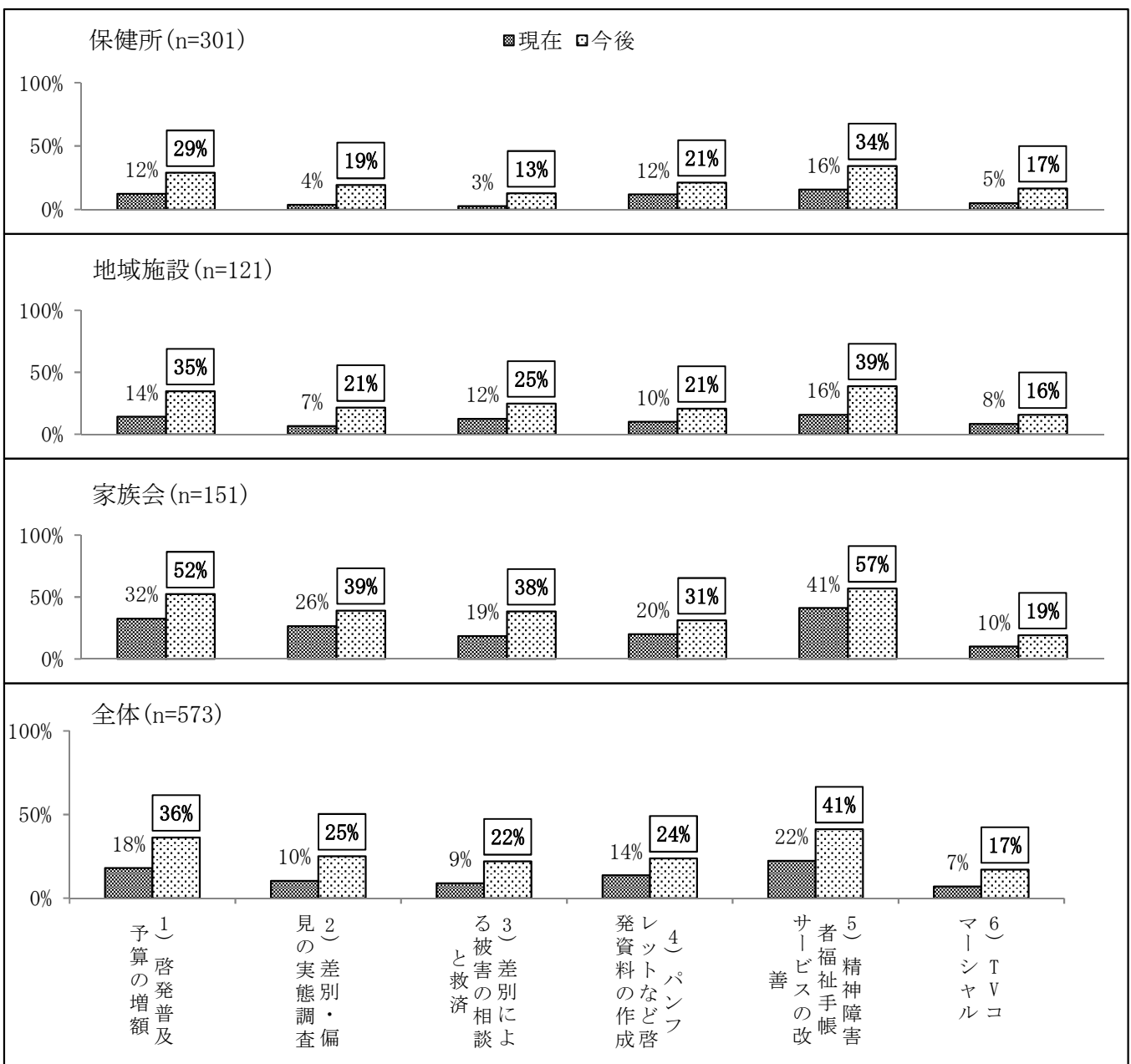


「E 現在取り組んでいる内容」と「F 今後、実施したい取り組み」の比較

6. 国への要望

【施設種別】

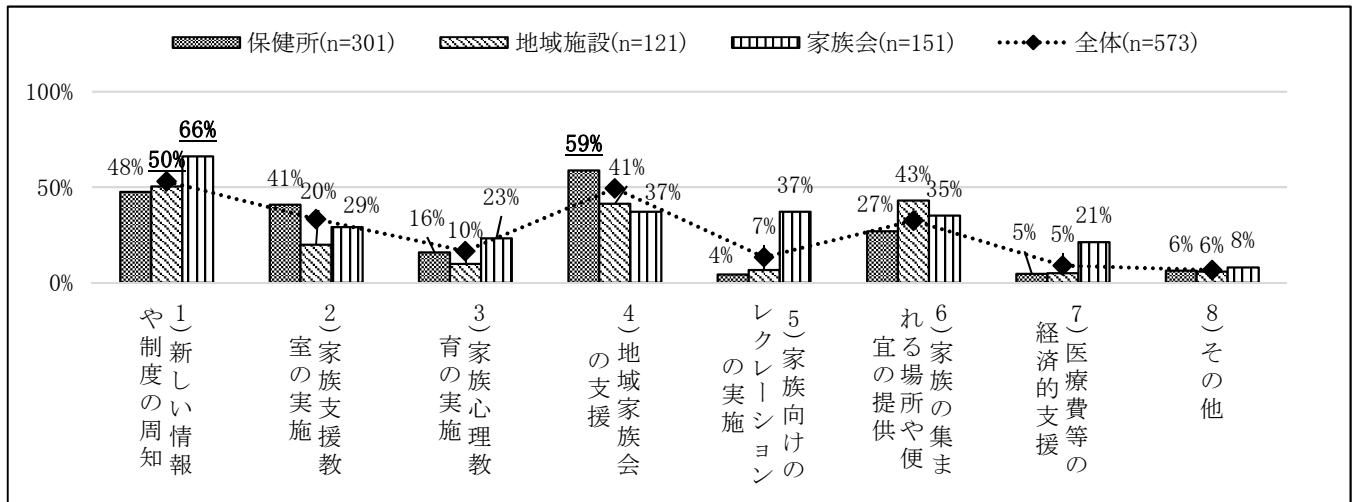
		1) 啓発普及 予算の増額	2) 差別・偏 見の実態調 査	3) 差別によ る被害の相 談と救済	4) パンフ レットなど 啓発資料の 作成	5) 精神障害 者福祉手帳 サービスの 改善	6) TVコマー シャル
保健所 (n=301)	現在	37	11	8	36	47	15
	今後	87	58	38	64	103	50
地域施設 (n=121)	現在	17	8	15	12	19	10
	今後	42	26	30	25	47	19
家族会 (n=151)	現在	49	40	28	30	62	15
	今後	79	59	58	47	86	29
全体 (n=573)	現在	103	59	51	78	128	40
	今後	208	143	126	136	236	98



G 家族支援のために取り組んでいる内容(複数回答可)

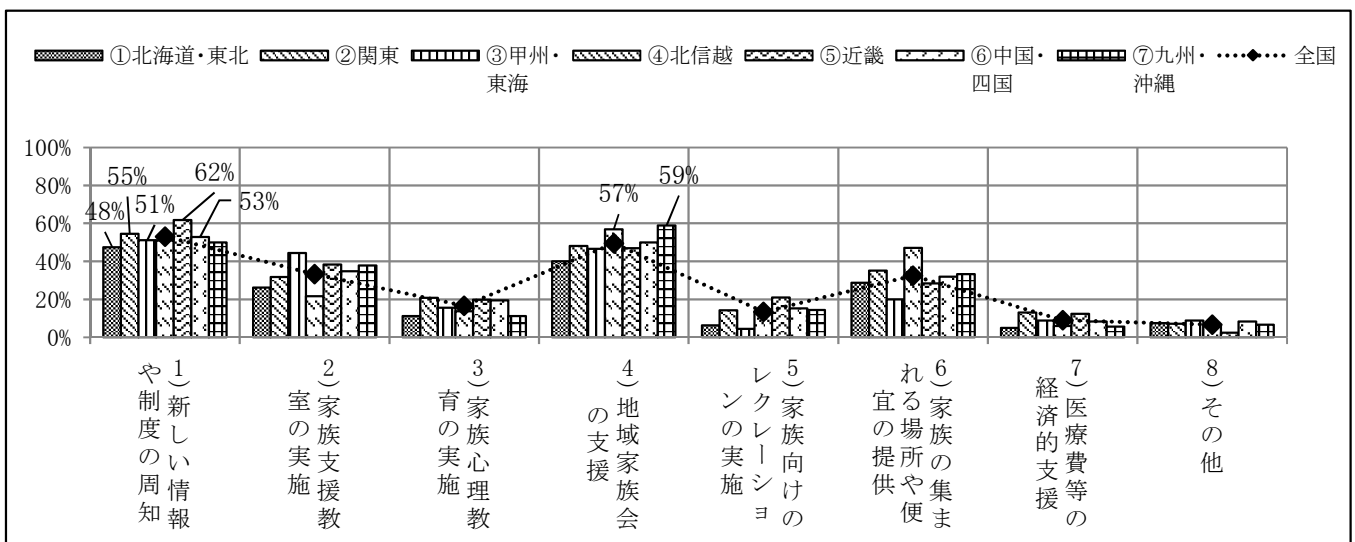
【施設種別】

	1) 新しい情報や制度の周知	2) 家族支援教室の実施	3) 家族心理教育の実施	4) 地域家族会の支援	5) 家族向けのレクレーションの実施	6) 家族の集まれる場所や便宜の提供	7) 医療費等の経済的支援	8) その他
保健所 (n=301)	143	123	48	177	13	81	14	19
地域施設 (n=121)	61	24	12	50	8	52	6	7
家族会 (n=151)	100	44	35	56	56	53	32	12
全体 (n=573)	304	191	95	283	77	186	52	38



【ブロック別】

	1) 新しい情報や制度の周知	2) 家族支援教室の実施	3) 家族心理教育の実施	4) 地域家族会の支援	5) 家族向けのレクレーションの実施	6) 家族の集まれる場所や便宜の提供	7) 医療費等の経済的支援	8) その他
①北海道・東北 (n=80)	38	21	9	32	5	23	4	6
②関東 (n=154)	84	49	32	74	22	54	20	11
③甲州・東海 (n=45)	23	20	7	21	2	9	4	4
④北信越 (n=51)	26	11	7	29	7	24	3	3
⑤近畿 (n=81)	50	31	16	38	17	23	10	2
⑥中国・四国 (n=72)	38	25	14	36	11	23	6	6
⑦九州・沖縄 (n=90)	45	34	10	53	13	30	5	6
全国 (n=573)	304	191	95	283	77	186	52	38



*上のグラフで値のあるものはそのカテゴリーの最多回答を示す

G 家族支援のために取り組んでいる内容(複数回答可)

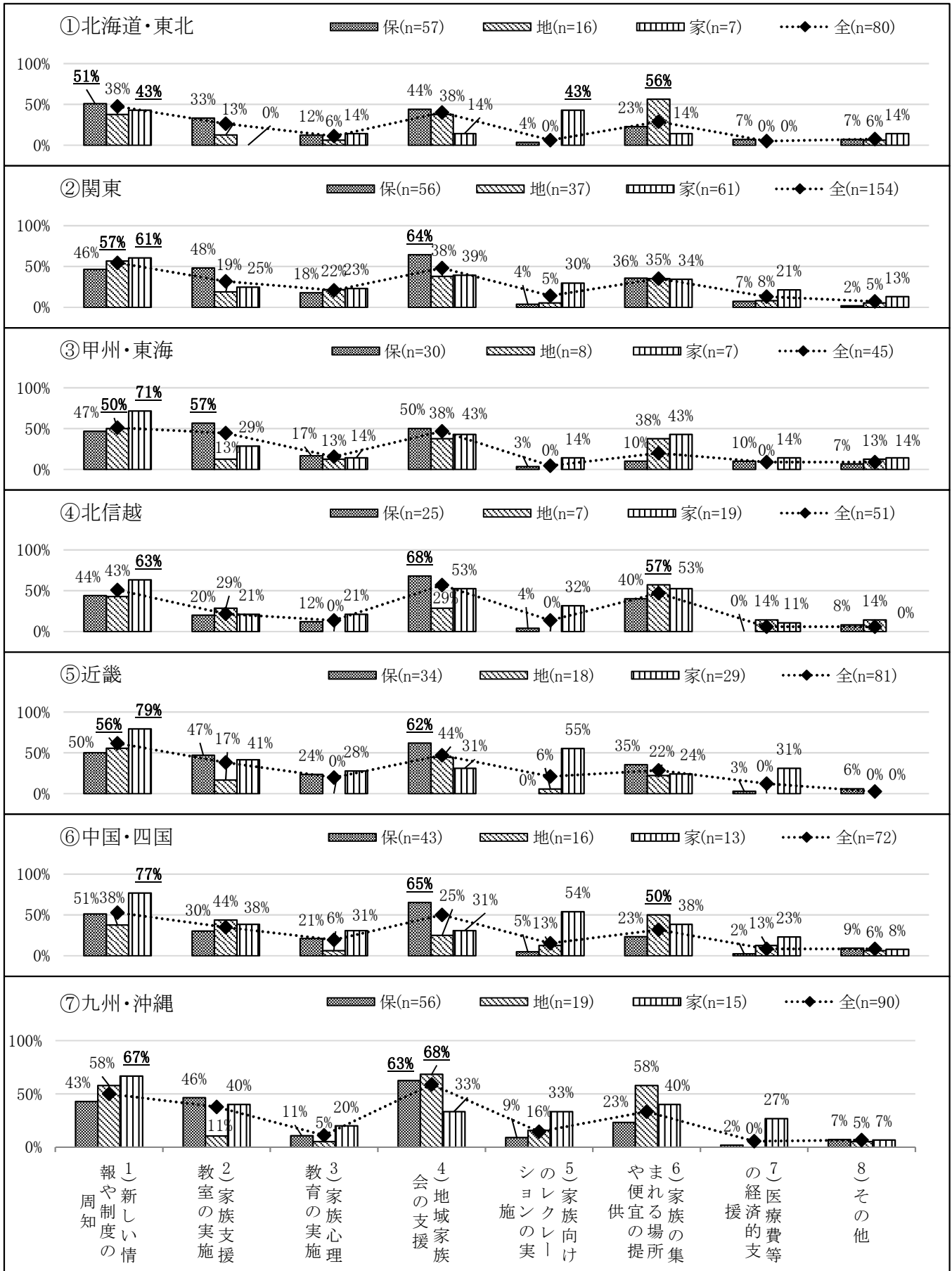
【ブロック×施設種別】		1) 新しい情報や制度の周知	2) 家族支援教室の実施	3) 家族心理教育の実施	4) 地域家族会の支援	5) 家族向けのレクレーションの実施	6) 家族の集まれる場所や便宜の提供	7) 医療費等の経済的支援	8) その他
①北海道・東北	保(n=57)	<u>29</u>	19	7	25	2	13	4	4
	地(n=16)	6	2	1	6	0	<u>9</u>	0	1
	家(n=7)	<u>3</u>	0	1	1	<u>3</u>	1	0	1
	全(n=80)	<u>38</u>	21	9	32	5	23	4	6
②関東	保(n=56)	26	27	10	<u>36</u>	2	20	4	1
	地(n=37)	<u>21</u>	7	8	14	2	13	3	2
	家(n=61)	<u>37</u>	15	14	24	18	21	13	8
	全(n=154)	<u>84</u>	49	32	74	22	54	20	11
③甲州・東海	保(n=30)	14	<u>17</u>	5	15	1	3	3	2
	地(n=8)	<u>4</u>	1	1	3	0	3	0	1
	家(n=7)	<u>5</u>	2	1	3	1	3	1	1
	全(n=45)	<u>23</u>	20	7	21	2	9	4	4
④北信越	保(n=25)	11	5	3	<u>17</u>	1	10	0	2
	地(n=7)	3	2	0	2	0	<u>4</u>	1	1
	家(n=19)	<u>12</u>	4	4	10	6	10	2	0
	全(n=51)	26	11	7	<u>29</u>	7	24	3	3
⑤近畿	保(n=34)	17	16	8	<u>21</u>	0	12	1	2
	地(n=18)	<u>10</u>	3	0	8	1	4	0	0
	家(n=29)	<u>23</u>	12	8	9	16	7	9	0
	全(n=81)	<u>50</u>	31	16	38	17	23	10	2
⑥中国・四国	保(n=43)	22	13	9	<u>28</u>	2	10	1	4
	地(n=16)	6	7	1	4	2	<u>8</u>	2	1
	家(n=13)	<u>10</u>	5	4	4	7	5	3	1
	全(n=72)	<u>38</u>	25	14	36	11	23	6	6
⑦九州・沖縄	保(n=56)	24	26	6	<u>35</u>	5	13	1	4
	地(n=19)	11	2	1	<u>13</u>	3	11	0	1
	家(n=15)	<u>10</u>	6	3	5	5	6	4	1
	全(n=90)	45	34	10	<u>53</u>	13	30	5	6

8)その他 の回答内容

<p>【保健所】 個別相談・個別支援 / ブロック研修会への支援 / 医療機関や家族会等との連携</p> <p>【地域施設】 個別相談・個別支援 / レスパイトケア / 組織総会への参加</p> <p>【家族会】 個別相談・個別支援 / 例会の場所(安定して)がほしい。 / 1人暮らし障害者見守り / 訪問看護制度の充実 / 家族相談の学習 / 家族会集会でのディスカッション / 講演会等の実施</p>

G 家族支援のために取り組んでいる内容(複数回答可)

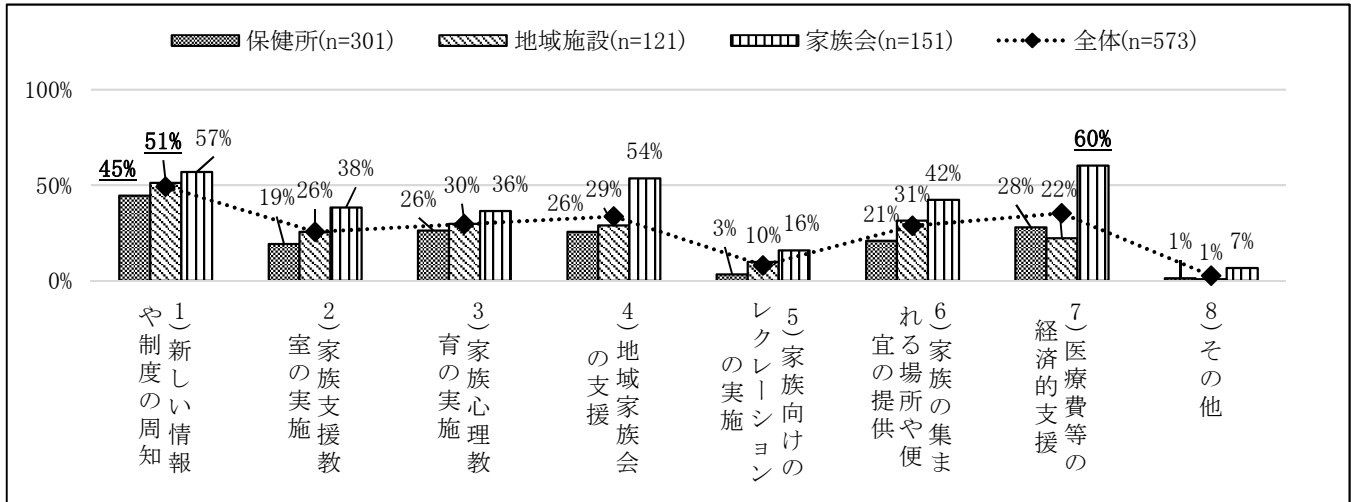
【ブロック×施設種別】



H 家族支援に関する要望(複数回答可)

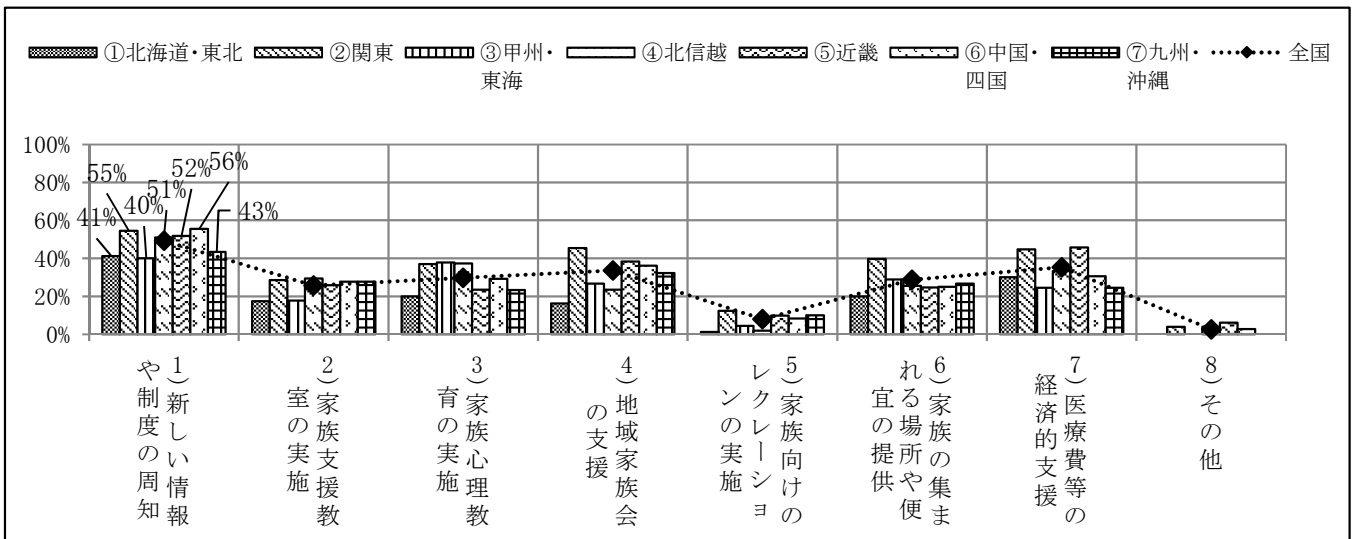
【施設種別】

	1) 新しい情報や制度の周知	2) 家族支援教室の実施	3) 家族心理教育の実施	4) 地域家族会の支援	5) 家族向けのレクレーションの実施	6) 家族が集まれる場所や便宜の提供	7) 医療費等の経済的支援	8) その他
保健所 (n=301)	<u>134</u>	58	79	77	10	63	84	4
地域施設 (n=121)	<u>62</u>	31	36	35	12	38	27	1
家族会 (n=151)	86	58	55	81	24	64	<u>91</u>	10
全体 (n=573)	<u>282</u>	147	170	193	46	165	202	15



【ブロック別】

	1) 新しい情報や制度の周知	2) 家族支援教室の実施	3) 家族心理教育の実施	4) 地域家族会の支援	5) 家族向けのレクレーションの実施	6) 家族が集まれる場所や便宜の提供	7) 医療費等の経済的支援	8) その他
①北海道・東北 (n=80)	<u>33</u>	14	16	13	1	16	24	0
②関東 (n=154)	<u>84</u>	44	57	70	19	61	69	6
③甲州・東海 (n=45)	<u>18</u>	8	17	12	2	13	11	0
④北信越 (n=51)	<u>26</u>	15	19	12	1	13	17	2
⑤近畿 (n=81)	<u>42</u>	21	19	31	8	20	37	5
⑥中国・四国 (n=72)	<u>40</u>	20	21	26	6	18	22	2
⑦九州・沖縄 (n=90)	<u>39</u>	25	21	29	9	24	22	0
全国 (n=573)	<u>282</u>	147	170	193	46	165	202	15



*上のグラフで値のあるものはそのカテゴリーの最多回答を示す

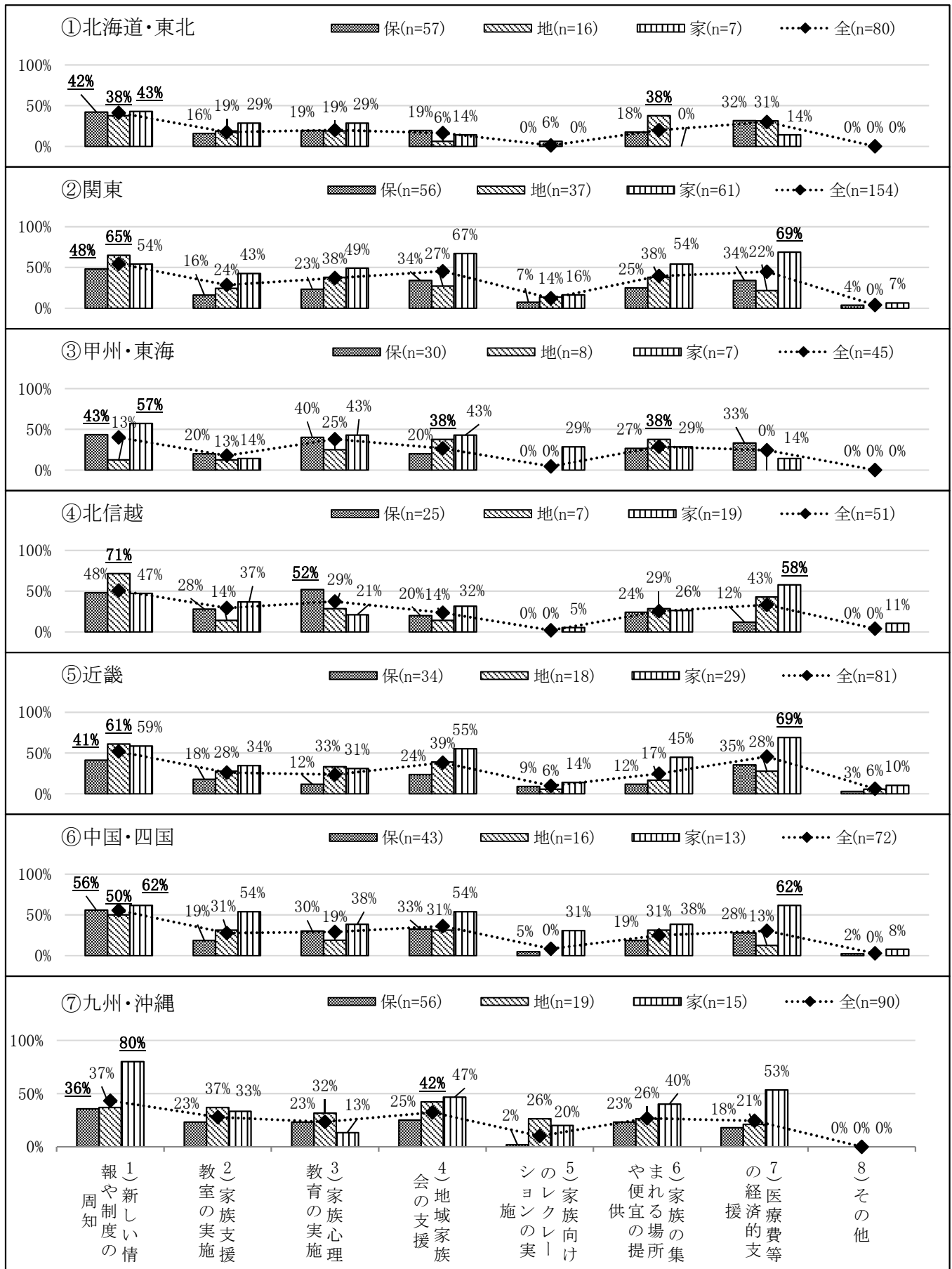
H 家族支援に関する要望(複数回答可)

【ブロック×施設種別】		1) 新しい情報や制度の周知	2) 家族支援教室の実施	3) 家族心理教育の実施	4) 地域家族会の支援	5) 家族向けのレクレーションの実施	6) 家族の集まれる場所や便宜の提供	7) 医療費等の経済的支援	8) その他
①北海道・東北	保(n=57)	<u>24</u>	9	11	11	0	10	18	0
	地(n=16)	<u>6</u>	3	3	1	1	<u>6</u>	5	0
	家(n=7)	<u>3</u>	2	2	1	0	0	1	0
	全(n=80)	<u>33</u>	14	16	13	1	16	24	0
②関東	保(n=56)	<u>27</u>	9	13	19	4	14	19	2
	地(n=37)	<u>24</u>	9	14	10	5	14	8	0
	家(n=61)	33	26	30	41	10	33	<u>42</u>	4
	全(n=154)	<u>84</u>	44	57	70	19	61	69	6
③甲州・東海	保(n=30)	<u>13</u>	6	12	6	0	8	10	0
	地(n=8)	1	1	2	<u>3</u>	0	<u>3</u>	0	0
	家(n=7)	<u>4</u>	1	3	3	2	2	1	0
	全(n=45)	<u>18</u>	8	17	12	2	13	11	0
④北信越	保(n=25)	12	7	<u>13</u>	5	0	6	3	0
	地(n=7)	<u>5</u>	1	2	1	0	2	3	0
	家(n=19)	9	7	4	6	1	5	<u>11</u>	2
	全(n=51)	<u>26</u>	15	19	12	1	13	17	2
⑤近畿	保(n=34)	<u>14</u>	6	4	8	3	4	12	1
	地(n=18)	<u>11</u>	5	6	7	1	3	5	1
	家(n=29)	17	10	9	16	4	13	<u>20</u>	3
	全(n=81)	<u>42</u>	21	19	31	8	20	37	5
⑥中国・四国	保(n=43)	<u>24</u>	8	13	14	2	8	12	1
	地(n=16)	<u>8</u>	5	3	5	0	5	2	0
	家(n=13)	<u>8</u>	7	5	7	4	5	<u>8</u>	1
	全(n=72)	<u>40</u>	20	21	26	6	18	22	2
⑦九州・沖縄	保(n=56)	<u>20</u>	13	13	14	1	13	10	0
	地(n=19)	7	7	6	<u>8</u>	5	5	4	0
	家(n=15)	<u>12</u>	5	2	7	3	6	8	0
	全(n=90)	<u>39</u>	25	21	29	9	24	22	0

8)その他 の回答内容

<p>【保健所】 県、市と連携した啓発の取り組み / 家族を専門にサポートする専門職の養成 / アウトリーチ体制整備</p> <p>【地域施設】 マスコミの報道の仕方</p> <p>【家族会】 訪問型の医療福祉サービス支援 / 基幹相談支援センターと多職種のACT推進 / 家族を支援の対象として位置づけてゆく / 他障害との格差是正 / アウトリーチ導入の拡大 / さらに医療、福祉のサービスが向上し、精神障害に悩んでいる当事者、家族が早く相談できる場所につながる、支援を受けられるシステムを作ってほしい。</p>

H 家族支援に関する要望(複数回答可)
【ブロック×施設種別】



I 差別を解消するためのその他の意見

J その他(特に力を入れている事業をご紹介して下さい)

※IおよびJの自由記述の集計結果については報告書内に記述したため省略

地域啓発実践事例調査報告書

- 事例 1. 就業・生活相談室 からびな
- 事例 2. 仙台スピーカーズ・ビューロー
- 事例 3. 就労支援事業所 喫茶店ホリデー
- 事例 4. 群馬県精神障害者家族会連合会
- 事例 5. 横浜市精神障害者家族会連合会
- 事例 6. 遠州精神保健福祉をすすめる市民の会 (E-JAN)
- 事例 7. 地域活動支援センター ぱる・おかやま
- 事例 8. 多機能事業所 ひまわり
- 事例 9. 障害者地域活動支援センター のぞえの杜
- 事例 10. 熊本市障がい者相談支援センター ウィズ

調査日 2017年2月23日
調査者 呉 恩恵、澤田優美子

事例1. 就業・生活相談室 からびな

【1】団体概要

- (1) 団体区分 地域施設
- (2) 団体種別 NPO 法人
- (3) 所在地 北海道札幌市
- (4) 設立年月 2004年3月
- (5) インタビュー対応者 村田 育洋（就業・生活相談室からびな 主任）

【2】主たる事業または活動、プログラム

相談業務、訪問活動、会員学習会、地域啓発事業、学校への出前講義、夏祭り・盆踊りなど地域行事への参加、町会・自治会活動への協力・参加、ピアサポート事業、就労移行支援事業、演劇・映画・絵画・音楽演奏などの文化活動、マスコミへの働きかけ

【3】地域啓発の取り組み

(1) どんな取り組みをしていますか？

1) 町内会役員としての取り組み

インタビューはソーシャルワークの一環として町内会役員に立候補。町内会役員として町内会という地域資源の変化を試みた。具体的には、顔の見える関係性の再構築を目的とし「茶話会」を立案し2013年から実施した。茶話会は誰でもが気軽に参加できるよう、簡単な食事を取りながら話をする会であり、年4回行われ現在も継続している。旅行などの大それたことはあえてしない。また、仕事をしている方々のために始めた「夜の茶の間」にも参加している。

2) NPO と連携した取り組み「清水プロジェクト」の実施。

インタビューの所属する NPO 法人コミュニティ楽創は就労支援を行う法人である。事業所が4つと委員会が2つあり、委員会のうちの1つである「地域ネットワーク委員会」と町内会が連携し2015年「清水プロジェクト」を実施している。

清水プロジェクトの主な活動は、防災活動を通じたまちづくりである。具体的には以下ア～エの活動を行った。ア) 非常時に備え水の配布 イ) 花壇整備 ウ) ロケットストーブ作成 エ) ワークショップや講演会の実施

(2) 始めたきっかけは何かありますか？

「地域というのはどこか遠くではなく、隣の人たちのこと」と先輩ソーシャルワーカーからインタビューが指導を受けたことがきっかけの一つである。ま

た、インタビューの所属する法人で「茶の間」という地域実践のモデルがあったこともきっかけである。

(3) いつから始めましたか？

2013年から活動していて現在、町内会の役員としては、4年目になる。

(4) どんな成果や変化があがっていますか？

1) 交流の活性化：町内会でイベントを企画しても5～6人しか参加者申込み者がおらず企画倒れとなり、その結果年間で数名～10名余の交流であった。茶話会では平均26名、年間で130名を超す参加があり交流が活性化している。

2) 町内会という地域資源の変化：町内会の関係の希薄化によりお互いの顔が見えない関係性であったが、茶話会や清水プロジェクト等の活動により、お互いに顔が見える関係へと変化した。その結果、安心感が生まれ、お互い頼みやすい関係となった。また、清水プロジェクトをきっかけとし近隣の福祉施設へ見学に行く等、活動にも広がりが見られている。さらには、NPOという外部が入ることにより、町内会役員の負担感・閉塞感が軽減し地域資源としての継続可能性が向上している。

3) 支え合う関係性への変化：顔が見える関係となり安心感がふえた結果、精神障がいを含めたさまざまな病気について「実は…」と相談をする人が増え、地域で見守り、時に支え合えるようになる変化が生まれている。

(5) どんな困難や課題がありましたか（または、ありますか）？

データを集め検討し仮説を立て実施するという流れを実践とするならば、データを揃える段階でデータが集まりにくいことに課題があった。地域啓発である以上地域のデータをそろえるわけであるが、インタビューの地域ではまちづくりセンターにて高齢化率や防災意識のアンケート集計や社会増加などの数値的なデータを集積していたのだが、精神障がいについてどのような思いが地域にあるのかはデータ化されていなかった。さらに、大切な点であるが、地域の強みはなんであるのか、住む人の特技はなんであるのか、地域の歴史はどのようなものであるのか等のストレングスのデータもなかった。

高齢化、子育て、関係性の希薄化という課題と障がいへの抵抗感の程度、ストレングスを見つけ出し結びつけ、お互いに助け合う関係性を作りあげることは容易ではなかった。

今後インタビューが町内会という資源を通して活動を続けるのであれば、町内会という資源が、高齢化によるマンパワー不足という課題を乗り越え継続可能になるよう工夫し続けることが必要である。

(6) 今後は、どのような取り組みをしていきたいですか？

現在では、地域の課題を話ししている中で精神障がいも話題にあがる。これからも、引き続き小さな活動を行い、小さく自然な地域啓発を継続できればよいと考えている。

(7) その他、地域啓発に関して強調したいメッセージがありますか？

- ・やってみると楽しいということ。お互いに支え合う関係に変化するなかで、現在私自身が地域住民からサポートを頂き、とても助けられている。
- ・どのような実践でもそうであるが、データをとり検証し仮説化して実践したい。
- ・ストレングスの視点も大切である。
- ・場合によっては、「支えてください」と言ってもそんな状況ではない方がたくさんいることも忘れずに。

【4】調査者のコメント

地域課題をともに考え、活動を展開していく中で「お互い様」「障害とかじゃなくみんなで助け合わないと」という「共生」の考え方が自然と再現されていることが伝わってきた。地域の中ではいろいろな得意を持っている人が住んでいる。福祉関係職の人も住民に地域貢献を要求するばかりでなく、自分も地域住民として得意分野を活用していくことを意識することが必要であると考えられた。

法人名は、登山グッズの「からびな」から由来した。からびなはフックのような形をしていていつでもかけたり、外したりすることができる。今回、訪ねた「からびな」も専門家からでなく支援を求めている本人の意思に応じて外す、掴むことができるような団体としていたいという意味を持つ。地域でこのような存在になるためには、誰でも知っていることが大事で「からびな」はまさに地域の中の存在感ある団体として位置づけられている



「夜の茶の間」の様子



防災活動の様子



茶話会の様子

事例2. 仙台スピーカーズ・ビューロー

【1】団体概要

- (1) 団体区分 その他の団体（地域団体）
- (2) 団体種別 任意団体
- (3) 所在地 宮城県仙台市
- (4) 設立年月 2008年4月
- (5) インタビュー対応者 西尾 雅明（代 表）
菅原 里江（事務局長）
中鉢 皓大（専任職員）

【2】主たる事業または活動、プログラム

会員相互支援活動、会員学習会、大学への出前講義、市民向け講演会、ピアサポート事業、ピアカウンセリング、広報誌・機関紙発行、イベント（フォーラム）、啓発パンフレット作成・配布、マスコミへの働きかけ

【3】地域啓発の取り組み

- (1) どんな取り組みをしていますか？

精神障害のある人に対する理解を深め、差別や偏見を解消するために、精神障害当事者が声をあげ、体験を市民に語ることを基本に、現在38名（男性24名・女性14名）の当事者メンバー（28歳から66歳・30代後半から40代が中心）が活動している。平成28年度では、学生、専門職、一般市民を対象に、延べ講演回数24回、総聴講者数915名、講演した当事者は17名であった。

- (2) 始めたきっかけは何かありますか？

平成18年仙台市精神保健福祉審議会にて、市民への普及啓発活動として「精神的健康を推進するための3つのテーマ」を仙台市に提言した。アンチスティグマ研究会（佐藤光源代表）が「当事者の生の声を聞こう」とフォーカスグループインタビューを実施し、偏見対策の具体的な取り組みの一つにスピーカーズ・ビューロー活動の活用が含まれていた。

- (3) いつから始めましたか？

2008年4月から開始

- (4) どんな成果や変化があがっていますか？

大学と仙台市に認知されている。大学は地域貢献活動に力を入れており、事務局の設置に便宜を図っている。仙台市は、精神保健福祉に関する地域普

及啓発活動として、スピーカーズ・ビューローの活用のために業務委託し、平成28年度では629万円の委託料を提供している。これにより、専任職員が配置されている。また、活動するメンバーはボランティア保険にも加入している。

(5) どんな困難や課題がありましたか(または、ありますか)？

精神障害当事者の多くは人前で話した経験がない。そのため、自信と勇気を持って講演が出来るように、コミュニケーション、表現力、主体性を高める育成・支援に力を入れている。また、人前で話す自信がない人でも、詩や作文で伝えることが出来るように冊子も作成している。

なお、実施した普及啓発活動の効果判定等の評価も行っている。

(6) 今後は、どのような取り組みをしていきたいですか？

○講演したメンバーがその後、話せる場所の確保

○講演を聞いた市民の相談にも個別に対応すること

○講演の対象では、大学の学生が多いが、教育分野では高校生にも模擬講義などの働きかけをしていきたい

○福祉施設、児童養護施設など現場のスタッフにも講演活動をしていきたい

(7) その他、地域啓発に関して強調したいメッセージがありますか？

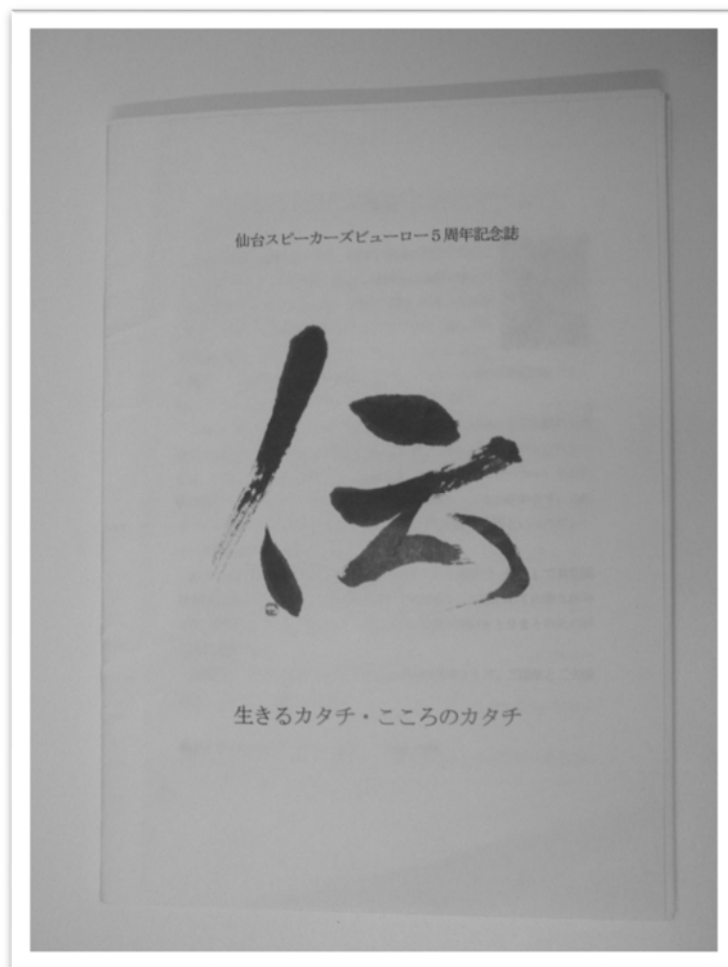
地元自治体が物質的に支援することで、当事者の社会活動が継続出来る。仙台市は、当事者支援だけでなく、助成金を出してファミリー・ツー・ファミリーなど家族支援にも力を入れている。

【4】調査者のコメント

精神障害当事者の講演活動は全国的に「ベテルの家」が有名であるが、仙台でも見事な活動が取り組まれていた。仙台SBでは、講演できる場所だけでなく、講演できる精神障害当事者自身を増やすことに力を入れていることも大きな特徴である。しかも、地元の福祉系大学と仙台市が協働で支この活動を支援していることは力強い。この仕掛けは、世界精神医学会が呼びかけた21世紀アンチスティグマ・キャンペーンに呼応した日本の取り組み、全国アンチスティグマ研究会の代表、佐藤光源先生が同大学にいらしたことが発端となっている。その教え子である菅原さんが大学の専任教員となり、佐藤先生の後を引き継いだ精神科医の西尾雅明氏など専門職にも恵まれて、仙台SBは地域に根を張った組織に成長している。これからの活動も期待される。



メンバーの話し合い



記念誌

事例3. 就労支援事業所 喫茶店ホリデー

【1】団体概要

- (1) 団体区分 地域施設
- (2) 団体種別 NPO 法人
- (3) 所在地 栃木県那須塩原市
- (4) 設立年月 1999年10月
- (5) インタビュー対応者
増田美和子（就労支援事業所 喫茶店ホリデー サービス管理責任者）

【2】主たる事業または活動、プログラム

相談業務、訪問活動、市民向け講演会、バザー活動、ピアサポート事業、
広報誌・機関紙掲載、就労移行支援事業、行政交渉
その他（SNS 活動した活動紹介、退院支援）

【3】地域啓発の取り組み

(1) どんな取り組みをしていますか？

カフェ運営をしながら地域の芸術家の作品展示会、講演会等を行う地域住民との交流の場である。年1回開催される講演会は、「障害の枠を越えて」を基本的なテーマとし、引きこもりや過労死、自殺、女性問題など最近の話題や地域の課題など身近な内容から住民とともに考えていくことを目的としている。

(2) 始めたきっかけは何かありますか？

栃木県の北の方には、精神障害者の社会資源がなくここに住んでいる精神障害者にとっては社会復帰の機会がなかった。そして近くの国際医療福祉大学、当事者、地域の人に声をかけ、医療法人や大きい団体でなく、地域住民が協力してつくりあげた。

現在の場所は、大屋さんの住宅の敷地にあった空き店舗を活用してオープンした。「みんな何かしらあるからね」と近所からの反対もなかった。

(3) いつから始めましたか？

1999年10月に精神障害者小規模作業所として開所した。2003年度より精神障害者小規模通所授産施設へ移行し、2008年度から就労移行支援事業として職業リハビリテーションの場として運営している。

(4) どんな成果や変化があがっていますか？

1) 当事者が地域に顔を出している中で仕事の紹介がある。就労移行で、企業から「忙しいから手伝いに来て」と呼び掛けられることがある。

2) 当事者と地域の関係者と直接関係性をつくっている。例として職場実習に行った当事者が就職した後、実習先であった会社に寄って挨拶してくることもあった。

このように精神障害者の活動場所が広がりつつある。新しい事業を展開しようとするときに、その事業が持つ意味について話し合う中で支援の場を施設でなく地域へという職員の意識変化もおきる。

(5) どんな困難や課題がありましたか（または、ありますか）？

実践が重なっていく中で活動も落ち着くようになった。今は、次の展開に向けて考えていきたいと思っている。今のような現状維持だとつまらないものになってしまうからである。若いスタッフを育てていかねばならない、どう伝えていくのが悩みである。

(6) 今後は、どのような取り組みをしていきたいですか？

「スタッフが長く勤めていきたい」と思える職場にしたい。また、当事者の方がどこかで繋がっていることを実感できるような機会を増やしていきたい。

(7) その他、地域啓発に関して強調したいメッセージがありますか？

こちらから伝えるだけではない。地域のニーズを拾えた上での情報発信である。地域啓発は地域の人と一緒にやるのがカギである。

【4】調査者のコメント

当法人の理事は、話題作をピックアップしてくださる広告会社の方、まちづくりイベントで知り合い職場実習の受け入れてくださる社長の方、他、医療機関や大学、現場のスタッフの方など現在7名で構成されている。

この地域は、特に観光地域であるため、周りにはおしゃれでバリスタのようなコーヒー専門家がいてカフェも多数ある。カフェ「ホリデー」は、近隣と壁ひとつで区切られていてお店として地域に開かれ、おしゃれ過ぎず、まわりの家と調和しながら建てていた。中には庭もあり、子育て世帯やペットの散歩で気軽に寄れる雰囲気です。観光客よりは住民のためのお店という感じでした。地域の中で場所を借りて、カフェを運営している事業自体が啓発活動につながっていると実感した。今後の新しい取り組みも楽しみである。



バザーの様子



講演会の様子

調査日 2017年3月2日
調査者 野村 忠良、白石 弘巳

事例4. 群馬県精神障害者家族会連合会

【1】団体概要

- (1) 団体区分 地域家族会
- (2) 団体種別 任意団体
- (3) 所在地 群馬県前橋市
- (4) 設立年月 1987年5月
- (5) インタビュー対応者 吉邑 玲子 (会長)
松岡 やよい (副会長)
金子 元二 (常任理事)

【2】主たる事業または活動、プログラム

会員相互支援活動、会員学習会、学校への出前講義、市民向け講演会、バザー活動、広報誌・機関紙掲載、署名活動

【3】地域啓発の取り組み

(1) どんな取り組みをしていますか？

吉邑玲子会長が、県内の看護系、福祉系の30の教育機関に精神保健福祉に関する講義、講演を行うことを申し出、依頼のあった教育機関で講義・講演を行っている。

具体的には、教育機関から講義・講演の依頼があると相手方担当者とテーマや内容を調整している。それにより、100名を超える講演会形式を取ることもあれば、20数名の比較的小さな教室で「看護学概論」、「精神看護援助論Ⅱ」などの授業科目の時間を利用して行われることもある。話す時間も30分から100分とばらつきがある。そのため、その都度、話す内容を吟味している。これまでに行われた家族に対するアンケート調査の結果など、客観的な資料を示しながら、実際の家族会員の様子のなかに、自分の経験を織り交ぜて話すように心がけている。また、依頼のあった大学の大学案内や、教育機関によっては、参考に供するべくシラバスや学生が使用している教科書を事前に送付して来るところもあるので、それらを参照するなどして、個別的に教育上の意義を理解した上で話すことを心がけている。授業では学生の反応を考慮し、パワーポイントを使用することはせず、学生に向きあって話しかけるスタイルを取っている。今年度は、全部で7校での実施となる。来年度に向けて、同様の依頼状を出し、活動を継続していく方向で考えている。

(2) 始めたきっかけは何かありますか？

群馬県精神障害者家族会連合会には、以前から散発的に教育機関からの依頼がある時、歴代の会長等が講師として講義・講演活動を行ってきた。現会長である吉邑氏が就任後、ある福祉系大学での講演依頼に応じたところ、学生の反応に大きな手応えを感じたことから、啓発活動として意義があることを実感し、平成 28 年 6 月にこれまで依頼がなかったところも含む県内 30 の看護、福祉系の教育機関（大学、短期大学、専門学校等）に連合会会長名で「精神障害について 協力をお願い」と題する文書を送り、「家族会の役員経験者がお話をさせていただく」ことを申し出たことが契機となって、平成 28 年度に 7 教育機関において講義・講演が実現した。

(3) いつから始めましたか？

家族会として教育機関で講演活動を行うことは、以前から行われてきたが、家族会から積極的に講演を行うことを申し出たという意味では、平成 28 年 1 月が開始時期となる。

(4) どんな成果や変化があがっていますか？

講義・講演時に、居眠りをしている学生も少数いたが、学生は総じて話に耳を傾け、関心を示していると感じられた。また、事後送られてくる感想やレポートを見ると、例外的に家族の「愚痴」というとらえ方をされたものがあったものの、「家族の生の声を聞いて良かった」「家族も大変ということが分かった」「自分たちが力になりたい」など、肯定的な受け取り方をしたものが多かった。講演を通し、自分が何をすべきか、あるいはできるかをテーマとして感想を書く課題が出たある教育機関では、医療機関職員と家族との間の調整役になることなど、講師の予想を超える意見が認められた。学生のうちから精神障害や家族の苦労や思いを知ることが、将来医療現場で働くようになったとき活かされることが期待される。

授業担当者からも好意的な評価が得られており、次年度も継続して講義・講演を依頼される可能性が高いと感じている。活動を知った医師会から医師会立の準看護学校における講義・講演活動に対する PR の申し出があった。

また、講演者自身の中に社会に役立つ活動を行っているという役割意識が芽生えていることも成果のひとつと考えたい。

(5) どんな困難や課題がありましたか（または、ありますか）？

依頼先ごとに依頼内容が異なることで負担はあった。しかし、これは講演者にとっていい経験となったという側面もある。また、一度ピアサポーターの人と一緒に講演を行ったことがあった。ピアサポーターに対して消極的と思われた教育機関があった。実習前の学生に話すとき、その中の誰かが後日身内の患者が入院している医療機関で実習を行うことになる可能性を考えると、少し不安も生じた。自己の経験を話す時は、あとで身内の患者が知った時の反応も考慮して話すようにしている。

今後の継続について、今年は試行期間と考え、もし評価され他にも広がれ

ば、地域の家族会などと連携するなどの方法で乗り切るつもりでいる。

(6) 今後は、どのような取り組みをしていきたいですか？

土地柄、まだ精神障害に対する差別や偏見が根強いと感じている。高齢化が進み、家族会の活動も十分活発とは言えない状況があるため、やるべきことのうちで、できることから取り組んでいきたい。具体的には、民生委員を対象に同様の働きかけを行い、会長以外の役員が講演を実施していくことが、すでに決まっている。また、地元の作家で当事者でもある方に対し、状況を見て協力の依頼をしていくことも考えたい。

(7) その他、地域啓発に関して強調したいメッセージがありますか？

家族会会員の身内の患者は総じて重症で入院している人も少なくない。高齢化の問題も深刻だが、差別や偏見を恐れて地元で活動に参加できない当事者家族が存在している。なかなか解決できない問題であると感じている。

【4】調査者のコメント

看護福祉系の教育機関への積極的な出前講座の活動である。まだ、開始されて間もないが、地元で精神障害者に対する根強い差別意識が残っているとされる中で、意義ある活動と評価できる。比較的大きな反響が得られており、十分に継続可能と考えられる。また、これまで受け身的に引き受けていたときと比べ、相手の学生の状況や講演・講義の教育的効果を考えて内容も改良されてきていることがうかがわれることから、今後さらに意義あるものとなることが期待される。開始から現在までのところ、会長個人の力で活動が牽引されているが、今後家族会内外で協力者が増えていくことで、より大きなうねりを作り出していくようになることを期待したい。



群馬家族連合会 吉邑玲子氏の講演

調査日 2017年3月7日

調査者 篠崎 安志

事例5. 横浜市精神障害者家族会連合会

【1】団体概要

- (1) 団体区分 地域家族会
- (2) 団体種別 NPO 法人
- (3) 所在地 神奈川県横浜市
障害者スポーツ文化センター 横浜ラポール3階
- (4) 設立年月日 1979年6月30日
- (5) インタビュー対応者 宮川 玲子（理事長）

【2】主たる事業または活動、プログラム

相談業務、会員相互支援活動、会員学習会、地域啓発事業、
市民向け講演会、広報誌・機関紙掲載、障害者作業所、行政交渉、
啓発パンフレット作成・配布

【3】地域啓発の取組

(1) どんな取り組みをしていますか？

横浜市各区の家族会による連合体として活動しています。設立当初から「地域社会が精神障害者問題を正しく理解し、その理解を広め、よりよい精神医療と福祉の増進を実現する」ことを掲げ活動を続けてきました。

その中で、家族同士の支えあい活動を中心にしながらも、啓発事業として平成元年から市民向け啓発活動を行っています。

平成28年度は、会員・家族・市民対象を対象とした、浜家連研修会（計5回・412名参加）、ブロック別市民精神保健福祉フォーラム（計3回・733名参加）。広く市民を対象とした市民メンタルヘルス講座（計2回・216名参加）を開催しています。

(2) 始めたきっかけは何かありますか？

設立当初から、社会の偏見解消が大きなテーマだと感じていました。

当時は、自分たち自身も「心の病」に対する理解が乏しく、同時に社会の中でもよそ事のように取り扱われて、実際に対応してくれる職員や施設がない状況でした。

このような状況をとにかく変えていこうという運動の一環として活動を開始しています。

(3) いつから始めましたか？

団体設立当初（昭和54年）から市民も含めた啓発を小規模ながらも行ってきました。

この中で、市民に対する啓発を継続的に行うことが有効であると感じ、事業経費の補助を行うことを経年的に横浜市に要望しました。その結果、平成元年に、横浜市から啓発事業を対象とした補助金を受けたことで事業が拡大・定着しています。

また、平成2年から家族による相談事業を始め、相談を受ける家族が勉強会を開始しました。これも、後に市民も含めた形で、障害への理解や対応方法を深める研修の実施に至っています。

啓発事業を始めた頃は、より多くの市民に知ってもらいたいとの思いから、有名な作家やジャーナリストを呼んでの講演会を多く組み、集客した中で精神疾患や障害についての話をするようにしていました。

近年では、講師の集客に頼るのではなく、精神科医等専門家の話を願うことが多く、講演内容により集客ができるようになってきています。

(4) どんな成果や変化があがっていますか？

精神疾患全般については市民の受け入れが進んでいる感覚があります。ただし、統合失調症に限り考えると、以前から大きく変わっていないとも感じます。

ただし、啓発などを通じて、市民全体の精神疾患や障害への理解が深まれば、おのずと統合失調症への偏見も軽減していくのではないかと考えています。

家族もこの事業に係わることで、周囲の理解の向上が必要なことへの意識が持てるようになったと感じています。

(5) どんな困難や課題がありましたか（または、ありますか）？

最近では、家族会員の高齢化、活動できる人材の確保、若い人が入ってこない状況があり、活動に必要なマンパワーの確保が課題です。これにより、一部、事業の縮小も迫られています。

また、社会的な背景として、インターネットでの交流・情報のやり取りが進んでいるため、家族会まで足を運んでくれる人が減ってきていると思います。

ただ、思春期の問題やうつの問題を取り扱くと反響が多く、精神保健福祉の問題のすそ野が拡大していると感じています。

家族自身が周囲の偏見にさらされ、理解してもらうことの困難さを感じていたからこそ活動できていると思うと同時に、何をすべきかがわかってきたと思っています。

(6) 今後はどのような取り組みをしていきたいですか？

啓発活動は、直接的な効果は見えないし、団体として負担感があるものの、社会の理解は必要であると感じているので、現状を維持していきたいと思います。

また、その内容についても、家族や当事者など、この問題で困っている人が中心になって発信していくことが効果的だと感じています

さらに、参加してもらうために、多くの人にこの活動を知ってもらう必要はあると考えています。具体的には、定期的に行政の広報にて周知していくなど、様々な機関と連携した啓発事業のPRができていくとよいと考えています。

【4】調査者コメント

浜家連は市内18区の単会を取りまとめつつ、全市的な啓発・相談・行政への陳情等の活動を行っている。各役員が単会での活動も行いつつ、並行して事業を行っているため、マンパワー的には難しいものもあることが想像できました。

また、事務局は横浜ラポール（障害者スポーツセンター）の一角にあり、身体・知的障害や薬物依存症の家族会等と机を並べて活動を行っています。このため、日常的に他の関係団体と理解・協力しあえる環境も持っていると感じました。

行政からの助成金もあり啓発事業が継続されていますが、その原動力は家族の熱意であり、課題を抱える当事者たちが直接活動を行っていることで効果的に市民に語りかけられる場を作ることができていると感じました。

今後は家族会として、家族の一時滞在場所の確保事業、成年後見制度への関与など、啓発活動だけでなく、家族や当事者が住みやすい環境の確保のため様々な活動を企画していくそうです。





事例6．遠州精神保健福祉をすすめる市民の会（E-JAN）

【1】団体概要

- （1）団体区分 その他団体（市民団体）
- （2）団体種別 NPO 法人
- （3）所在地 静岡県浜松市
- （4）設立年月 1997年12月
- （5）インタビュー対応者 大場 義貴（聖隷クリストファー大学 准教授）
佐々木正和（聖隷クリストファー大学 助教）
加藤 寛盛（地域若者サポートネットステーション
はままつ総括コーディネーター）

【2】主たる事業または活動、プログラム

相談業務、スポーツ交流活動、地域啓発事業、市民向け講演会、バザー活動、広報誌・機関紙掲載、演劇・映画・絵画・音楽演奏などの文化活動、イベント（体験発表会）、啓発パンフレット作成・配布、その他（ボランティア養成講座、自主制作ビデオ、自殺対策事業、ひきこもりサポートセンター、地域若者サポートステーション）

【3】地域啓発の取り組み

- （1）どんな取り組みをしていますか？

E-JAN が社会復帰施設づくりを進めることは、それまで作り上げたネットワークが分断されると考え、他団体支援、普及啓発、人材育成を中心に取り組んでいった。

「定期交流会」：各機関の専門職、ボランティア等が立場を抜きに地域のことやE-JANについて意見交換を毎月第2土曜日に行っている。「サロン活動」：ボランティアとメンバーが対等な関係で協力しあい、食事作り、バザーの作品作り、クリスマス会等の企画運営を実施している。「運動会」：社会福祉協議会との共催で実施している。「コンサート」：音楽活動を行っている個人や団体に協力してもらい100人規模で実施。「メンタルヘルスセミナー」：一般市民を対象に全5回でこころの健康に関する正しい知識と理解の促進を目的に実施。「ボランティア講座」：毎回30名程度の参加。

他に、浜松市自殺対策における多職種連携支援業務、浜松型就労支援ネットワーク会議、障害者相談支援事業、ひきこもり相談支援事業、地域若者サポートステーション事業等。

(2) 始めたきっかけは何かありますか？

1993年に浜松市にメンタルクリニック・ダダが設立され、回復していく当事者から「働きたい」、「一人暮らしをしてみたい」という声を聞くようになった。地域に社会資源が少ない状況の中で、1995年、地域精神保健福祉活動のあり方を考えるために関係者の有志が集まり「西遠地区精神保健福祉を実践する会」を立ち上げ、勉強会を始めた。

(3) いつから始めましたか？

1997年、「実践する会」は、参加者メンバーも市民の一人であるとの認識に立ち、「遠州精神保健福祉をすすめる市民の会（通称：E-JAN）」へと名称を変更した。E-JANは、「心の病を持つ人やその他の障がいを持つ人に対して、その社会復帰や社会参加の支援に関する事業を行い、ノーマライゼーション社会の実現に寄与すること」を目的に、市民活動としてのあり方を方向づけた。

(4) どんな成果や変化があがっていますか？

閉鎖的自己完結的でなく、地域との結びつきやネットワークを拓ける活動として、地域性と市民性を基礎として、専門性、素人性、当事者性を取り入れた事業実施やネットワーク活動を通して人や機関同士の交流が生まれている。

参加者のアイデアから、自主製作ビデオの作成、絵画展の開催等を市民等の協力のもと実施している。また、自殺対策事業の一環として「葉っぱのフディ」の開催、中学校生徒調査及び教員調査を経て教師用テキストを作成し、思春期メンタルヘルスリテラシーの基礎資料の作成などもしている。さらに障害者相談支援事業、ひきこもりサポートセンター、地域若者サポートステーションや浜松市発達支援広場事業等を実践している。

2014年度子どもと家庭・若者応援団表彰（内閣府）受賞

第8回ベストプラクティス賞（日本精神障害者リハビリテーション学会）受賞

(5) どんな困難や課題がありましたか（または、ありますか）？

財政的基盤強化のため2002年にNPO法人格を取得。

(6) 今後は、どのような取り組みをしていきたいですか？

例えば児童虐待防止、不登校のこどもの支援等課題別にNPO法人をつくり、相互に連携するユニオンを作っていくことも課題である。

【4】調査者のコメント

社会資源のない地域において当事者のニーズから出発しているが、単に社会資源づくりに留まっていない。社会資源を作って自己完結的な組織として運営されていく事例が多い中で、ネットワークに特化した組織づくりを進めていったところに特徴がある。市民や行政、大学等を取り込んでいく戦略的

な組織作りによって、地域のネットワーク組織として認知され、その結果として社会資源が多く創出されている。

ヒアリングの際、アメーバのように組織が変化すると話されていたが、地域のニーズを的確に把握し、常に新しい取り組みを実践している。

さらに、若い専門職が活躍されているが、若い人の意見が尊重されるなど、柔軟な組織運営により、常に新鮮な活動が展開されているという印象をもった。



地元 FM 局のスタジオを借りて開催した絵画展

事例7. 地域活動支援センター ぱる・おかやま

【1】団体概要

- (1) 団体区分 地域施設
- (2) 団体種別 社会福祉法人
- (3) 所在地 岡山県岡山市
- (4) 設立年月 1985年3月
- (5) インタビュー対応者
 - 杉原 直義 (社会福祉法人あすなろ福社会 法人本部管理者)
 - 徳田 裕子 (ぱる・おかやま相談支援事業所 相談支援専門員)

【2】主たる事業または活動、プログラム

相談業務、訪問活動、スポーツ交流活動、地域啓発事業、学校への出前講義、市民向け講演会、夏祭り・盆踊りなど地域行事への参加、町会・自治会活動への協力・参加、ピアサポート事業、広報誌・機関紙掲載、就労移行支援事業、就労継続支援事業（B型）、演劇・映画・絵画・音楽演奏などの文化活動、マスコミへの働きかけ（地域マスコミ、地域新聞への広告）

【3】地域啓発の取り組み

(1) どんな取り組みをしていますか？

商店街の中にあり、商店街組合員として役割を持っている。たとえば、当法人はアート工房があるので商店街のイベントの際にはお客さんに陶芸を教える。

啓発活動として学校や地域の民生委員などに向けて出前講義を行なっている。そのうちのひとつとして「統合失調症について知る」という行政のこころの健康センターの啓発活動事業に協力し、中学校を対象に障害者の体験談を話す場に参加している。このような啓発活動の出前講座や病院での交流会を含めると年間50件は行っている。学校の場合は、事前に教員を対象にして2回目からは学生を対象に行う。他にも、精神障害者自身が中心となって実行委員会を構成し「調子はえーんじゃフェスティバル」というお祭りを当事者、支援者、学生、家族が行い始め今も続いている。

2008年からは宇野学区盆踊り再興に取り組んでいる。昔からの祭りが、若手がいなく継続できない状況に置かれた時に、当法人が手を挙げ引き継ぐことになった。今では夏には欠かすことのできない大きな祭りになっている。

現在は、法人の拠点を岡山市表町に移転し、岡山の夏祭りの「うらじゃ」に

商店街の踊りチームとして地域の人と一緒に参加をしている。地域の方とつながりをもつ活動になっている。

(2) 始めたきっかけは何かありますか？

法人は、最初は病院の隣にあったが、街中で活動をしようと意図的な目的で現在の商店街に意識して移転した。商店街の空き店舗を利用すれば、地域の活性化にも繋がると考えた。

理事長や会長には法人について説明したが、商店街のみなさんに引越しの挨拶をする時にはわざわざ精神障害者の就労支援ということを打ち明けるのではなく、「障害者の居場所であり、仕事をサポートする所」がオープンすると話し始めた。

(3) いつから始めましたか？

あすなろという法人の設立は1985年からであるが、現在の商店街に移転したのは2015年3月である。

(4) どんな成果や変化があがっていますか？

最初から反対はなかったし、商店街も高齢化で後継者がいなくなっている現状で若い人が入ってくるということで歓迎されていると感じる。何かある時は、こちらから手伝いにいくこともある。また、当法人で作っている「ばる通信」では、商店街のお店を取材し、紹介する欄もあるので皆さんも関心を持ってくださっている。

現在、法人の事業所の中で商店街に6事業所を運営していてカフェ（就労継続支援B型）は地域の住民がランチを食べに来てくる普通の商店街になっている。

(5) どんな困難や課題がありましたか（または、ありますか）？

障害者の権利ばかり主張するより共に助け合うための工夫を引き続きしていく。

(6) 今後は、どのような取り組みをしていきたいですか？

みんなで商店街の運営からまちづくりをしていきたい。

(7) その他、地域啓発に関して強調したいメッセージがありますか？

一法人だけでは、力が限られている。人々との関係性、マスコミなどを活用して行わなければならない。障害のある人が地域で住めるかというより、みんなが住みやすい地域をつくりあげることに焦点を当てることが重要である。

【4】調査者のコメント

インタビューの最後に、ホームページを見せていただいた時、アイコンには硬い文字よりキャラクターが並んでいたのを見て思わず「可愛い」と言ったことにインタビューーは、当事者の中で絵が上手な方がいて今度ラインというSNSのスタンプを作って販売すると自慢してくださった。

地域の一員になり、自分の得意が発揮でき、他人から褒めてもらったり励

んでもらったりしながらもっと自分の力が発揮できる場に繋がる、このようなことは地域の中に行なっている。

まちづくりにおいて当事者は、地域の住民みんなであること、岡山市表町の商店街は、人や地域のストレングス実践が行なっていて生き活きと、とても楽しく感じた。



商店街のチームにて地域の方と一緒に踊っている様子



商店街の夏祭りで出店の手伝いをしている様子



出前講座の様子



出前講座の様子

調査日 2017年3月3日

調査者 呉 恩恵

事例8. 多機能事業所 ひまわり

【1】団体概要

- (1) 団体区分 地域施設
- (2) 団体種別 医療法人
- (3) 所在地 岡山県岡山市
- (4) 設立年月 2012年4月
- (5) インタビュー対応者 田淵 泰子（施設長）

【2】主たる事業または活動、プログラム

相談業務、地域啓発事業、学校への出前講義、市民向け講演会、夏祭り・盆踊りなど地域行事への参加、町会・自治会活動への協力・参加、広報誌・機関紙掲載、就労継続支援事業（B型）、演劇・映画・絵画・音楽演奏などの文化活動、イベント（こころの病気を学ぶ授業）、啓発パンフレット作成・配布、マスコミへの働きかけ、その他（まちづくり会議、ひまわりカフェなど）

【3】地域啓発の取り組み

(1) どんな取り組みをしていますか？

1) 「こころの病気を学ぶ授業」を平成21年から開始している。2016年12月9日が第9回目となった。岡山市立京山中学校と共催で実施されている。内容は、通学2年の生徒217名（全8クラス）を対象に、1日6時間の連続授業絵である。万成病院のエムホールという広い講堂を会場に、公開授業のため昨年は県外の視察者を含めて380名が参加したという。学校の教師による精神疾患・精神障害に関する授業、精神障害当事者が作詩した詩の朗読、こころのバリアフリー研究会会長の特別講義、NPO「マインドこころ」のギター演奏や音楽ライブ、生徒たちによる合唱「平和の鐘」、「スピーカーズ・ビューロー岡山」「NPO ピアサポートセンターひといろの実」など精神障害当事者・支援者を囲んだ車座トーク、最後は、参加者全員でアンジェラ・アキの「手紙～拝啓 十五の君へ」の大合唱で幕を閉じる。この準備には、学校側を含めた実行委員会を組織し、打ち合わせを繰り返し、事後の振り返りもするという。これまでの9回で2,700名の生徒がこの授業を受けている。

2) まちづく会議

地元の谷万成町会（385世帯950人）と共同で、平成24年4月から2か月に1度の「まちづくり会議」を立ち上げた。これは、平成15年5月から平成24年まで、通算100回を数えた「ひまわりサロン」に区切りをつけ、地域と

の関係を新たに発展させたものである。ここでは、様々な企画が練られ、行事が立ち上がってきた。毎年行われる「一人一人の花を咲かせようアート展」では、絵画、書道、焼き物、詩などの作品が発表される。月1回の健康相談室、新春の餅つき大会、夏祭り、人権教育講演会などインクルーシブな地域コミュニティづくりの原動力となっている。

3) ひまわりカフェ

施設と町内会が共同で運営している。この他にも隣接する万成病院と地域との交流拠点であるカフェ「こだま」の活動、地域公開セミナー、スポーツ交流などが取り組まれている。

(2) 始めたきっかけは何かありますか？

1) 「こころの病気を学ぶ授業」は、田淵施設長の恩師が中学校にいたことで、実現したという。京山中学校は校是として「共生」を掲げており、人権境域が盛んであった。1年生は、「ハンセン病」を学習し、3年生は、「水俣病」を学習していた。2年生の枠が空いていたところに「精神疾患・精神障害」が収まったという。

2) 地域と交流し、地域に根を張る活動は病院開設以来の課題であった。この活動により、病院も施設も存続しているといっても過言ではない。

(3) いつから始めましたか？

1) 1年かけての教示作りなどの準備を経て、平成21年から開始した。

2) 病院及びひまわりが開設以来である。

(4) どんな成果や変化があがっていますか？

1) 生徒たちの感想文では、「直接ふれあわなかったら、病名だけで誤解や偏見をもっていた。知らないでいることの怖さを教えてくれた」「病気だから何も出来ないと決めつけるのは間違いだと思った」などが寄せられた。この取り組みによって、毎年春休みにひまわりにボランティアに来る生徒や、生徒の職場体験学習(3日間)も毎年行われ、中学の文化祭では、精神障害者をテーマとした研究発表もあるという。精神障害当事者の「寺川さん」は生徒たちには有名人である。岡山市では、平成27年度「こころの健康早期支援事業」を開始し、京山中学校を最初のモデル校とした。

(5) どんな困難や課題がありましたか(または、ありますか)？

1) 「こころの病気を学ぶ授業」は、それでも最初からすぐ実現できた訳ではない。話し合いを繰り返し、校長先生が「やるべきだ」と表明し、決まった。

2) 地域との関係では、「(病院の)中の様子が分からない」とか、無断で他人の家に上がり込んでいた「事件」もあったという。地道な交流の中で少しずつ理解者が広がってきたという。そして「誰でもなる可能性がある病気」と認識されてきたという。

(6) 今後は、どのような取り組みをしていきたいですか？

1) 「こころの病気を学ぶ授業」は、県下全中学校に普及したという。なかでも当事者の体験スピーチは人気で、幾つかの中学校でも始まっている。

2) 地域との関係では、精神障害当事者への理解だけではなく、地域に貢献できる施設にしていきたい。

(7) その他、地域啓発に関して強調したいメッセージがありますか？

「ひまわり」は花言葉で、未来や希望を表す。啓発活動は継続することで実を結び、花を咲かせると思っています。

【4】調査者のコメント

岡山市では、昔から「仏の慈恵、地獄の万成」という言葉があるという。地域に精神科病院が出来た60年前は、のどかな町にこつ然と建った病院が、異様に近寄りがたい存在であったと町内会長は話す。病院の建設に理解を示す住民は1割もいなく、9割が反対だったという。それが20年前に賛成と反対は半々に変化し、今では賛成が90%以上という。この変化は、地道な学校や地域社会との交流で見えない「壁」を取り除き、薄めていったものである。

「差別するな」と声高に叫ぶより、地道な交流を積み重ねて、ありのままの精神障害者を知ってもらうことが何よりも大切なことを我々に教えてくれる。偏見をなくす取り組みで、「リリー賞」や「ベストプラクティス賞」（日本精神障害者リハビリテーション学会実践賞）も受賞している。

施設長である田渕さんの存在も大きい。彼女は山陽放送のアナウンサーであった職場から、平成15年に精神保健福祉士として万成病院に転職し、現在に至っている。マスコミ、メディアへの働きかけのセンスは彼女に依るところが大きい。地域では、代変わりしても学校関係者、民生委員、町会長など理解の輪が広がっている。



こころの病気を学ぶ授業風景



地域交流活動の様子



農園で葡萄の袋詰め作業のお手伝いの様子

調査日 2017年 2月 22日
調査者 田中 英樹

事例9. 障害者地域活動支援センター のぞえの杜

【1】団体概要

- (1) 団体区分 地域施設
- (2) 団体種別 医療法人
- (3) 所在地 福岡県久留米市
- (4) 設立年月 2011年 10月
- (5) インタビュー対応者
 - 松下 航 (久留米市南部障害者基幹相談センター 相談支援専門員)
 - 新城 岬 (障害者地域活動支援センター のぞえの杜)
 - 原口 泰裕 (同上)
 - 齋藤 希美 (同上)

【2】主たる事業または活動、プログラム

相談業務、スポーツ交流活動、地域啓発事業、学校への出前講義、市民向け講演会、夏祭り・盆踊りなど地域行事への参加、町会・自治会活動への協力・参加、ピアサポート事業、ピアカウンセリング、広報誌・機関紙掲載、演劇・映画・絵画・音楽演奏などの文化活動、イベント（地域交流ペタンク大会）

【3】地域啓発の取り組み

- (1) どんな取り組みをしていますか？

地域啓発では、実際に住民や子どもたちが精神障害者とふれあう体験を重視している。精神科病院の隣に、地域の青陵中学校（2年生3クラス全部）と佑誠高校（1年生・2クラス）があり、交流している。中学校、高校ともに、「こころの授業」を毎年実施している。今年心理劇も実施した。高校とは、職場実習体験の受け入れもしている。また、平成22年から病院の体育館で「ペタンク大会」を実施している。これは地元の町内会長も協力して頂き、町内会館も貸してくれ、賞品も提供頂いた。校区の文化祭にも参加している。地域活動では、この他にも、「野添おてつだい屋」といって、地域の高齢者宅へゴミ出しや犬の散歩に毎週2回訪問したり、不定期に草取りや植木の剪定、引っ越しや家の片付け、不要品のリサイクルなども行っている。

また、「のぞえの森」という新聞を月1回発行（部数350部）し、地域や関係機関にも配布している。市社協と連携してボランティア養成講座も実施している。

(2) 始めたきっかけは何かありますか？

この地域には、病院を退院した患者さんたちが 200 人くらい住んでいる。以前は、トラブルで警察に通報されたこともあった。学校の敷地内に立ち入り、「不審者」と思われたこともあった。こうした地域でのトラブルがきっかけで、精神科病院が隣にあるのにどんな病気なのかを分からないということで、中学校の先生向きに研修会を始めた。その後、先生たちから生徒にもお願いしたいという話があり、平成 11 年 10 月から始まった。始めた頃の中学校の前校長が熱心に協力してくれた。また特別支援学級の先生たちが調整役をしている。市内の全中学校 17 校の養護教員を対象にした研修を実施している。高校は職員の恩賜が教師をしていたことで平成 15 年からスムーズに始めることができた。

(3) いつから始めましたか？

精神障害者地域生活支援センターとして開設した平成 11 年からまず学校と結びついた福祉教育を展開してきた。また地域では、地域の清掃ボランティア（週 1 回）も始めた。この清掃活動は、平成年に久留米市から表彰を受け、平成 28 年には県からも表彰を受けた。

(4) どんな成果や変化があがっていますか？

地域全体への啓発・浸透はまだまだである。地域で意識の高い人は、退職後の高齢者が多い。よく精神障害者とふれあう機会があるからだと考える。地元の老人クラブともグランドゴルフ交流等をしている。子どもたちも理解が進んでいる。こころの授業は、中学、高校共に、年 2 回に分けて実施している。プログラムは、座学と当事者の体験談、グループワークである。生徒たちも変化するし、父兄にもいい影響が出ている。とくに、当事者の生の生活体験が一番講評で、私たちのセンターには当時者スタッフが 2 名いるので、体験談を子どもたちは目を輝かして真剣に聞いてくれる。

(5) どんな困難や課題がありましたか（または、ありますか）？

地域の中には偏見が強い人が何人かはいる。その人は何かあるとすぐに苦情を言ってくる。感覚的ですが地域の中で、1 割は偏見があるのでは、逆に 1 割の住民はすごく理解してくれる。残り 8 割が無関心層と思われる。ここへ様々な形で働きかけることが必要。かつて、「パンツ泥棒」事件があったときに、この地域は危険地区と言われたこともある。

(6) 今後は、どのような取り組みをしていきたいですか？

地域連絡会議を持っている。この会議は医療機関や地域施設だけでなく、民生委員、町内会長、教員、市役所、市議会議員も入っている。地域の夏祭りや盆踊り大会なども参加しているが、今後は、地元の企業に障害者雇用を増やしたい。

(7) その他、地域啓発に関して強調したいメッセージがありますか？

精神だけに限らず、障害者と関わる、ふれあう機会を増やすことが一番と考える。その意味でも、雇用は大事。そして子どもたちの教育から始めるの

は最初の一步と考える。

【4】調査者のコメント

視察した地域施設、コミュニティカフェ「のぞえの杜」は国道3号線に面している。道路を挟んで真向かいに地域活動支援センター1型がある。その奥に野添総合こころの医療病院がある。インタビューを伺った場所は、おしゃれなコミュニティカフェで、就労継続支援事業B型の指定を受けている。軽食やコーヒーなどのソフトドリンクのメニュー、そして手作り雑貨などが置いている。来年度は、ここが市の基幹相談支援センターになる予定とのこと。現在、精神保健福祉士3名、ピアスタッフ2名の体制である。それでも、地域活動支援センターは精神障害者を含む障害者のための相談支援活動だけではなく、障害者が地域と共に暮らすために、地域啓発事業には特段に力を入れている。スタッフは皆若く、「夢を語る会」を昨年までしていたという。いまは夢を語るだけでなく、実現する方向に力を入れている様子である。



コーヒー豆の選定



カフェ内の風景



カフェ外観の風景

調査日 2017年2月22日

調査者 田中 英樹

事例 10. 熊本市障がい者相談支援センター ウィズ

【1】団体概要

- (1) 団体区分 地域施設
- (2) 団体種別 その他（一般財団法人）
- (3) 所在地 熊本県熊本市中央区
- (4) 設立年月 2006年4月
- (5) インタビュー対応者 秋成 洋（精神保健福祉士・施設長）

【2】主たる事業または活動、プログラム

相談業務、訪問活動、地域啓発事業、学校への出前講義、夏祭り・盆踊り、校区体育会など地域行事への参加、町会・自治会活動への協力・参加、ピアサポート事業、ピアカウンセリング、広報誌・機関紙掲載、その他（利用者 211名）

【3】地域啓発の取り組み

- (1) どんな取り組みをしていますか？

主な活動は、地域イベント（地域の運動会、秋祭りなど）の参加・交流、広報誌の回覧板掲載、地元の小学校4年生（道徳の時間）に障害者の理解教育に行っている。総合的学習の時間での体験学習なども行っている。特に子どもは親に話してくれるので、効果的と考える。また、女性のピアグループがあり、ラジオ番組等にも出た。

- (2) 始めたきっかけは何かありますか？

2年前に現在の所在地に移転したため地域とのつながりを意識するようになった。また行政からも地域交流・啓発を行うよう指導があったため対応した。

- (3) いつから始めましたか？

平成27年3月にこの場所へ移転したが、11年前に病院の敷地内に生活支援センターを設立した当初は、まったく地域とのかかわりがなかった。

- (4) どんな成果や変化があがっていますか？

地域よりイベント参加の誘いがある。また、通所してくる利用者は若い人や元ひきこもりが多い。最近、青明病院の患者さんは、利用者の20%と少なくなっている。

- (5) どんな困難や課題がありましたか（または、ありますか）？

限定的なここの地域しか啓発出来ない。

(6) 今後は、どのような取り組みをしていきたいですか？

1) マスコミへのアプローチを意識してやっていきたい。利用者に全盲のスタッフがいたので、マスコミに取り上げられる機会も多い。

2) 地域に引きこもっている高齢化した障害者が多い(8050問題)ので、そこにも関わりたい。

3) 小学校への障害者理解教育を拡げたい。

(7) その他、地域啓発に関して強調したいメッセージがありますか？

イベントでの出店を大事にしたい。講演活動で意識が変わると思えない。

ボランティアは120名で、半分は学生。近くに、熊本学園大学、ルーテル学院大学がある。また、ビューティサロン(美容学校)を実施しているが、資生堂のスタッフも来てくれる。ここは、全ての障害者支援を基本としている。

最近では就労継続支援事業A型でも、訓練給付を最低賃金に回している事業所が多くて、困っている。事業収入では最低賃金を払えない事業所が多い。

【4】調査者のコメント

市内では、主な利用者が精神障害者という母胎の地域活動支援センターはこの施設だけである。国道に面しており、目の前がバス停留所なので、見てくれたり、ここ何やっているのかと覗きに來たりする住民もいる。この地域へ移転したときも、反対運動は全くなかった。地域啓発に力を入れて取り組んでいるというよりも、ごく自然に地域に関わっている印象を受けた。熊本震災のときは、一時、トイレが使えなただけで大きな被害はなかったという。ただ、脳が興奮したのか、一時、利用者が増えたという。そしてこの施設はむしろ東区などへ出かけ災害支援活動に参加した。

スタッフは、男性3名、女性4名でみんな若い。障害のあるスタッフもいて、雰囲気はリラックスできる環境である。



ウィズ外観



作業風景



ビューティサロン風景



学校への出前講義

資 料

資料 1. 調査票（平成 28 年度厚生労働省障害者総合福祉推進事業費補助金事業「精神障害者に対する国民の理解の深化及び家族支援」に関する取り組みの実態調査）

資料 2. 報告書雛形（地域啓発実践事例調査報告書）

平成 28 年度厚生労働省障害者総合福祉推進事業費補助金事業
「精神障害者に対する国民の理解の深化及び家族支援」に関する取り組みの実態調査

◆◆◆ 記入上の注意 ◆◆◆

- ・この調査票は、全国の保健所（全数）・地域活動支援センター（無作為抽出で 300 か所）・地域家族会（地域別層化無作為抽出で 300 か所）にお願いするものです。
- ・この調査結果は、あくまで統計的に処理いたしますので、個人及び団体・機関が特定されることはありません。
- ・お忙しいところ誠に恐縮ですが、同封の返信用封筒（切手不要）にて、平成 28 年 12 月 10 日までに送付ください。
- ・この調査票は、メールでの回答をご希望の方は、PDF に変換して下記のメール宛にお願いします。
- ・アンケートについて、ご不明な点がありましたら、下記事務局までお問い合わせください。
【記入に関する問い合わせ先・アンケート返送先（メール）】
公益社団法人日本精神保健福祉連盟 障害者総合福祉推進事業研究調査担当事務局
〒108-8554 東京都港区芝浦 3-1-5-14 日精協会館内
電話 03-5232-3308 F A X 03-5232-3309
E メール f-renmei@nisseikyo.or.jp

- ◆ 調査票の内容について確認させていただく場合がありますので、この調査票をご記入いただいた部署及び氏名の連絡先をご記入ください。

貴機関・団体名： (保健所・地域施設・家族会)

部署名(氏名) (氏名：)

電話番号(Eメール) (Eメール)

◆◆◆◆◆ 調査内容 ◆◆◆◆◆

※該当する番号に丸印で記入してください。

A 病名呼称（2003 年；精神分裂病から統合失調症へ）による変化（重複回答も可）

1. 病名をご本人や周りの人にも話しやすくなった
2. 病気の説明がしやすくなった
3. 病気の理解がすすんだ
4. 病気からの回復の可能性に期待が増えた
5. 病名が変わっても、病気の見方は以前と変わらない

資料 1

B 事件報道などのマスコミ報道の変化

1. 大きく改善された 2. 少しではあるが改善された 3. 以前と変わらない 4. むしろ少し悪くなった 5. 以前より相当、悪くなった

C 「精神保健医療福祉の改革ビジョン」では、達成目標の一つとして「精神疾患は生活習慣病と同じく誰もがかかりうる病気であることについての認知度を 90%以上とする」と示しています。あなたの印象と認知度はビジョン通り進んでいると思いますか。

1. そう思う	2. そう思わない
---------	-----------

D 精神障害者に対する差別や偏見の変化

1. かなり良くなった 2. 少し良くなった 3. 以前と変わらない 4. 少し悪くなった 5. かなり悪くなった

E 現在取り組んでいる内容（重複回答も可、該当しない項目は記入しないでください）

1. 普及啓発活動	1) 広報誌・機関紙への掲載 2) ホームページへの掲載 3) 講演会・シンポジウム 4) 専門職による市民への出張授業・出前講座 5) 専門職向け研修会 6) その他()
2. 当事者（家族を含む）とのふれあい	1) 体験発表 2) 学校の授業にゲストスピーカーとして招く 3) 市民向けの講演会やシンポジウムに当事者が登壇 4) スポーツを通じた地域交流会 5) 当事者による地域貢献活動 6) その他()
3. イベント活動	1) 当事者参加でのバザーの実施 2) 福祉まつり・健康祭り 3) 障害者週間での行事实施 4) 夏祭り・盆踊り 5) スポーツ大会 6) 様々な公演・映画会・絵画展 7) その他()
4. 地域の組織化	1) 精神保健福祉ボランティアの養成 2) 家族会の支援 3) 当事者グループの支援 4) 市民型支援組織づくり 5) 関係機関の連絡組織づくり 6) その他()

5. 社会への働きかけ	1) マスコミ報道への改善申し入れ 2) 知らせたい取り組みなどのマスコミ活用 3) 施設建設反対運動への働きかけ 4) 町内会・自治会への協力依頼 5) 民生委員・児童委員への協力依頼 6) 教育機関への働きかけ 7) その他()
6. 国への要望	1) 啓発普及予算の増額 2) 差別・偏見の実態調査 3) 差別による被害の相談と救済 4) パンフレットなど啓発資料の作成 5) 精神障害者福祉手帳サービスの改善 6) TV コマーシャル 7) その他()
7. その他	

F 今後、実施したい取り組み（重複回答も可）

1. 普及啓発活動	1) 広報誌・機関紙への掲載 2) ホームページへの掲載 3) 講演会・シンポジウム 4) 出張授業・出前講座 5) 専門職向け研修会 6) その他()
2. 当事者とのふれあい	1) 体験発表 2) 学校の授業にゲストスピーカーとして招く 3) 市民向けの講演会やシンポジウムに当事者が登壇 4) スポーツを通じた地域住民との交流会 5) 市民と当事者が共催するイベント 6) 当事者による地域貢献活動 7) その他()
3. イベント活動	1) 当事者参加でのバザーの実施 2) 福祉まつり・健康祭り 3) 障害者週間での行事实施 4) 夏祭り・盆踊り 5) スポーツ大会 6) さまざまな公演・映画会・絵画展 7) その他()
4. 地域の組織化	1) 精神保健福祉ボランティアの養成 2) 家族への心理教育 3) 家族会の支援 4) 当事者グループの支援 5) 市民型支援組織づくり 6) 民生・児童委員向けの研修会 7) その他()
5. 社会への働きかけ	1) マスコミ報道への改善申し入れ 2) 知らせたい取り組みなどのマスコミ活用 3) 施設建設反対運動への働きかけ 4) 町内会・自治会への協力依頼 5) 民生委員・児童委員への協力依頼 6) 教育機関への働きかけ 7) その他()

資料 1

6. 国への要望	1) 啓発普及予算の増額 2) 差別・偏見の実態調査 3) 差別による被害の相談と救済 4) パンフレットなど啓発資料の作成 5) 精神障害者福祉手帳サービスの改善 6) TV コマーシャル 7) その他 ()
7. その他	

G 家族支援のために取り組んでいる内容（重複回答も可）

1) 新しい情報や制度の周知 3) 家族心理教育の実施 5) 家族向けのレクリエーションの実施 7) 医療費等の経済的支援	2) 家族支援教室の実施 4) 地域家族会の支援 6) 家族の集まれる場所や便宜の提供 8) その他 ()
--	---

H 家族支援に関する要望（重複回答も可）

1) 新しい情報や制度の周知 3) 家族心理教育の実施 5) 家族向けのレクリエーションの実施 7) 医療費等の経済的支援	2) 家族支援教室の実施 4) 地域家族会の支援 6) 家族の集まれる場所や便宜の提供 8) その他 ()
--	---

I 差別を解消するためのその他の意見（特記事項や要望など）

J その他（特に力を入れている事業をご紹介して下さい）

(※個別に現地での視察調査にご協力いただけますか) 1) はい 2) いいえ

調査は以上で終わりです。お忙しいところご協力ありがとうございました。

地域啓発実践事例調査報告書

調査日 2017年 月 日

調査者（氏名）

【1】団体概要（該当を○印）

(1) 団体区分 市町村 保健所 地域施設 医療機関 当事者会
地域家族会 その他の団体（ ）

(2) 団体種別 行政機関 社会福祉法人 NPO 法人 医療法人
普通法人 任意団体 その他（ ）

(3) 所在地 都道府県 市町村
町名 丁目 番地
ビル名

(4) 設立年月 (西暦) 年 月

(5) インタビュー対応者（氏名）（所属での役割）

【2】主たる事業または活動、プログラム（該当にすべて○印）

相談業務 訪問活動 デイケア活動 スポーツ交流活動
居宅介護事業 グループホーム 会員相互支援活動 会員学習会
地域啓発事業 学校への出前講義 市民向け講演会 バザー活動
夏祭り・盆踊りなど地域行事への参加 町会・自治会活動への協力・参加
ピアサポート事業 ピアカウンセリング 広報誌・機関紙掲載
就労移行支援事業 就労継続支援事業（A型） 就労継続支援事業（B型）
演劇・映画・絵画・音楽演奏などの文化活動 募金活動
署名活動 行政交渉 イベント（ ）
啓発パンフレット作成・配布 マスコミへの働きかけ
その他（ ）

【3】地域啓発の取り組み

(1) どんな取り組みをしていますか？

資料2

(2) 始めたきっかけは何かありますか？

(3) いつから始めましたか？

(4) どんな成果や変化があがっていますか？

(5) どんな困難や課題がありましたか（または、ありますか）？

(6) 今後は、どのような取り組みをしていきたいですか？

(7) その他、地域啓発に関して強調したいメッセージがありますか？

【4】 調査者のコメント（400字以内）

厚生労働省 平成 28 年度 障害者総合福祉推進事業
「地域における精神障害者に対する国民の理解の深化及び
家族支援の方策に関する研究」 検討委員会名簿

No.	氏 名	所 属
1	大西 守 (研究管理責任者)	公益社団法人日本精神保健福祉連盟
2	田中 英樹 (研究代表者)	早稲田大学 人間科学部
3	上野 容子	社会福祉法人豊芯会
4	伊東 秀幸	田園調布学園大学 人間福祉学部
5	呉 恩恵	早稲田大学 人間科学部
6	澤田優美子	日本社会事業大学 大学院社会福祉学研究科
7	篠崎 安志	横浜市西区役所 高齢・障害支援課
8	白石 弘巳	東洋大学 ライフデザイン学部
9	半澤 節子	自治医科大学 看護学部
10	野村 忠良	公益社団法人 全国精神保健福祉会連合会(みんなねっと)

厚生労働省 平成 28 年度 障害者総合福祉推進事業

「地域における精神障害者に対する国民の理解の深化及び
家族支援の方策に関する研究」についての報告

発行日 平成 29 (2017) 年 3 月

発行者 公益社団法人 日本精神保健福祉連盟
会長 鮫島 健

発行所 公益社団法人 日本精神保健福祉連盟
〒108-0023 東京都港区芝浦 3 丁目 15 番 14 号
TEL : 03-5232-3308 FAX : 03-5232-3309
